

知 床 白 書



平成22年度 知床世界自然遺産地域年次報告書

知床世界自然遺産地域科学委員会事務局

知床世界自然遺産地域連絡会議事務局

環境省釧路自然環境事務所

林野庁北海道森林管理局

北 海 道

目 次

I	知床世界自然遺産地域の管理について	
1.	管理の目的と手段	1
2.	管理の対象分野と管理方針	2
3.	管理方針に基づく管理目標	2
4.	遺産地域の管理区域	4
II	知床世界自然遺産地域における課題	5
III	平成 22 年度 知床世界自然遺産地域における主な動き	6
IV	平成 22 年度 知床世界自然遺産地域の利用状況	
1.	知床世界自然遺産地域におけるレクリエーション利用の状況	8
2.	知床世界自然遺産地域における第一次産業の状況	22
V	平成 22 年度 知床世界自然遺産地域管理計画の実施状況	
1.	知床地域におけるハード事業の実施状況	24
2.	知床地域の保全管理（ソフト事業）の状況	56
3.	各種会議等の開催状況	96
	付録	101

I 知床世界自然遺産地域の管理について

1. 管理の目的と手段

○管理の目的

知床世界自然遺産地域の価値は、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本であり、多様な野生生物を含む原生的な自然環境が維持されていることである。

管理の目的は、遺産地域の価値を後世に引き継ぐために維持し、地域の主要な産業である観光を始めとするレクリエーション利用と自然環境保全の両立、及び水産業による水産資源の持続可能な利用を図ることである。

○管理の手段

遺産地域では5つの手段を用いて管理を実施している。

1) 地域との連携・協働による管理

日常的に遺産地域の保全や利用に関わっている地元自治体、関係団体及び地域住民による現場の視点を遺産地域の管理に活かしていくため、連絡調整の場として「知床世界自然遺産地域連絡会議」を設置し、多様な主体の参画による遺産地域の管理を実施している。

2) 順応的管理

遺産地域の生態系は複雑で将来予測が不確実であるため、生態系に関するモニタリングや調査研究を実施し、その結果に応じて遺産地域の管理方法を柔軟に見直す必要がある。科学的な立場から助言を得る機関として「知床世界自然遺産地域科学委員会」を設置し、順応的な管理を進めている。

3) 陸域及び海域の統合的管理

遺産地域を取り巻く陸域と海域の生態系の連続性、健全性をモニタリングし、自然環境に影響を及ぼすような変化の兆候が認められた場合には、原因の分析と環境回復に向けた対策を検討し、所要の措置を講じるなど、陸域と海域の生態系の保全管理を統合的に実施することとし、そのための連携・協力体制の構築、情報交換、人材の育成や確保を図っている。

4) 地域区分による管理

遺産地域の原生的な自然環境が保全されている地域（A 地区）については、将来にわたり厳正な保護管理を図る地域とし、原則として人手を加えず自然の推移に委ねることを基本とし、観光や漁業活動等の人為的活動と共存する形で自然環境が維持されている地域（B 地区）については、自然環境の保全と遺産地域の価値を損なわない持続可能な観光や漁業活動等の利用との両立を図ることとし、地区に応じた管理を実施している。

5) 広域的な視点による管理

遺産地域の生態系と共通性や連続性を有する遺産地域の隣接地域や、遺産地域の生態系に影響を及ぼす地球規模での気候変動等についても視野に入れつつ、管理を行っている。

2. 管理の対象分野と管理方針

管理計画では、管理の目標を達成するために、取組むべき6つの分野を定め、分野ごとに管理方針を設定している。

1) 陸上生態系及び自然景観の保全

原則として自然状態における遷移に委ねることを基本とし、特定の生物や人為的活動が生態系に著しく悪影響を及ぼしている場合は、これらの影響を緩和させるための有効な対策を講じていく。

2) 海域の保全

「知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画」に基づき、海洋環境と提示生産、沿岸環境、魚介類、海棲哺乳類、海鳥、海ワシ類、海洋レクリエーションについて管理を行う。

3) 海域と陸域の相互関係の保全

河川環境が、遡河性の魚類をはじめ多様な生物を育み、水循環、物質循環を通じて、海洋生態系と陸上生態系を有機的に繋ぐ重要な役割を有しているため、河川環境の保全及びサケ科魚類の持続的な利用と保全を推進することで海域と陸域の相互関係の保全を図る。

4) 自然の適切な利用

遺産地域内のレクリエーション利用については、世界自然遺産としての価値を将来にわたって損なうことのないようにすることが必要であり、遺産地域では原生的な自然環境を保存・保全しつつ人々に感銘を与える質の高い利用機会を提供する。

5) 気候変動の影響への対応

北半球で最も低緯度の海水域であることを一つの特徴とする遺産地域にも影響を与えることが懸念されていることから、遺産地域で実行可能な気候変動の影響への適応策を検討し、実施する。

6) 情報の共有と普及啓発

遺産地域の適切な管理を行うためには、地域住民、観光等による利用者並びに国際機関や他の保護地域の関係者といった対象ごとに効果的な情報の共有と普及啓発の手段を検討する。

3. 管理方針に基づく管理目標

管理計画では、主に分野ごとの管理方針に基づいて、66項目の具体的な管理目標を定めている（付録表1）。各対象分野等で設定されている管理目標の数は以下のとおりである。

1) 陸上生態系及び自然景観の保全……26項目

①植物	②動物	③自然景観の保全	④外来種への対応
7項目	14項目（以下の項目を含む）	2項目	3項目
	エゾシカ	2項目	
	ヒグマ	2項目	
	シマフクロウ	3項目	
	オジロワシ・オオワシ	2項目	

2) 海域の保全…… 1 項目

3) 海域と陸域の相互関係の保全…… 2 項目

- | | |
|----------|--------------|
| ①河川環境の保全 | ②サケ科魚類の利用と保全 |
| 1 項目 | 1 項目 |

4) 自然の適切な利用……24 項目

- | | | |
|---------|-------------|--------------------|
| ①利用の適正化 | ②エコツーリズムの推進 | ③主要利用形態毎の対応方針 |
| 3 項目 | 2 項目 | 19 項目（以下の項目を含む） |
| | | 観光周遊 7 項目 |
| | | 登山・トレッキング 3 項目 |
| | | 海域のレクリエーション利用 5 項目 |
| | | その他の利用 4 項目 |

5) 気候変動の影響への対応…… 1 項目

6) 情報の共有と普及啓発…… 3 項目

その他の管理目標は、下記の具体的な管理手段について定められている。

○遺産地域の管理に係る関係行政機関及び地元自治体の体制…… 1 項目

○保全・管理事業の実施…… 4 項目

- | | | |
|-------------|-------------|------------------------------|
| ①関係機関等による巡視 | ②保全・管理事業の実施 | ③知床世界遺産センター
その他の主要施設の運営方針 |
| 1 項目 | 2 項目 | 1 項目 |

○調査研究・モニタリング…… 3 項目

○年次報告書の作成…… 1 項目

4. 遺産地域の管理区域

【A 地区】：主に、原生自然環境保全地域、国立公園特別保護地区及び第 1 種特別地域、森林生態系保護地域保存地区並びに国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されている。

【B 地区】：主に、国立公園特別保護地区、特別地域及び普通地域、森林生態系保護地域保全利用地区並びに国指定鳥獣保護区に指定されている。



Ⅱ 知床世界自然遺産地域における課題

○増えすぎたエゾシカ

高密度のエゾシカによる採食圧は知床世界自然遺産地域（以下「遺産地域」という）の環境に様々な影響をもたらしている。越冬地を中心とした樹皮食いによる特定樹種の激減と更新不良、林床植生の現存量低下と多様性の減少、そして遺産地域の特徴的な植生である海岸性の植生群落とそれに含まれる希少植物の減少などである。エゾシカの高密度状態がさらに長期化する場合、希少植物種や個体群の絶滅、高山植生への影響、急傾斜地の土壌浸食等が懸念されている。

○海洋資源の持続可能な利用について

主要な水産資源については、漁業関係法令や漁業者・漁業団体の自主的な取組により、資源の管理・利用に関する規制や資源の増殖などが行われており、資源の状況と漁獲のバランスを保ち、持続的な利用が可能となるよう多大な努力が払われてきている。

しかし、根室海峡におけるスケトウダラの漁獲量については、1989年の漁獲量の1割以下の低水準で推移しており、平成22年度の漁獲量は過去最低を記録するなど、資源量の減少が懸念されている。根室海峡においては、ロシアのトロール船がスケトウダラの同一系群を漁獲しており、漁業資源及び海域生態系への影響が懸念されているため、可能な限りロシアの資源管理等に関する情報収集等を行っていくとともに、海洋生態系保全等に関する情報交換などの働きかけが必要である。

○レクリエーション利用と自然環境保全の両立

遺産地域及びその周辺地域には、年間約180万人の利用者が訪れるが、主たる利用形態はマストゥーを中心とする一般的な観光利用であり、知床五湖等の特定の自然観光資源に利用が集中し、一部の地域では観光客の集中や交通渋滞、植生の踏み荒らし、ヒグマとの軋轢などの課題が生じている。また、希少猛禽類などの野生動物との接し方が確立されておらず、効果的な啓発がなされていないため、野生動物の生息への影響が懸念されている。さらに、ルールやマナーの啓発と違反指導のための巡視、指導体制の確立や利用者ニーズの多様化への対応、ガイドツアー率の向上なども課題である。これらの課題解決のため、知床地域全体としての観光利用に関する方針・戦略の策定が求められる。

○ヒグマと地域住民との軋轢

斜里町、羅臼町のヒグマ目撃件数は全道的にみても突出して多く、近年、人を恐れず避けないヒグマ個体が増加し、利用者とヒグマとの遭遇や住民の生活圏への出没が日常的に発生している。その結果、人家や道路付近への出没時の対応件数が増加するとともに、遊歩道などの頻繁な閉鎖や、農業・漁業被害が発生している。また、知床では利用者などによるヒグマへの餌付けや誘引物の放置、不用意な接近などが確認されており、こうした人間側の行動も問題個体の発生、ヒグマによる被害を生む一因となっている。さらに、ヒグマを観察したい利用者と事故を防ぐために活動している保護管理活動従事者との間の対立も重要な課題となっている。

Ⅲ 平成 22 年度 知床世界自然遺産地域における主な動き

1. 知床世界自然遺産登録 5 周年記念シンポジウムの開催

6 月 12 日（土）、13 日（日）の 2 日間にわたり、神奈川県横浜市の横浜ランドマークプラザにおいて、「2010 国際生物多様性年 知床世界自然遺産登録 5 周年記念シンポジウム」が開催されました。2 日間で総勢 267 名が参加し、知床世界自然遺産地域に加え、日本の世界自然遺産についても議論されました。

初日は「知床世界自然遺産 登録から 5 年間の歩みと未来」と題して、行政担当者と科学委員会の専門家により、知床世界自然遺産の登録から保全管理の取組まで、広範にわたるテーマが紹介されました。田島一成環境副大臣（当時）より冒頭挨拶を頂き、水中写真家の関 勝則氏に基調講演をして頂きました。

2 日目は「知床から小笠原へ 世界自然遺産地域の順応的な保全管理」と題して、世界自然遺産地域である屋久島と白神山地、世界自然遺産候補地であった小笠原の科学委員会の座長に集まって頂き、各地の取組などについて紹介して頂きました。

シンポジウムに関する詳細については、知床データセンターのホームページにてご覧下さい。
(<http://dc.shiretoko-whc.com/meeting/lecture.html>)



シンポジウムの様子



会場の様子

2. 知床五湖の 2 つの利用に向けた準備が完了

知床五湖は、原生的な自然景観の探勝を目的に年間約 50 万人の利用者が訪れる利用拠点です。しかし、多くの利用者が歩道に集中することによって歩道上の植物が影響を受けたり、特定の曜日や時間帯に多くの利用者が集中することで知床五湖の雰囲気が壊れてしまったりすることが課題でした。また、知床五湖はヒグマの生息地となっているため、ヒグマと利用者との軋轢や事故の防止が重要な課題でした。

そこで、知床五湖における利用者による環境悪化の改善と利用者の安全確保という課題を解決するため、地元関係者との議論を進め、地上歩道における利用調整の導入と、電気柵を備えた高架木道の整備を実施しました。これにより、知床五湖の利用システムが改変されます。平成 23 年度は、新しいシステムによる利用が開始される初年度になります。

知床五湖の新しい利用方法に関する詳細については、知床五湖のホームページをご覧ください。
(<http://www.goko.go.jp/>)



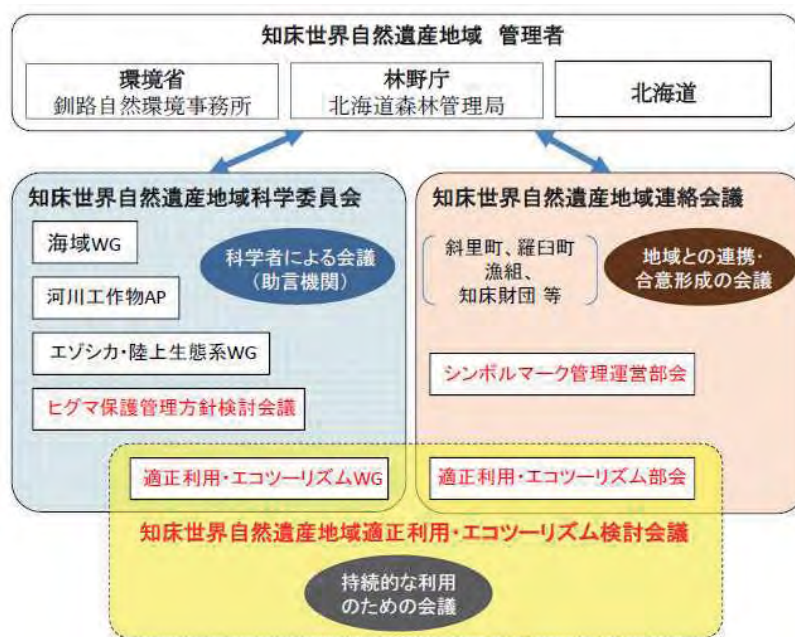
知床五湖の高架木道



知床五湖の地上歩道

3. 地域連絡会議と科学委員会の再編成

平成 22 年度より、地域連絡会議と科学委員会が再編され、知床世界自然遺産のシンボルマークを管理する会議、世界自然遺産地域としての利用を考える会議、ヒグマと人間の軋轢の解消を目的としたヒグマ対策をまとめる会議の、主に 3 つの会議が新設されました。また、科学委員会の委員のメンバーも変更されました。



平成 22 年度からの管理体制の模式図（赤字が再編で新たに組織された会議）

4. 知床半島におけるエゾシカ個体数調整の進展

平成 22 年度は、ルサー相泊地域において、エゾシカ捕獲手法の検討を実施しました。

5. 100 平方メートル運動の森・トラストの土地取得完了

100 平方メートル運動の森・トラストが、対象地内すべての土地取得を完了しました。

IV 平成 22 年度知床世界自然遺産地域の利用状況

1. 知床世界自然遺産地域におけるレクリエーション利用の状況

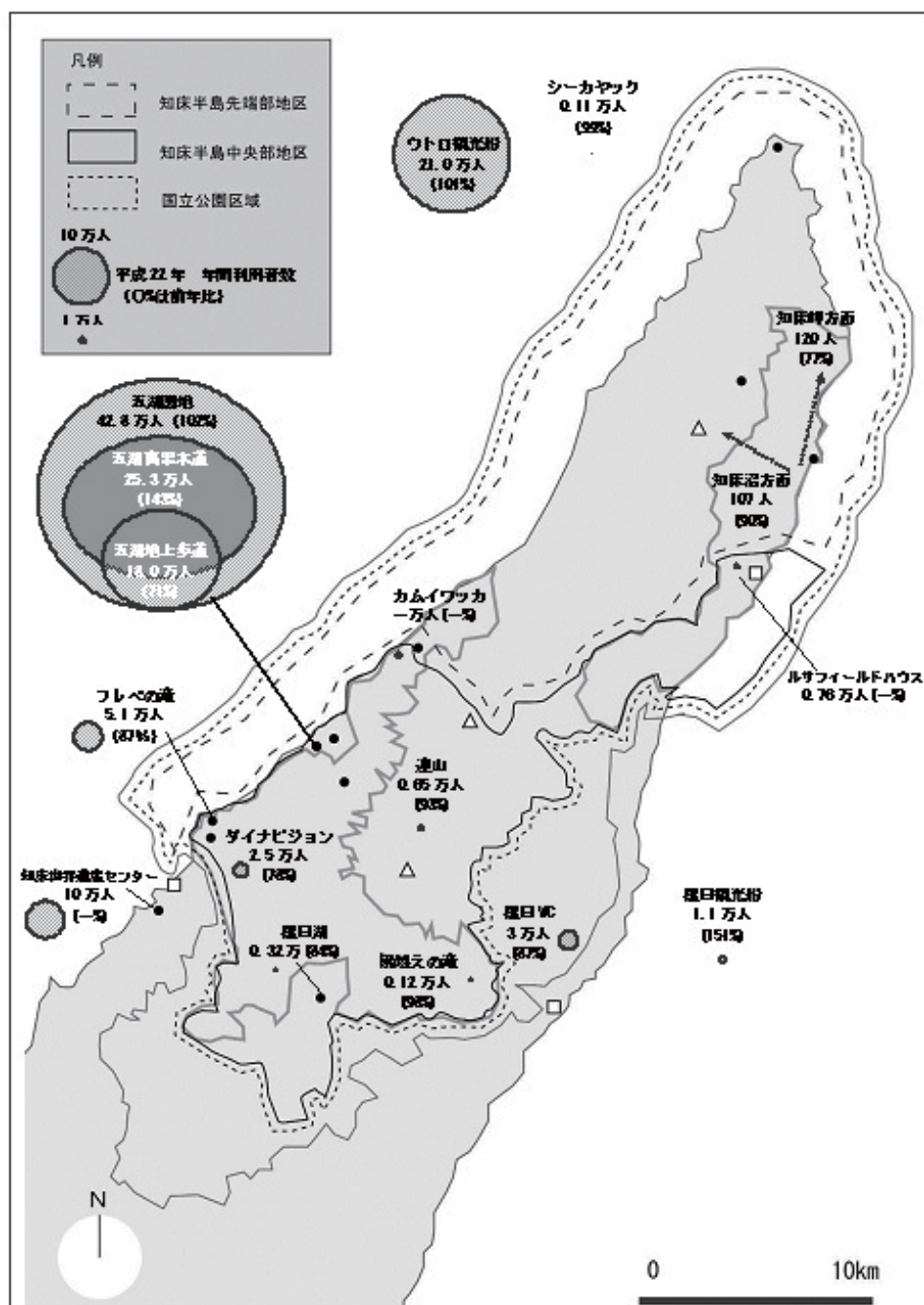
(1) 知床世界自然遺産地域の利用状況

平成 22 年度のオホーツク圏の観光利用は、高速道路無料化の影響や自動車道の延伸、知床の世界自然遺産登録 5 周年、知床旅情誕生 50 周年などの記念事業やその報道効果などにより、9 年ぶりに増加したとされている（北海道観光統計）。

知床地区のデータには増加傾向は見られず、全体的には微減傾向にある。一方で羅臼観光船の利用が延びており、新たな知床の観光として定着しつつある。

知床五湖においては、高架木道と地上歩道の利用割合が逆転した。今年度 6～7 月にかけて利用のコントロール実験（地上歩道の利用制限）を実施した影響も考えられる。

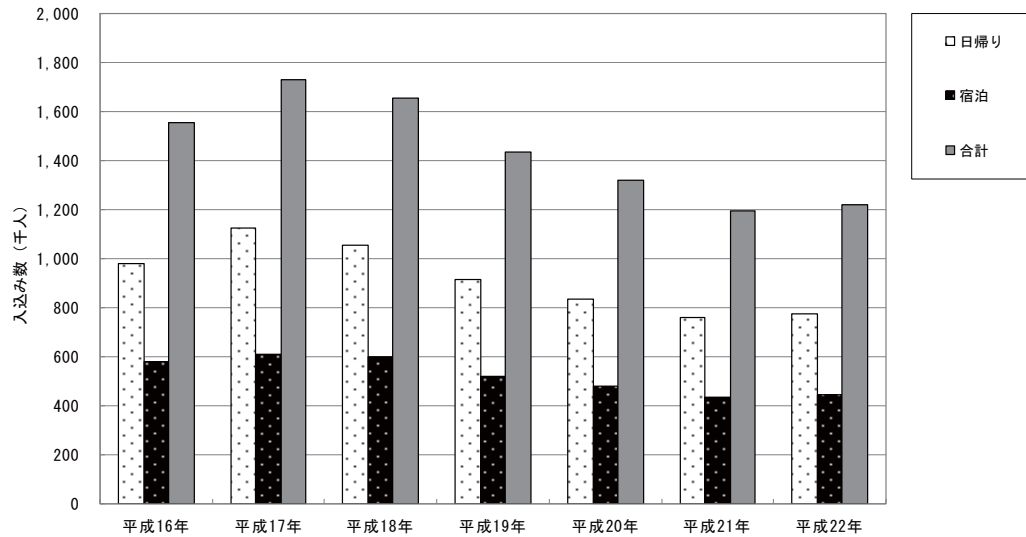
ダイナビジョンの減少が顕著であり、遺産センター等の建設や、ダイナビジョン自体の老朽化が起因していると考えられる。



1) 斜里町の観光入込み数

平成 22 年度の斜里町の入込み数合計は 1,219,493 人（前年比 102%）であり、ほぼ前年並みの利用となっている。（付録 表 2 年度・月別観光客入込み数）

グラフ：斜里町の観光客入込み数年次変化

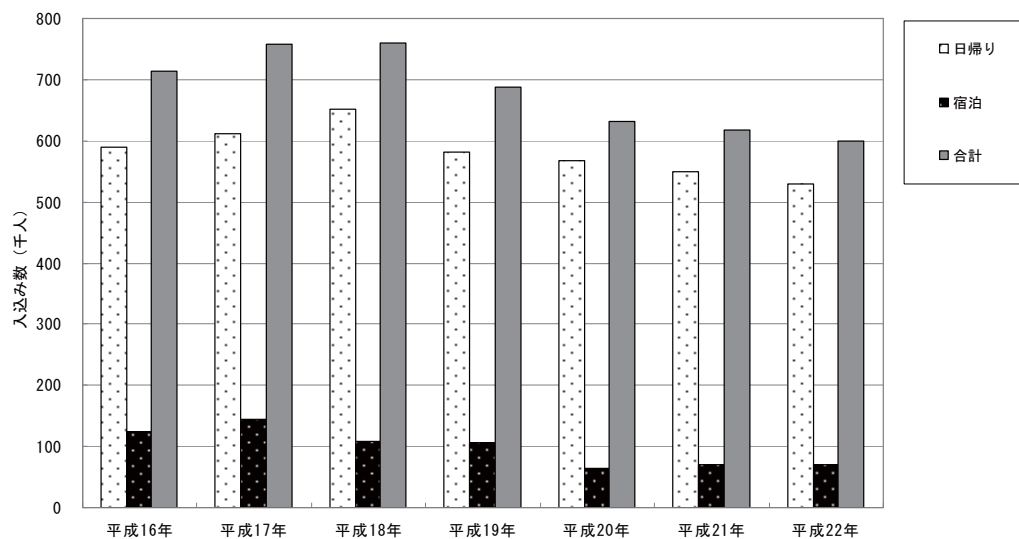


出典：斜里町商工観光課

2) 羅臼町の観光入込み数

平成 22 年度の羅臼町の入込み数合計は 599,640 人（前年比 97%）であり、ほぼ前年並みの利用となっている。（付録 表 3 年度・月別観光客入込み数）

グラフ：羅臼町の観光客入込み数年次変化



出典：羅臼町水産商工観光課

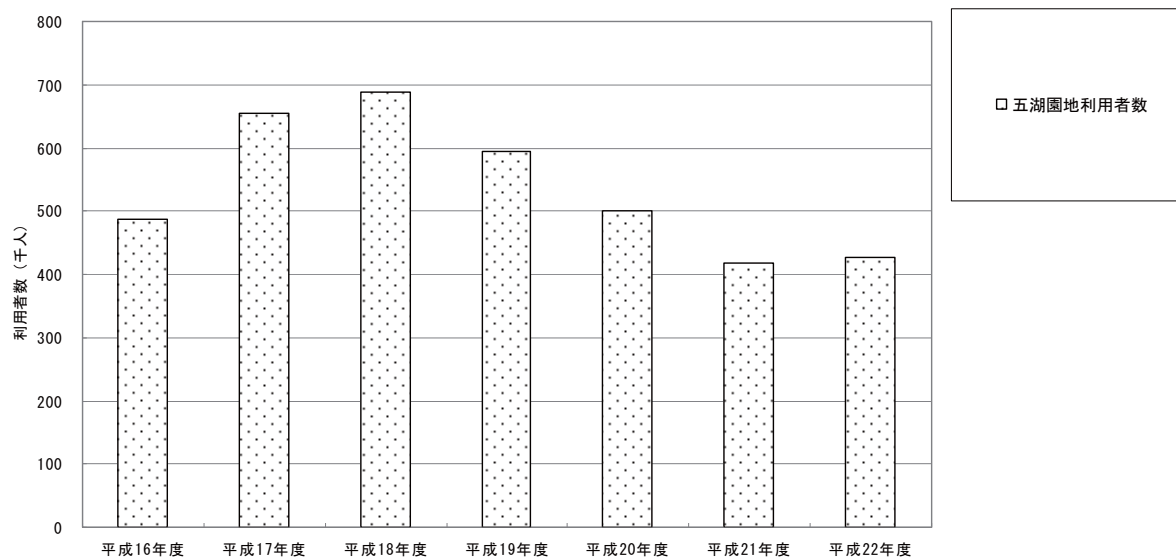
(2) 知床半島中央部地区の利用状況

1) 知床五湖地域

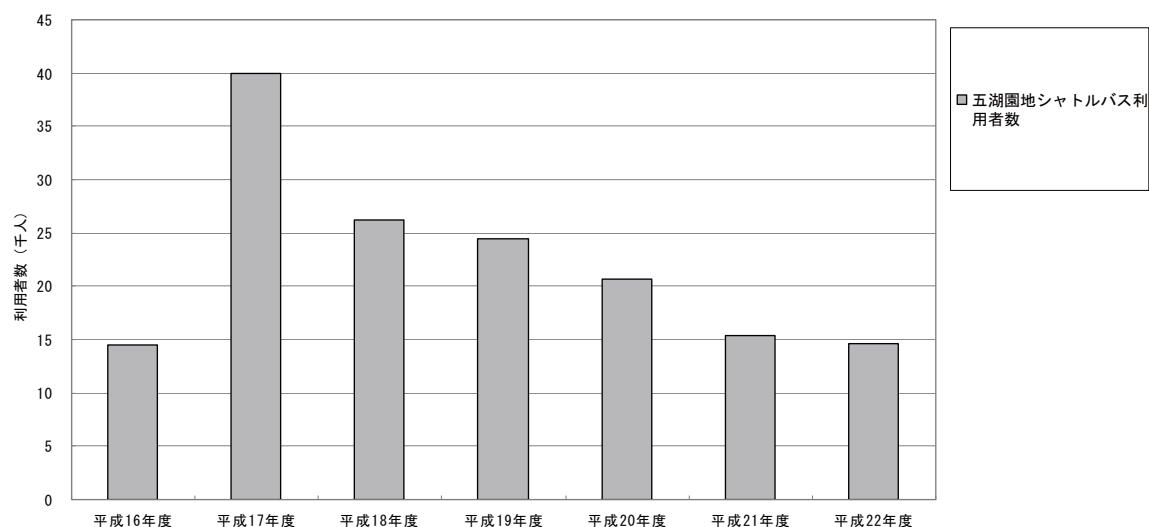
a. 五湖園地全体利用者数（駐車台数+シャトルバス利用）

五湖園地全体利用者数、五湖園地シャトルバス利用者数ともほぼ前年並みの利用となっている。（付録表4 年度・月別五湖園地全体利用者数）

グラフ：五湖園地全体利用者数年次変化



グラフ：五湖園地シャトルバス利用者数年次変化

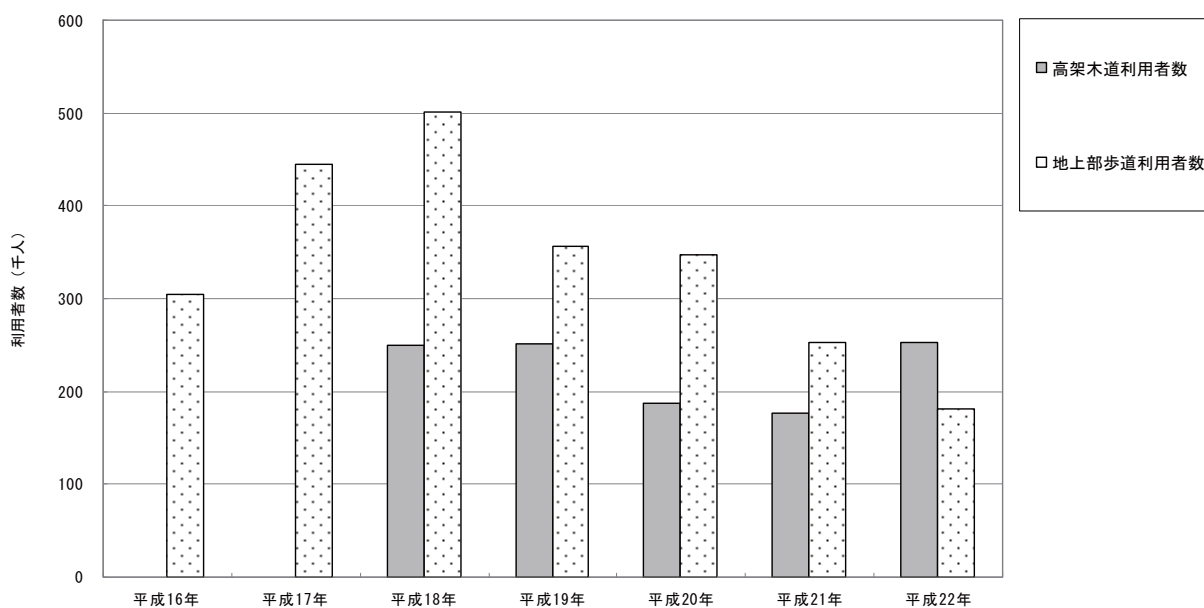


出典：自然公園財団及び斜里バス（株）

b. 高架木道・地上部歩道利用者数(五湖カウンター調査)

平成22年5～11月の高架木道利用者数は252,537人(前年度比143%)、地上部歩道利用者数は180,545人(前年度比71%)となった。6月19日～7月19日まで五湖の利用のコントロール実験を実施し、地上歩道の3～5湖の立入りが規制されたことの影響と考えられる。(付録 表5 年度・月別高架木道、地上部歩道利用者数)

グラフ：高架木道・地上部歩道利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

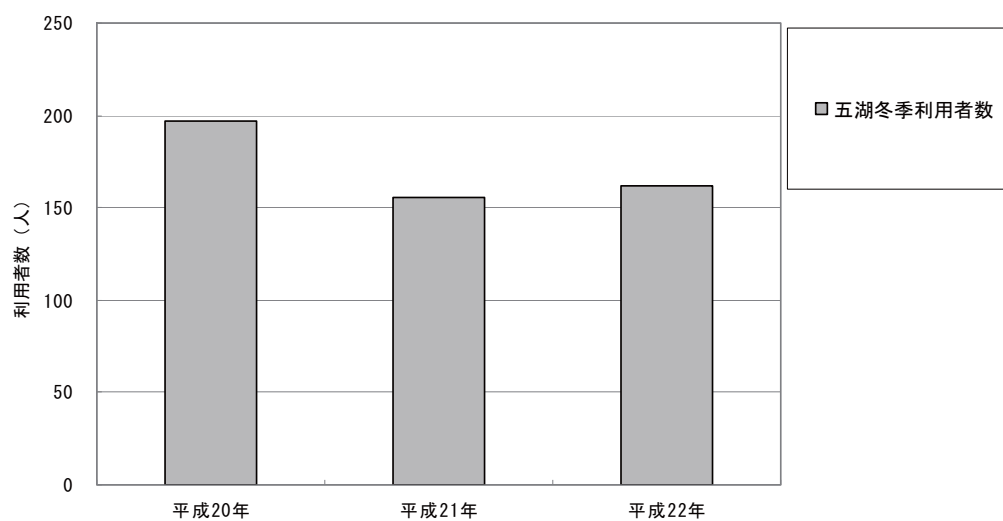
c. 冬季利用者数

ほぼ前年並みの利用となっている。

表：冬季利用者数

	グループ数	利用者数	備考
平成20年	49	197	平成20年2月1日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成21年	46	156	平成21年1月31日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成22年	46	162	平成22年1月30日～3月22日 52日間 利用者数には引率者も含む
前年比	100%	104%	

グラフ：冬季利用者数年次変化



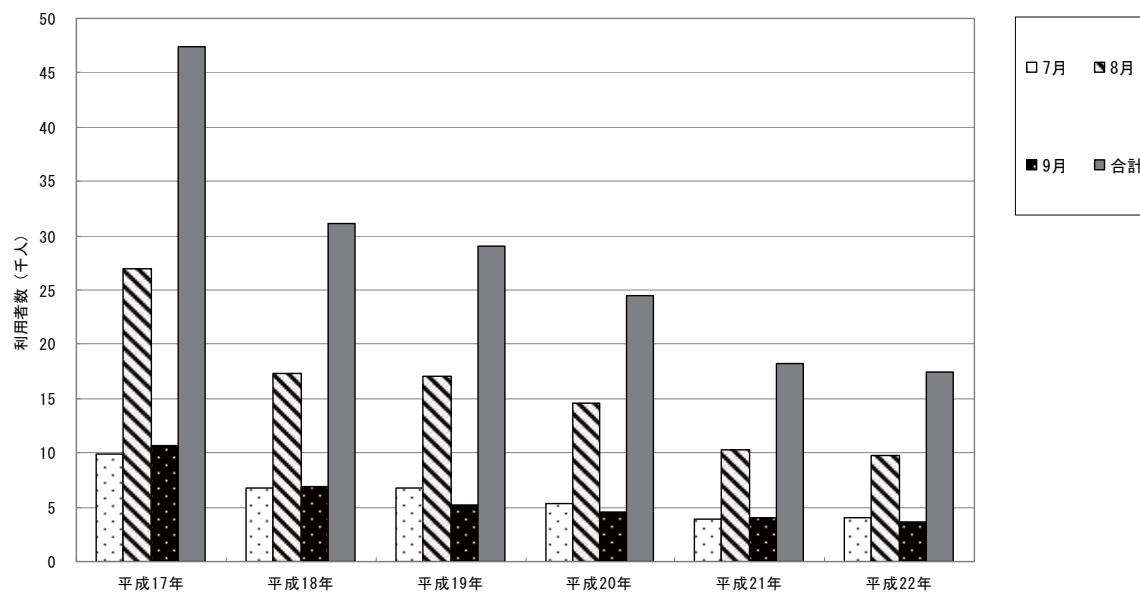
出典：斜里町商工観光課

2) カムイワッカ地域

a. シャトルバス利用者数

平成22年7～9月のシャトルバス利用者数は17,392人（前年度比95%）と、ほぼ前年並みの利用となっている。（付録 表6 年度・月別シャトルバス利用者数）

グラフ：シャトルバス利用者数の年次変化（カムイワッカ以外の利用を含む）



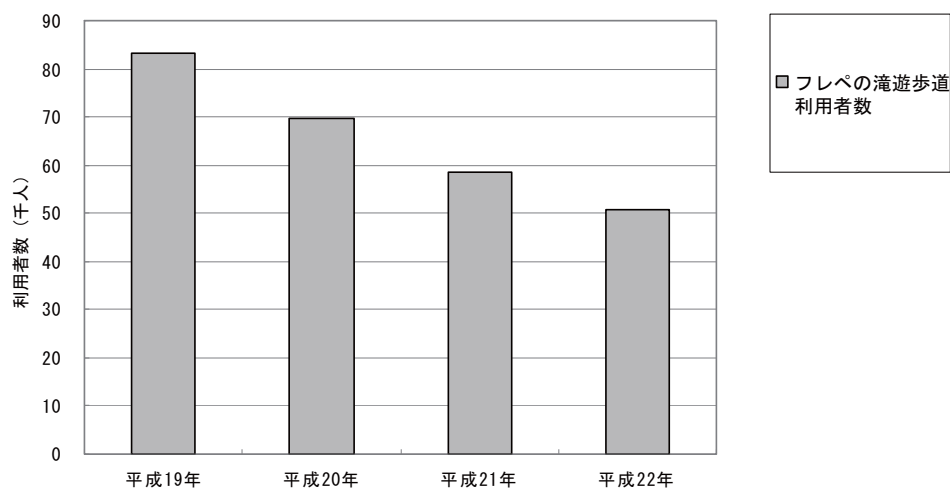
出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

3) ホロベツ地区

a. フレペの滝利用者数（フレペの滝カウンター調査）

平成22年4～11月のフレペの滝利用者数は50,889人と、前年度比13%減となった。（付録表7 年度・月別フレペの滝利用者数）

グラフ：フレペの滝利用者数年次変化



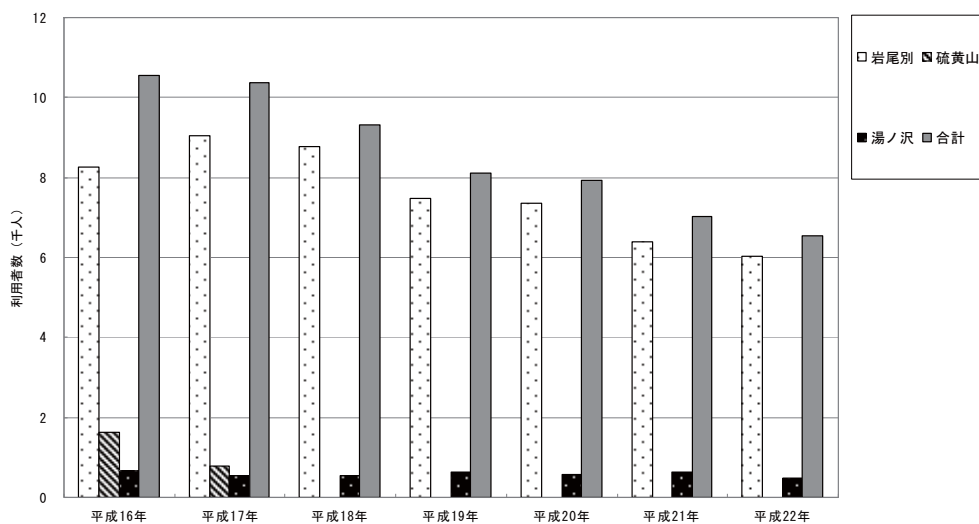
出典：環境省 カウンター調査

4) 知床連山地域

a. 連山登山道利用者数（岩尾別、湯ノ沢カウンター調査）

平成22年6～10月の知床連山登山道利用者数は6,528人と、前年度比7%減となった。なお8月26日～9月2日の期間は、ヒグマ出没のため羅臼岳登山道自粛要請を実施した。（付録表8 年度・月別知床連山利用者数）

グラフ：知床連山利用者数の年次変化

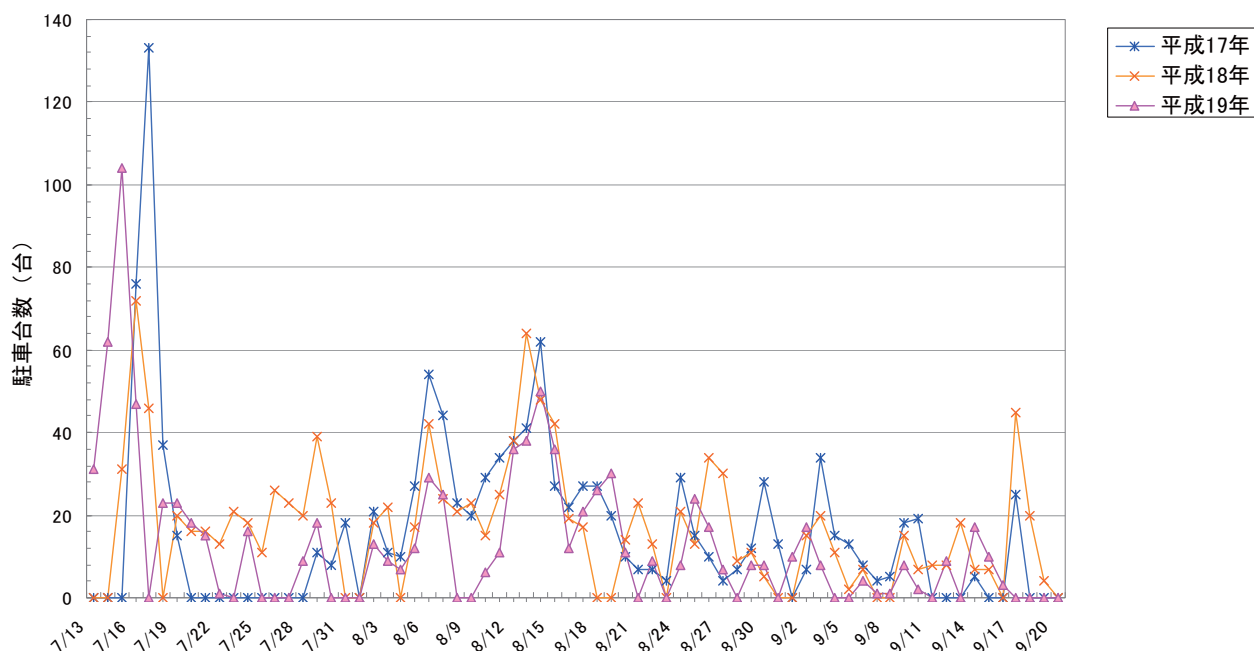


出典：環境省 カウンター調査

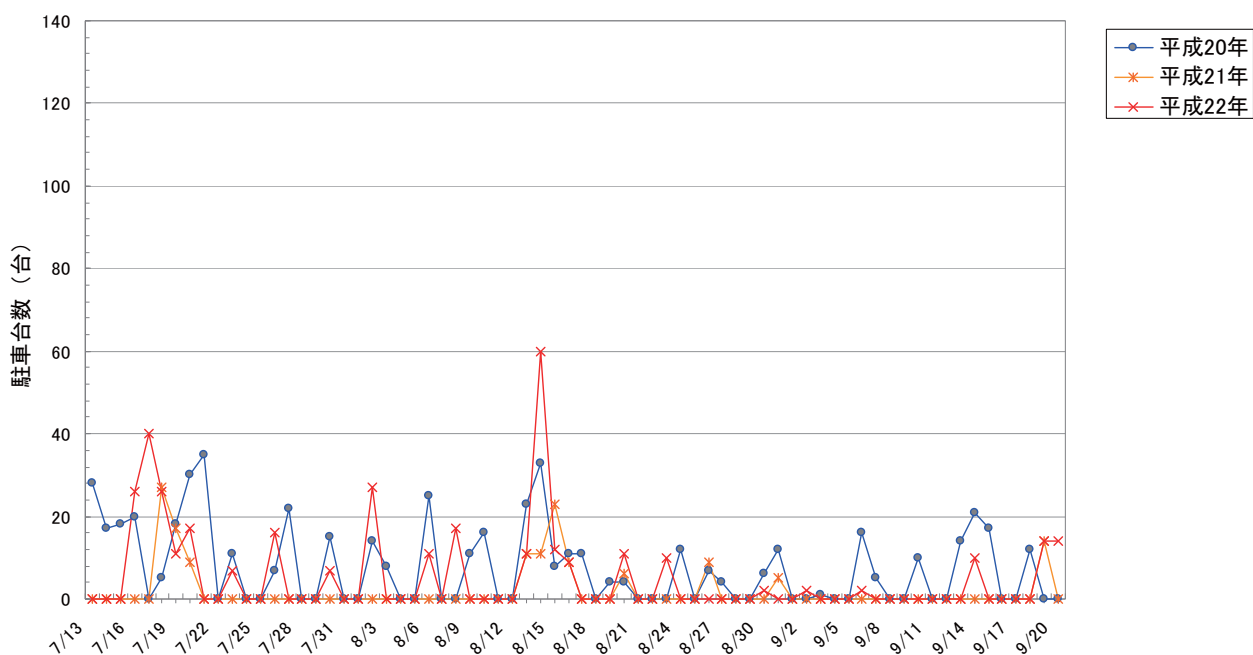
b. ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数

平成22年のハイシーズン中の駐車最大台数は60台／日（8月14日）。昨年度よりも集中が目立ち、8月中旬の集中は平成17年と同程度であった。

グラフ：ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数（平成17年～19年）



グラフ：ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数（平成20年～22年）



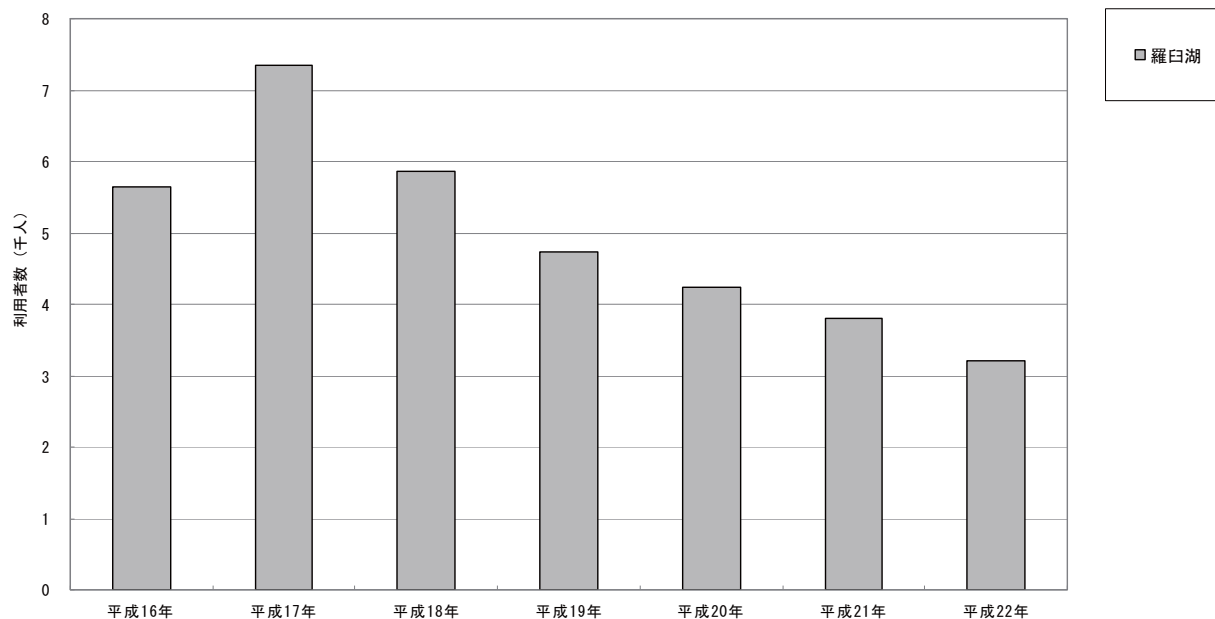
出典：環境省 路上駐車台数調査

5) 羅臼湖地域

a. 羅臼湖登山道利用者数（羅臼湖カウンター調査）

平成22年6～10月の羅臼湖登山道利用者は3,215人と、前年度比16%減となった。（付録表9 年度・月別羅臼湖登山道利用者数）

グラフ：羅臼湖登山道利用者数年次変化



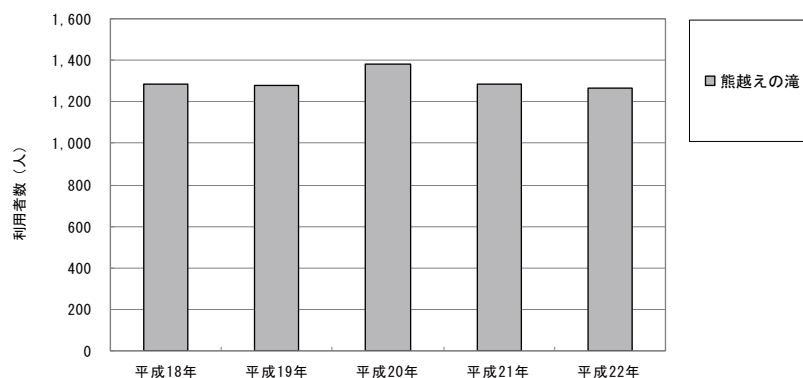
出典：環境省 カウンター調査

6) 羅臼温泉地区

a. 熊越えの滝利用者数（熊越えの滝カウンター調査）

平成22年5～10月の熊越えの滝歩道利用者は1,267人（前年度比98%）とほぼ前年並みとなった。（付録表10 年度・月別熊越えの滝歩道利用者数）

グラフ：熊越えの滝歩道利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

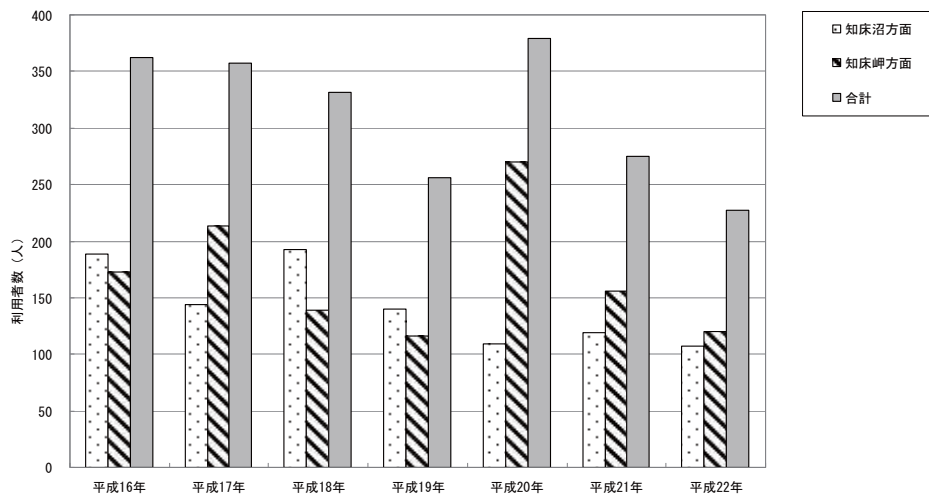
(3) 知床半島先端部地区の利用状況

1) 知床岬、知床沼、知床岳地域

a. 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数（ウナキベツ・観音岩カウンター調査）

平成 22 年 6～10 月の陸路による知床岬方面利用者は 120 人（前年比 23%減）、知床沼方面利用者は 107 人（10%減）となった。なお 7 月 14 日～15 日の期間は、ヒグマ出没のため知床岬トレッキング自粛要請を実施した。（付録 表 11 年度・月別陸路による知床岬、知床沼方面利用者数）

グラフ：陸路による知床岬、知床沼方面利用者数年次変化

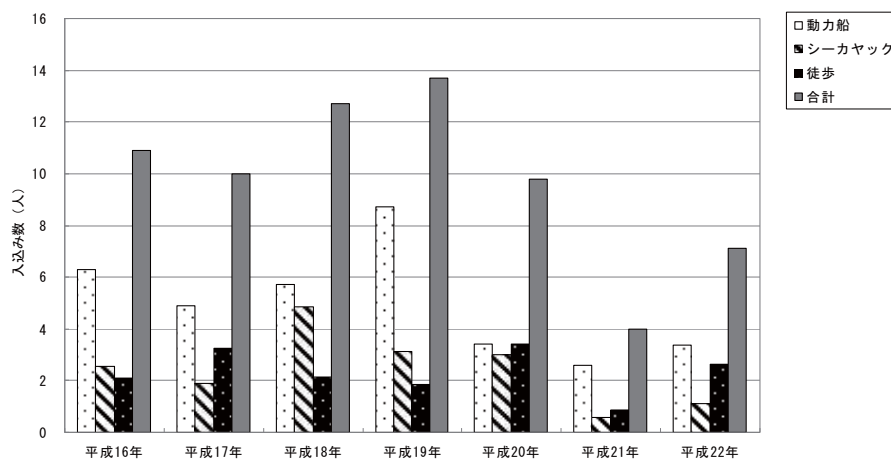


出典：環境省 カウンター調査

b. ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数（現地実態調査）

1日平均 7.1 人（前年度比 178%）と昨年より増加したが、ここ 3 ケ年は 1 日あたり 10 人以下が平均となっている。（付録 表 12 年度・月別ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数）

グラフ：ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数年次変化



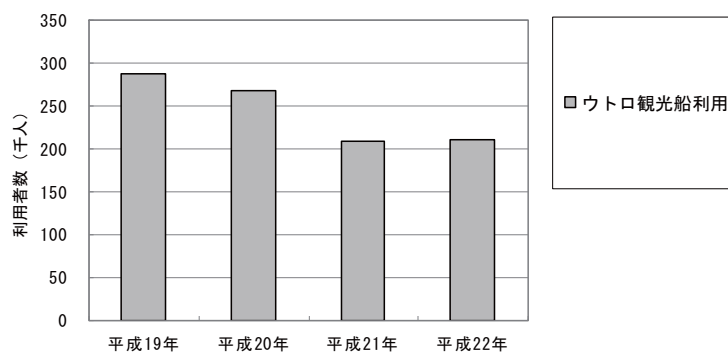
出典：環境省 平成 21 年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動事業
知床世界遺産地域における利用の適正化と野生動物との共生推進業務

2) 観光船

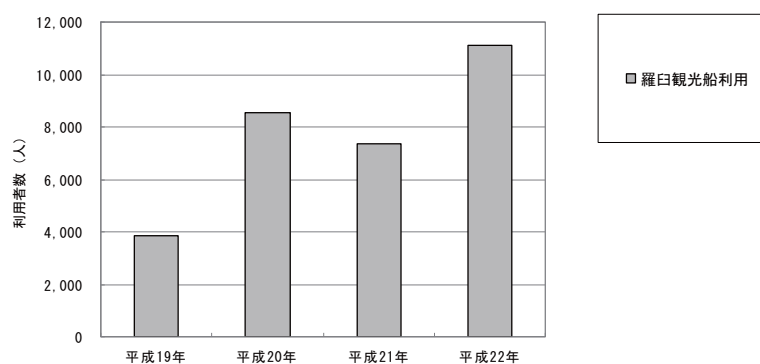
a. ウトロ及び羅臼地区観光船利用者数

平成22年4～10月の観光船利用者はウトロ地区170,457人（前年度比101%）、羅臼地区11,130人（前年度比151%）となった。（付録 表13 ウトロ観光船利用者数、表14 羅臼観光船利用者数）

グラフ：ウトロ地区観光船利用者数年次変化



グラフ：羅臼地区観光船利用者数年次変化



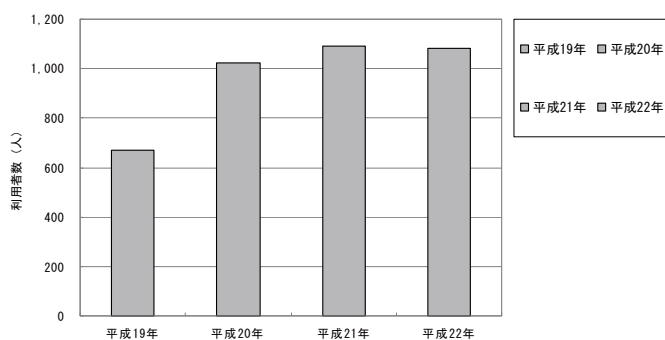
本業務によるアンケート調査

3) シーカヤック

a. シーカヤック利用者数

平成22年4～10月のシーカヤック利用者は1,084人（前年度比99%）となった。（付録 表15 年度・月別シーカヤック利用者数）

グラフ：シーカヤック利用者数年次変化



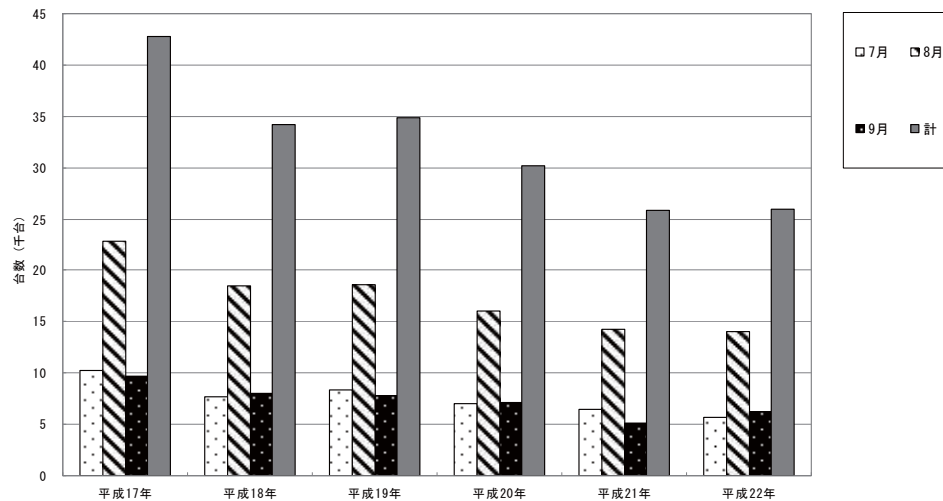
本業務によるアンケート調査

(4) 施設利用状況

1) 知床自然センター駐車台数（マイカー規制実施期間）

平成22年7～9月の知床自然センター駐車台数は25,997台（前年度比101%）となった。（付録表16年度・月別知床自然センター駐車台数）

グラフ：知床自然センター駐車台数年次変化

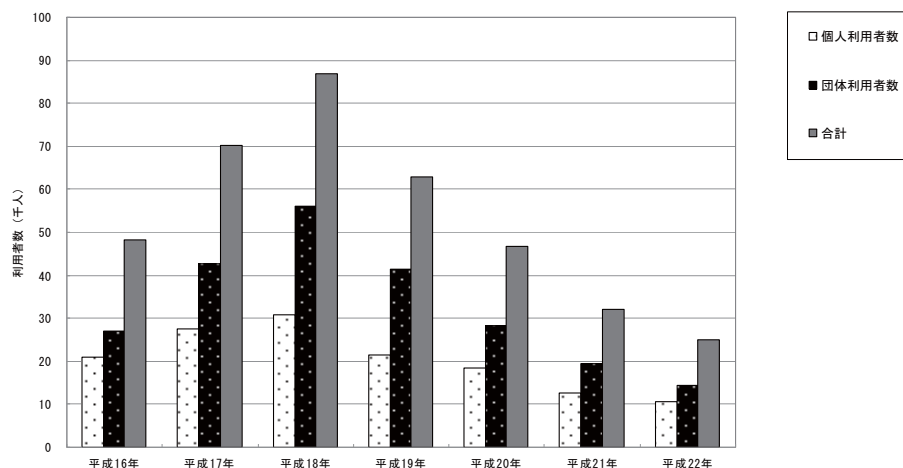


出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

2) 知床自然センターダイナビジョン利用者数（団体・個人）

平成22年の知床自然センターダイナビジョン利用者数は24,931人（前年度比78%）、うち個人利用者は10,633人（前年度比84%）、団体利用者は14,298人（前年度比73%）であり、世界遺産登録前比48%減となり団体利用の減少が目立つ。（付録表17年度・月別ダイナビジョン利用者数）

グラフ：ダイナビジョン利用者数年次変化

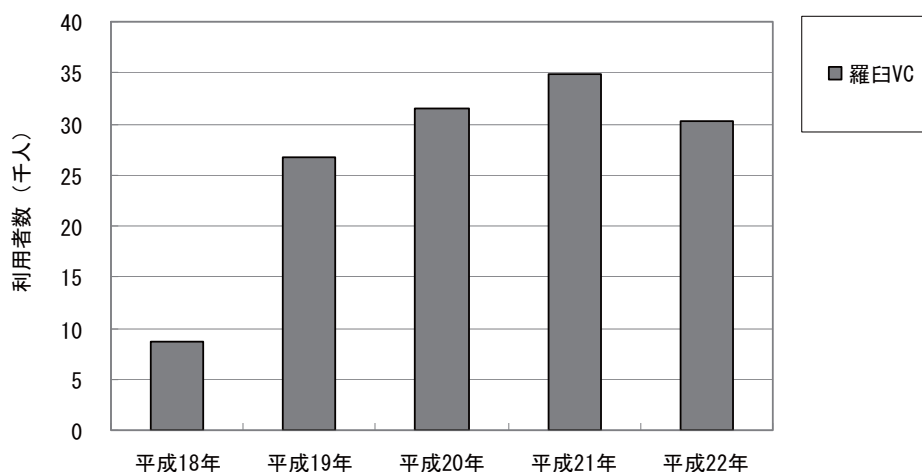


出典：公益財団法人 知床財団

3) 羅臼ビジターセンター利用者数

平成 22 年の羅臼ビジターセンター利用者は 30,180 人と前年度比 23%減であるが、総数は一昨年並みの利用者数となった。平成 18 年の新築以後増加傾向であったが、初めての減少となった。7、8 月の利用は昨年と同程度であった。(付録 表 18 年度・月別羅臼ビジターセンター利用者数)

グラフ：羅臼ビジターセンター利用者数年次変化

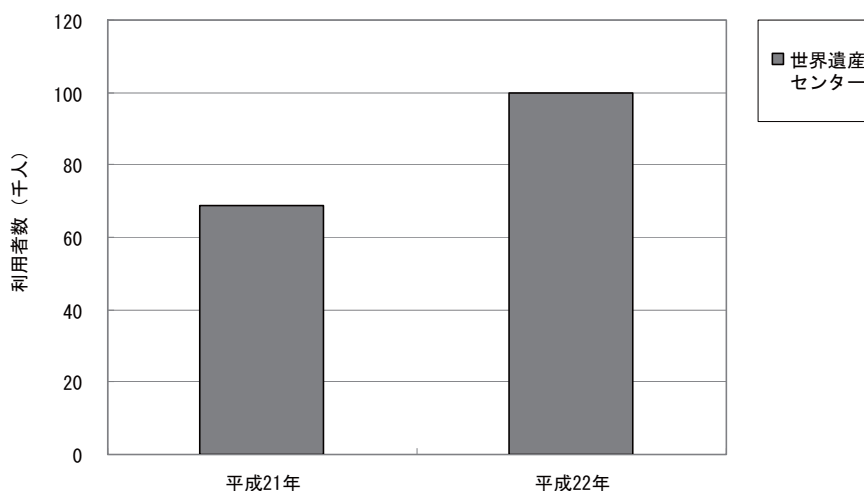


出典：羅臼ビジターセンター

4) 知床世界遺産センター利用者数

平成 22 年の知床世界遺産センター利用者数は 100,020 人であり、前年度の同月と比較するとほぼ全ての月で利用者の増加が見られた。(付録 表 19 年度・月別知床世界遺産センター利用者数)

グラフ：知床世界遺産センター利用者数年次変化

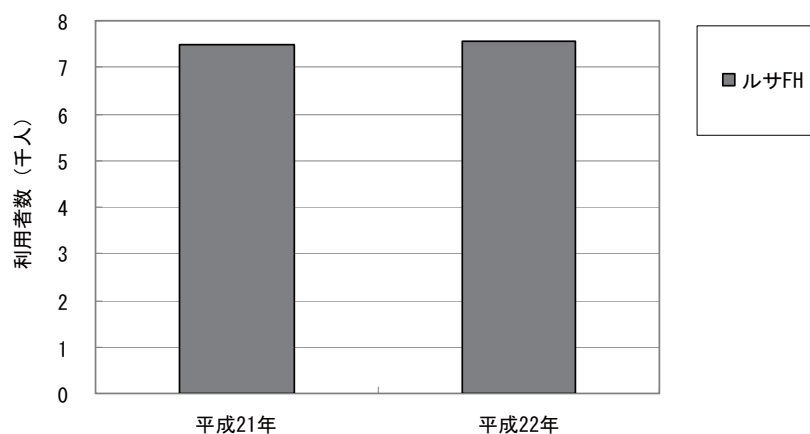


出典：知床世界遺産センター

5) 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

平成22年2～10月の知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数は7,570人であった。7月、9月、10月は前年と比較し20～30%程度減少した。(付録表20 年度・月別知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数)

グラフ：知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数年次変化

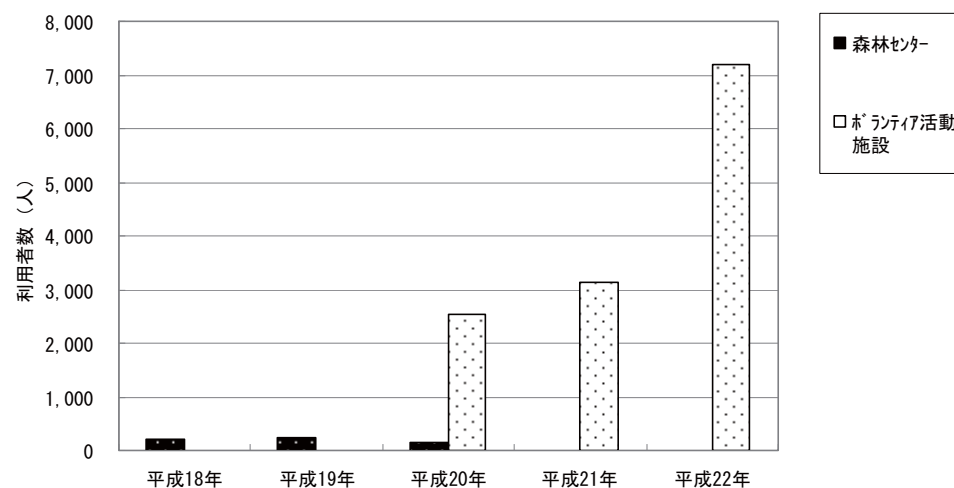


出典：知床世界遺産ルサフィールドハウス

6) 森林センター・ボランティア活動施設利用者数

平成22年の森林センター・ボランティア活動施設利用者数は7,199人(前年度比229%)となった。(付録表21 年度・月別森林センター・ボランティア活動施設利用者数)

グラフ：森林センター・ボランティア活動施設利用者数年次変化

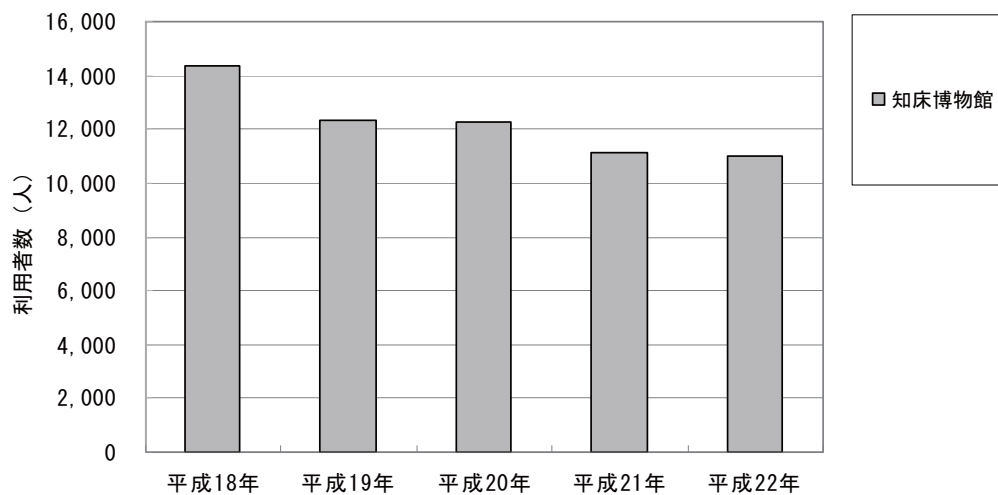


出典：林野庁北海道森林管理局 知床森林センター

7) 知床博物館利用者数

平成 22 年の知床博物館利用者数は 11,005 人（前年度比 99%）とほぼ前年並みとなった。（付録 表 22 年度・月別知床博物館利用者数）

グラフ：知床博物館利用者数年次変化



出典：斜里町立知床博物館

2. 知床世界自然遺産地域における第一次産業の状況

1) 斜里町における産業統計

【農業】(H22 年)

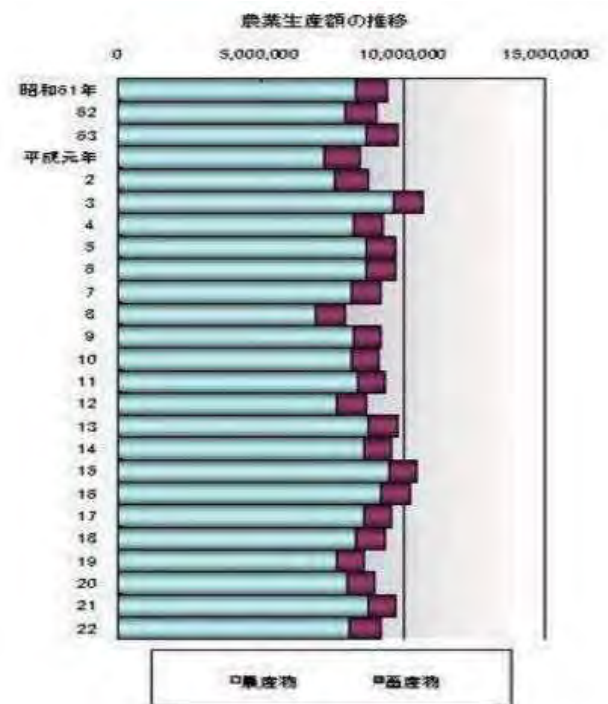
- ・耕作面積 9,734.1 ha
- ・生産額 91.4 億円

【林業】(H23.3 末)

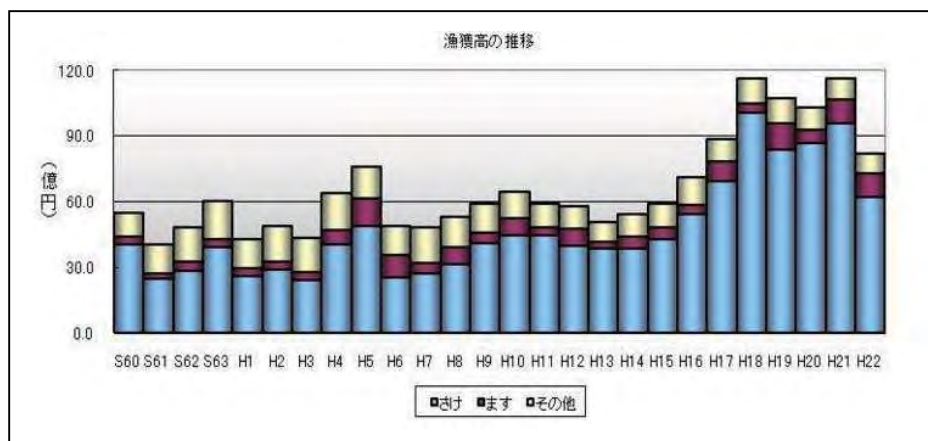
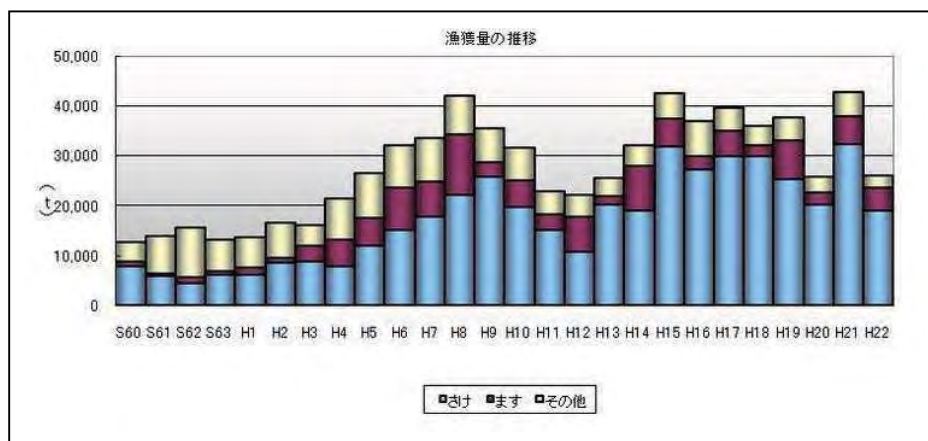
- ・森林面積 57,254.46 ha
- (国有 49,793.93 ha 町有 1,614.22 ha)

【漁業】(H22 年)

- ・漁獲量 29,267 t
- ・生産額 82.5 億円



(資料：斜里町農務課)



(資料：斜里町水産林務課)

2) 羅臼町における産業統計

■産業別15歳以上就業者数の推移

産業区分	年次	平成7年			平成12年			平成17年		
		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数		4,187	2,555	1,632	3,999	2,408	1,591	3,732	2,210	1,522
第1次産業		1,930	1,298	632	1,729	1,135	594	1,553	1,044	509
農業		38	24	14	38	22	16	28	16	12
林業・狩猟業		6	6	0	3	3	0	4	4	0
漁業		1,886	1,268	618	1,688	1,110	578	1,521	1,024	497
第2次産業		718	429	289	778	486	292	666	379	287
鉱業		11	9	2	10	9	1	9	8	1
建設業		305	250	55	323	276	47	192	166	26
製造業		402	170	232	445	201	244	465	205	260
第3次産業		1,539	828	711	1,491	787	704	1,513	787	726
卸・小売業		540	223	317	496	207	289	574	207	367
金融・保険業・不動産業		49	20	29	46	19	27	38	21	17
運輸・通信業		108	91	17	114	91	23	99	82	17
電気・ガス・水道業		8	8	0	1	1	0	3	2	1
サービス業		636	328	308	644	311	333	614	316	298
公務		198	158	40	190	158	32	185	159	26
分類不能の産業		0	0	0	1	0	1	0	0	0

(国勢調査より)

■漁業生産状況

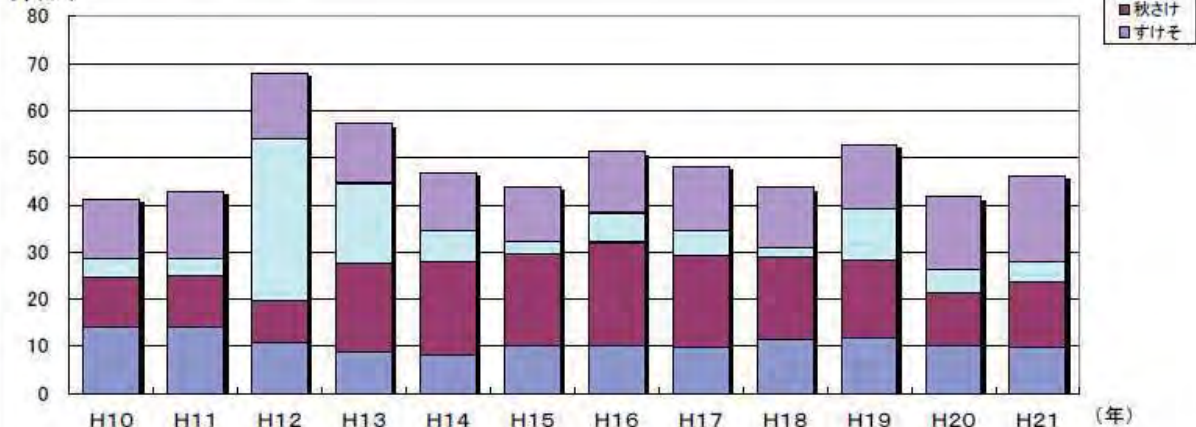
(単位 トン:千円)

魚種	年次	平成17年		平成18年		平成19年		平成20年		平成21年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
すけそ		9,637	1,808,057	11,319	1,937,610	11,849	2,184,755	10,234	1,755,572	9,799	1,401,395
秋さけ		19,549	5,383,121	17,552	6,259,612	16,552	6,206,468	11,145	5,416,486	13,868	4,815,600
けいじ		7	84,252	6	92,239	3	67,030	4	61,157	7	47,902
ほっけ		7,772	1,324,034	6,546	1,220,755	4,045	653,790	5,971	1,246,215	7,580	932,906
めんめ		97	234,872	69	179,724	59	180,944	56	179,698	40	118,082
うに		19	96,379	19	124,906	89	130,000	87	145,158	89	120,906
たら		2,103	629,352	2,864	763,785	2,255	779,102	3,175	1,065,907	4,060	1,481,475
かれい		850	165,526	905	184,213	1,276	268,615	1,445	331,888	1,168	307,433
いか		5,288	1,271,697	1,936	463,492	10,820	1,883,955	4,870	791,777	4,347	698,360
おひょう		17	17,389	16	17,451	18	12,917	23	16,628	44	24,538
その他		2,291	514,029	2,038	549,553	5,213	1,348,706	4,498	1,220,024	4,551	1,213,761
こんぶ		476	1,176,973	419	1,059,119	522	1,490,653	216	577,892	580	1,486,559
合計		48,106	12,705,681	43,689	12,852,459	52,701	15,206,935	41,724	12,808,402	46,133	12,648,917

(資料:水産商工観光課)

■主要魚種水揚量の推移

(千トン)



V 平成 22 年度 知床世界自然遺産地域管理計画の実施状況

1. 知床地域におけるハード事業の実施状況

A. 知床地域の既存事業一覧

道路（車道）

名称	管理者	全体規模	H22 年度	No.	ページ
知床公園線 (93 号線)	北海道 斜里町	19.3km 災害防除一式 481m	落石予防工・防護工	(1)	27～28
知床公園羅臼線 (87 号線)	北海道	8km 防雪一式 災害防除一式	雪崩予防工 落石予防工・法面工	(2) (3)	29～30 31～32
知床国道 (334 号線)	北海道開発局	30.3km	斜面对策等	(4)～ (10)	33～46
国後国道 (335 号線)	北海道開発局				
知床保安林管理車道	網走南部森林管理署	11.2km			
岩尾別温泉線	斜里町	3.1km			

道路（歩道）

名称	管理者	全体規模	H22 年度	No.	ページ
知床五湖周回線道路	北海道	3km			
羅臼湖線道路	北海道	3km			
羅臼岳登山線道路	根釧東部森林管理 署	3.7km			

園地

名称	管理者	全体規模	H22 年度	No.	ページ
知床五湖園地	北海道 斜里町 環境省	0.49ha 0.12ha			
知床峠園地	北海道	0.15ha			
ホロベツ園地	北海道	0.41ha			
羅臼温泉園地	北海道	0.29ha			

野営場

名称	管理者	全体規模	H22 年度	No.	ページ
羅臼温泉野営場	北海道	1.1ha			

駐車場

名称	管理者	全体規模	H22 年度	No.	ページ
	北海道 斜里町	0.69ha 1.5ha			
羅臼温泉駐車場	北海道	0.13ha			

河川工作物

①河川工作物WGにおいて、改良が適当とされたもの

名称	工作物の管理者	全体規模	H22 年度	No.	ページ
イワウベツ川	森林管理局 斜里町	5 基 1 基	H22 改良済み ※H20 改良済み	(11)	47～48
ルシャ川	北海道	2 基	※H18 改良済み		
チエンベツ川	北海道	2 基	※H21 までに 2 基改良済み		
サシルイ川	北海道	2 基	※H19 改良済み		
羅臼川	北海道	1 基	改良中		

②その他の河川工作物

名称	工作物の管理者	全体規模	備考
ルシャ川	北海道 民間	1 基 1 基	
ポンプタ川	森林管理局	7 基	
イワウベツ川	森林管理局 北海道開発局 斜里町	8 基 7 基 3 基	
ホロベツ川	北海道開発局	5 基	
アイドマリ川	森林管理局 民間	2 基 1 基	
オショロッコ川	森林管理局	1 基	
ショウジ川	北海道	1 基	
ケンネベツ川	北海道	8 基	
モセカルベツ川	森林管理局 北海道	6 基 6 基	
オッカバケ川	森林管理局 北海道	2 基 1 基	
知徒来川	森林管理局	10 基	
羅臼川	森林管理局 北海道開発局 北海道 羅臼町	11 基 1 基 2 基 5 基	

その他

名称	管理者	全体規模	H22 年度	No.	ページ
植生保護柵（岩尾別）	北海道森林管理局 （網走南部森林管理署）	3.93ha	1.65ha 新設	(12)	49～50
羅臼漁港	北海道開発局		-4.0m 岸壁等	(13)	51～52
ウトロ漁港	北海道開発局		用地等	(14)	53～54
世界遺産センター	環境省	990 m ²			
ルサ F H	環境省	257 m ²			
羅臼 V C	環境省	831 m ²			
旧羅臼 V C	環境省				
知床ボランティア活動施設	北海道森林管理局	320 m ² （延床面積）			
植生保護柵（知床岬）	環境省	15m×15m エオルシ基部 遮断 20m×20m			
植生保護柵（知床岬）	森林管理局	1 ha			
植生保護柵（幌別）	森林管理局	1 ha			

B. H22 年度 実施事業一覧

（１）知床公園線災害防除事業（北海道）

○事業の背景・目的

・知床公園線においては落石等による災害を未然に防止し、安全な通行ができるよう、平成１７年度より落石防護網や落石防護柵などの整備を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町岩尾別（カムイワッカ）
- ・遺産地域の区分 B 地区
- ・法的規制 国立公園第２種特別地域、国指定鳥獣保護区（普通地域）

○事業の概要及び規模

落石予防工・防護工

- ・落石防護網 1,290m²
- ・落石防護柵 80m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

平成１７年度より事業着手

平成２３年度以降

予定は無し

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

事業計画段階において環境省などと協議を行い、自然環境に配慮した工種・工法を採用した。

着工前

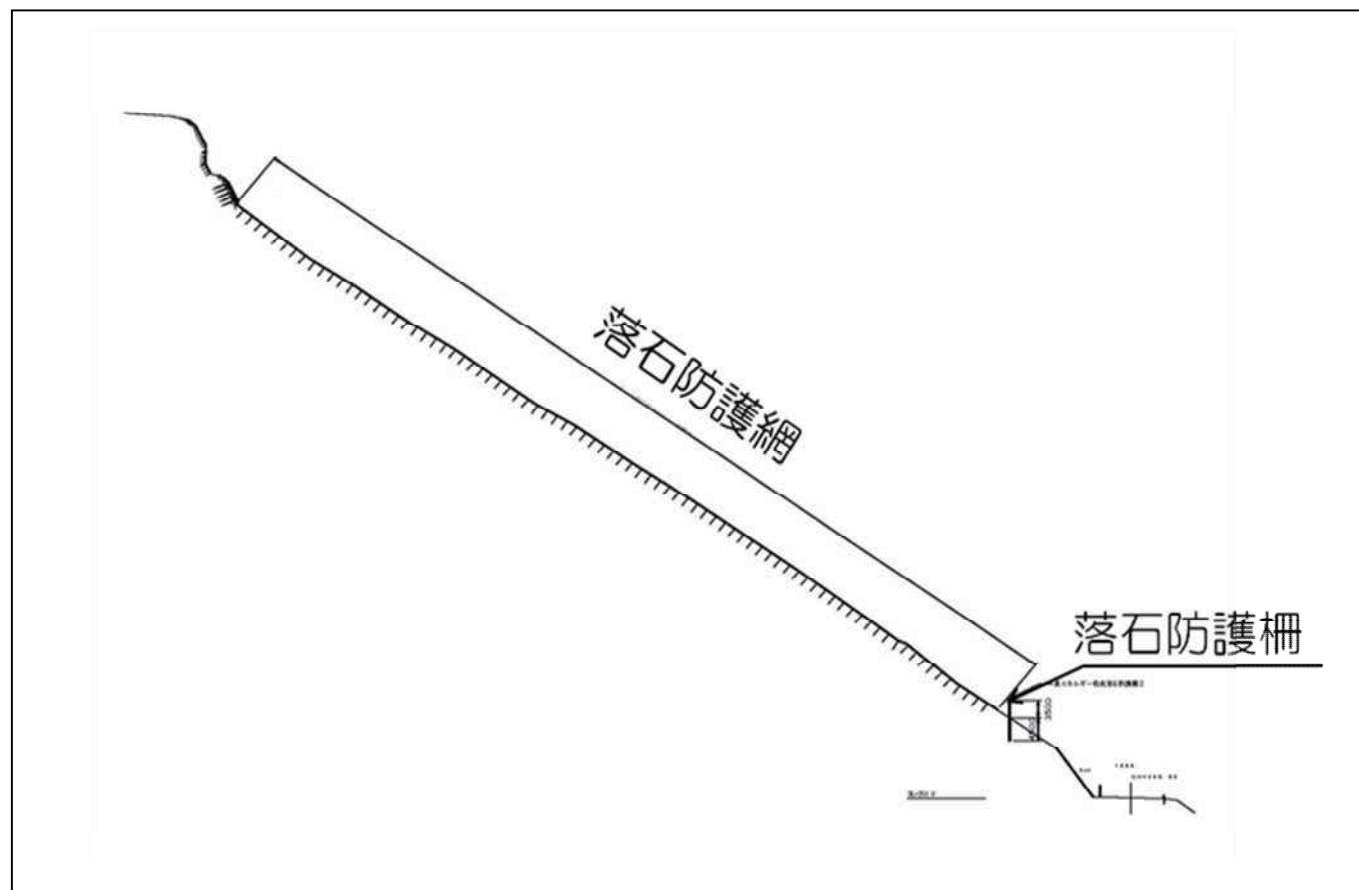


着工後





位置図



構造図（または、平面図）

（２）知床公園羅臼線防雪事業（北海道）

○事業の背景・目的

知床公園羅臼線においては雪による災害を未然に防止し、安全な通行ができるよう、平成２１年度より雪崩予防柵の整備を図っている。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 羅臼町相泊
- ・遺産地域の区分 B 地区
- ・法的規制 国立公園第３種特別地域、国指定鳥獣保護区（普通地域）

○事業の概要及び規模

雪崩予防工

- ・雪崩予防柵 205 基

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

平成２１年度より事業着手

平成２３年度以降

雪崩予防工

- ・雪崩予防柵

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

事業計画段階において環境省などと協議を行い、自然環境に配慮した工種・工法を採用している。

着工前

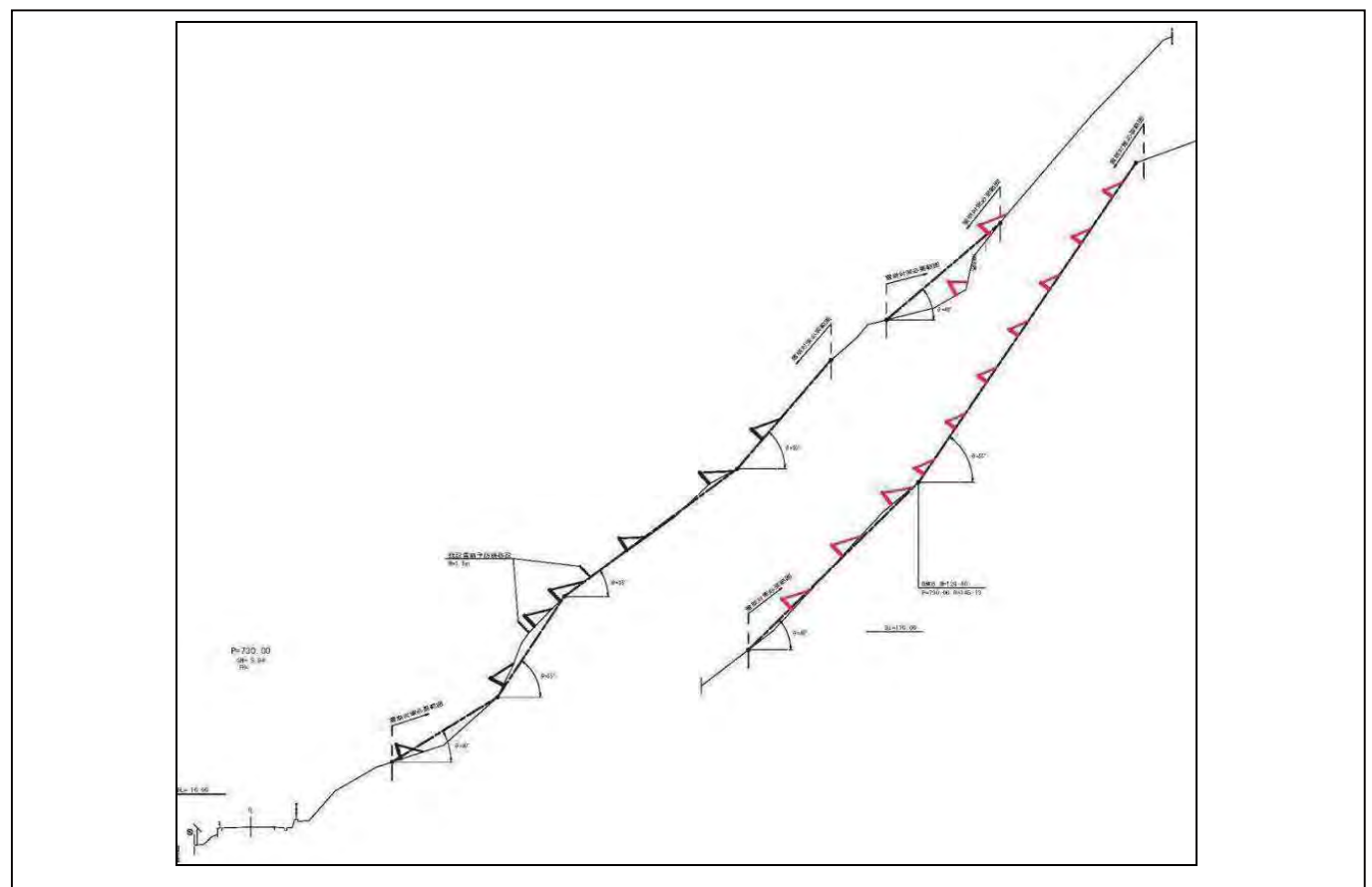


着工後





位置図



（３）知床公園羅臼線災害防除事業（北海道）

○事業の背景・目的

・知床公園羅臼線においては落石等による災害を未然に防止し、安全な通行ができるよう、平成１８年度より岩塊除去やコンクリート吹付法枠などの対策を行っている。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 羅臼町瀬石
- ・遺産地域の区分 B 地区
- ・法的規制 国立公園第３種特別地域、国指定鳥獣保護区（普通地域）

○事業の概要及び規模

落石予防工・法面工

- | | |
|-------------|---------------------|
| ・岩塊除去 | 3,200m ³ |
| ・コンクリート吹付法枠 | 2,100m ² |
| ・法枠内植生 | 2,300m ² |

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

平成１８年度より事業着手

平成２３年度以降

法面工

- ・コンクリート吹付法枠
- ・法枠内植生

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

事業計画段階において環境省などと協議を行い、自然環境に配慮した工種・工法を採用している。

着工前

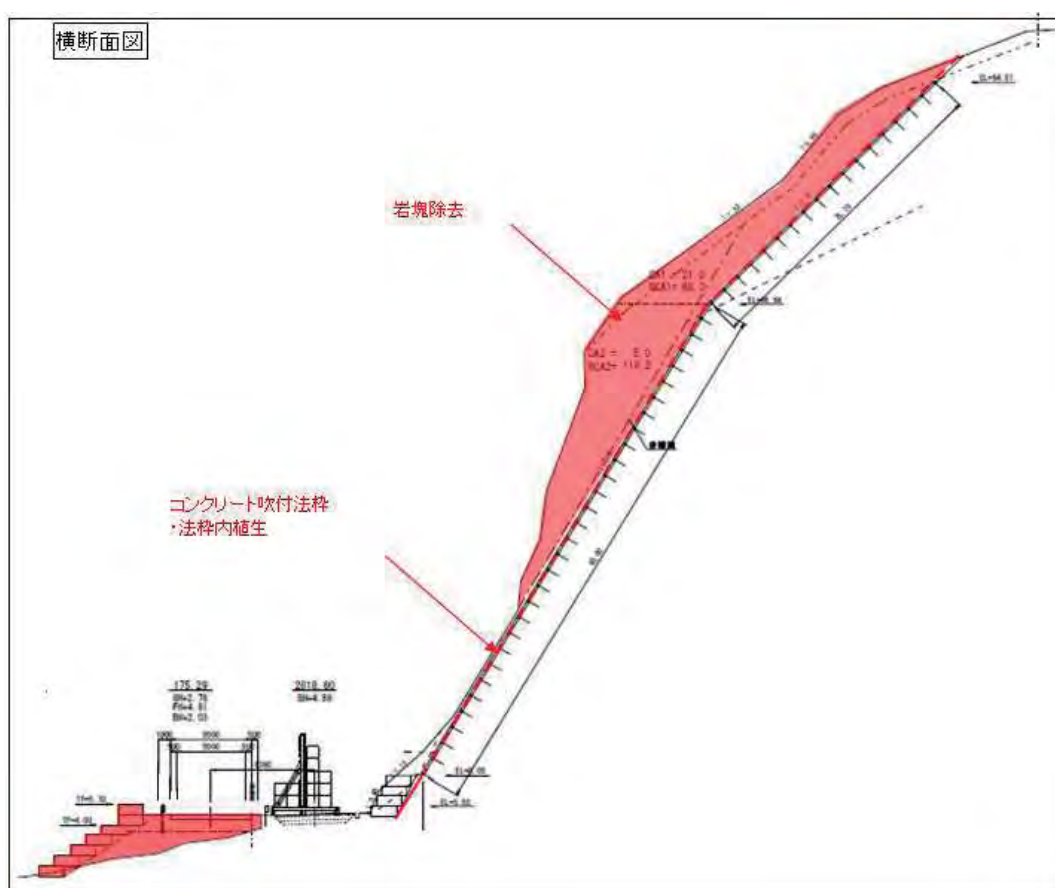


着工後





位置図



構造図（または、平面図）

（４）一般国道３３４号斜里町岩尾別法面補修外一連工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道３３４号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。

本事業は、過年度に雨水により損傷した斜面を補修するとともに、落石崩壊に対する斜面对策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町字岩尾別
- ・遺産地域の区分 A
- ・法的規制 知床国立公園

○事業の概要及び規模（事業費 59 百万円）

- ・法面崩壊対策の連続繊維補強土工 40m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・国立公園内の地形改変を極力抑えるよう配慮した。
- ・粉塵等が飛散しないよう配慮した。

着工前



着工後



（５）一般国道３３４号斜里町岩尾別舗装補修外一連工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道３３４号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。

本事業は、舗装の補修を行うことにより、道路交通の安全性及び走行性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町字岩尾別
- ・遺産地域の区分 A・B
- ・法的規制 知床国立公園

○事業の概要及び規模（事業費 99 百万円）

- ・工事延長 L=3,610m
- ・舗装補修 L=3,610m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・祝祭日の舗装工事を自粛し、道路利用者に配慮した。
- ・粉塵等が飛散しないよう配慮した。

着工前

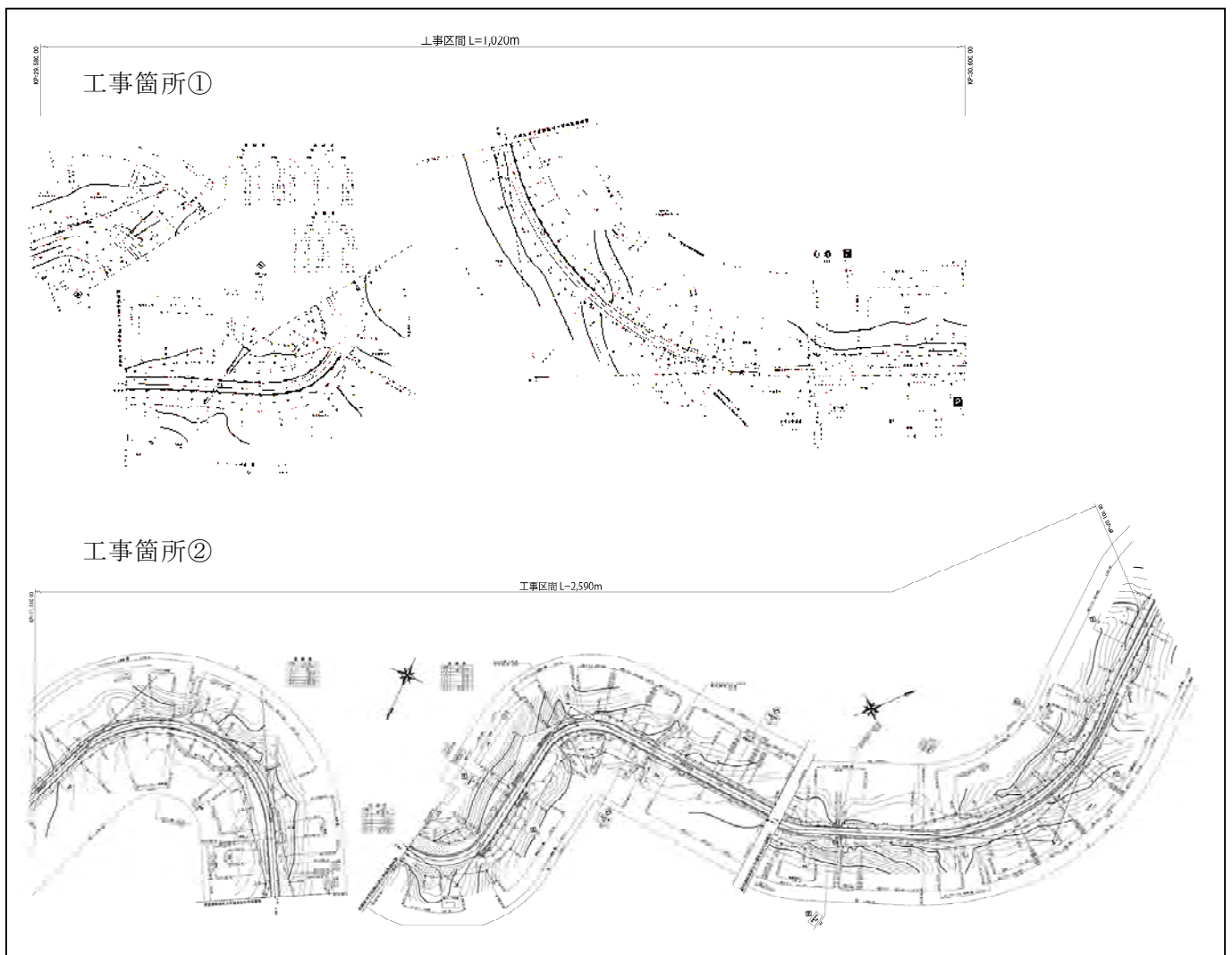


着工後





位置図



平面図

(6) 一般国道334号斜里町宇登呂トンネル工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。

本事業は、土砂崩落を要因とする通行規制区間において対策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町宇登呂西
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模（事業費1,100百万円）

- ・トンネル 360m

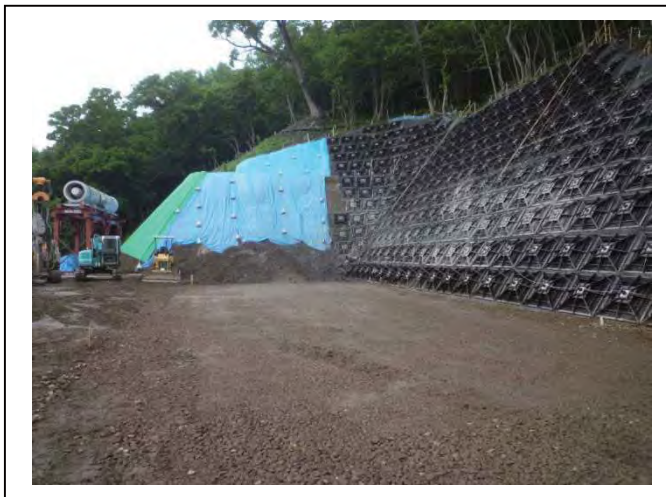
○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・H21 改良工事
- ・H22～H23 トンネル工事

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

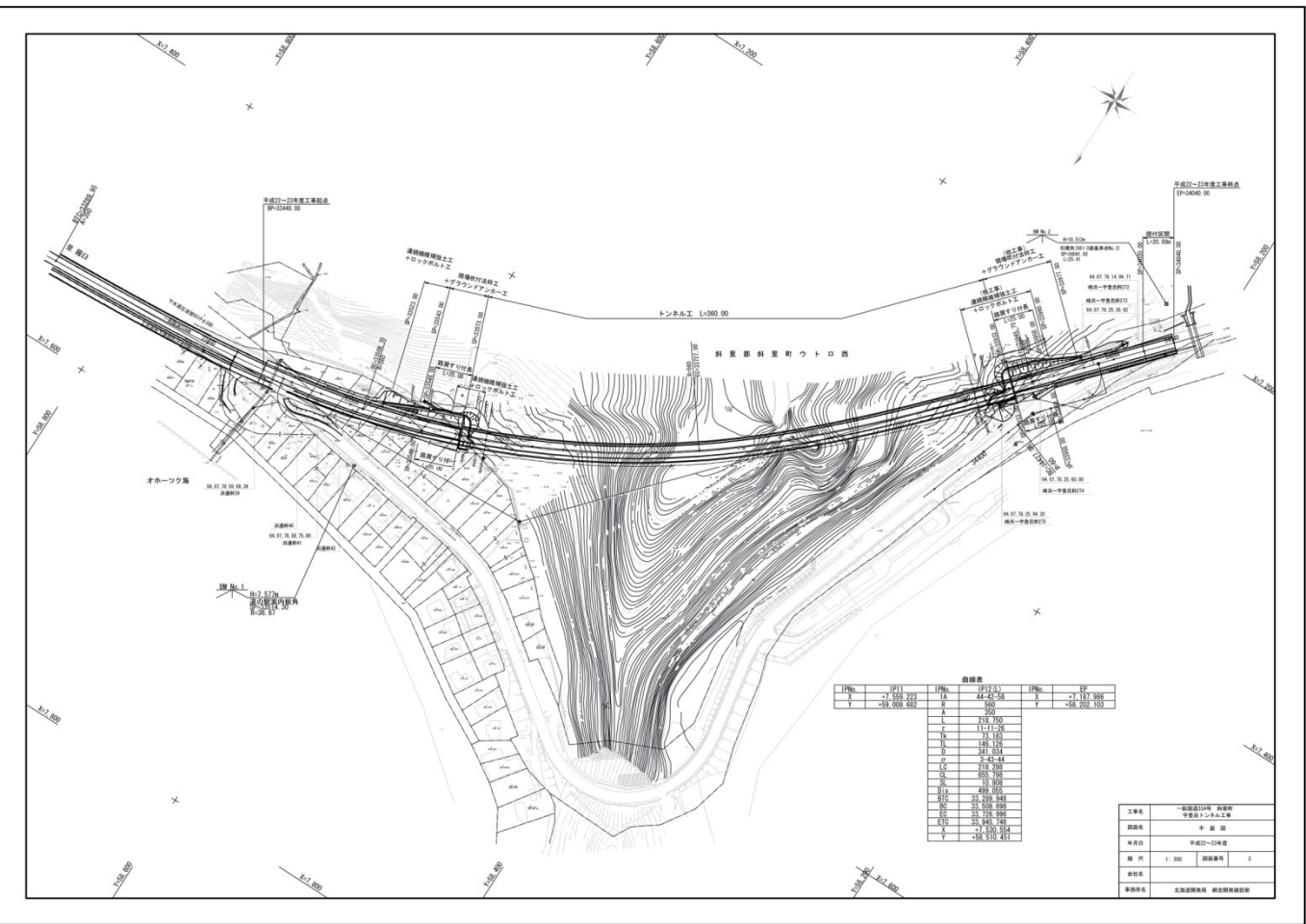
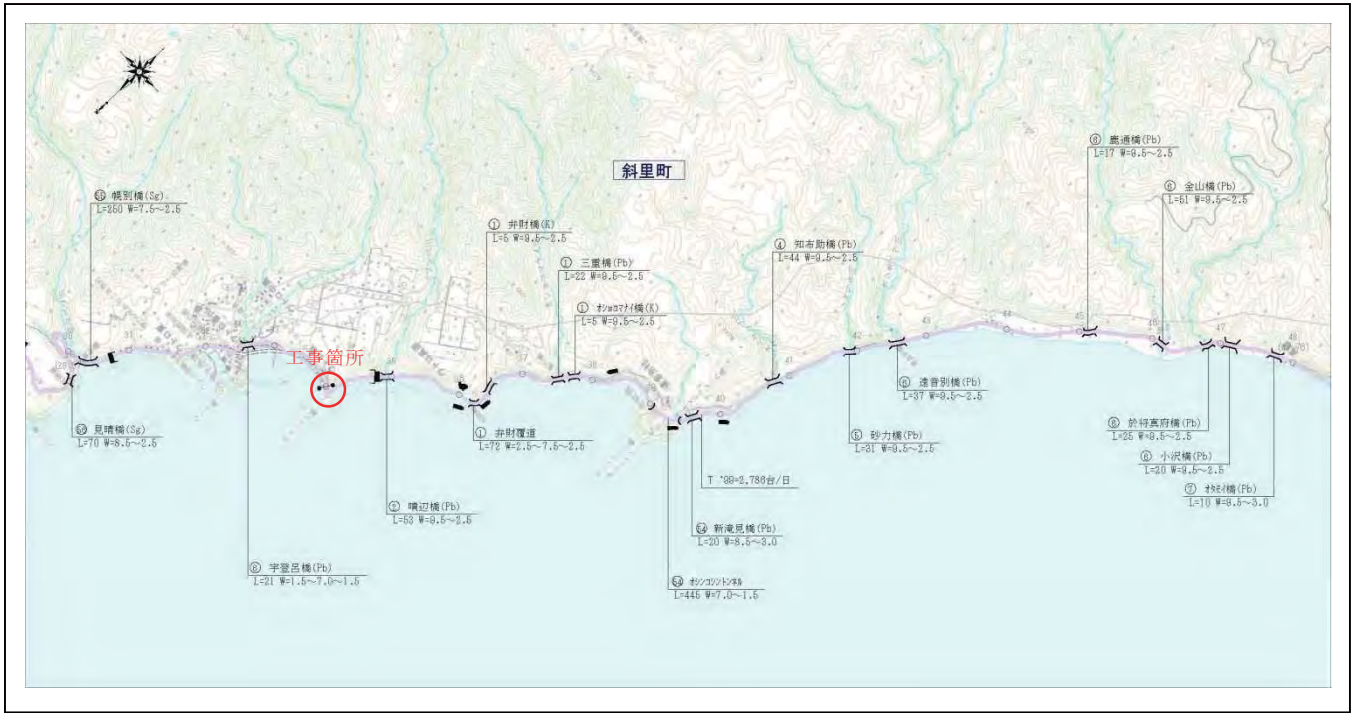
- ・猛禽類に対してモニタリング調査を行い野生動物に配慮した。

着工前



着工後

現在工事中



（７）一般国道３３４号斜里町宇登呂改良工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道３３４号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。

本事業は、土砂崩落を要因とする通行規制区間において対策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町宇登呂西
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模（事業費 93 百万円）

- ・トンネル坑口切土工

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・H21 改良工事
- ・H22～H23 トンネル工事

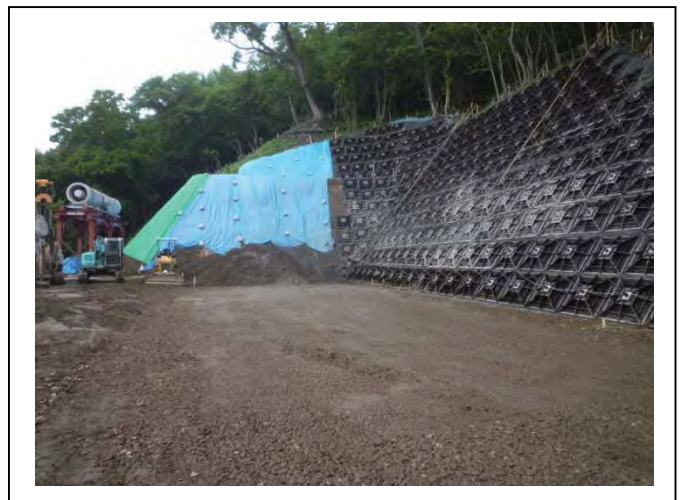
○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・猛禽類に対してモニタリング調査を行い野生動物に配慮した。

着工前



着工後





（８）一般国道３３４号斜里町オシンコシン改良工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道３３４号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。

本事業は、土砂崩落を要因とする通行規制区間において法面对策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町宇登呂西
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模（事業費 61 百万円）

- ・法面崩壊箇所の切土工 L=60m
- ・法面崩壊箇所の法面保護工 L=60m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

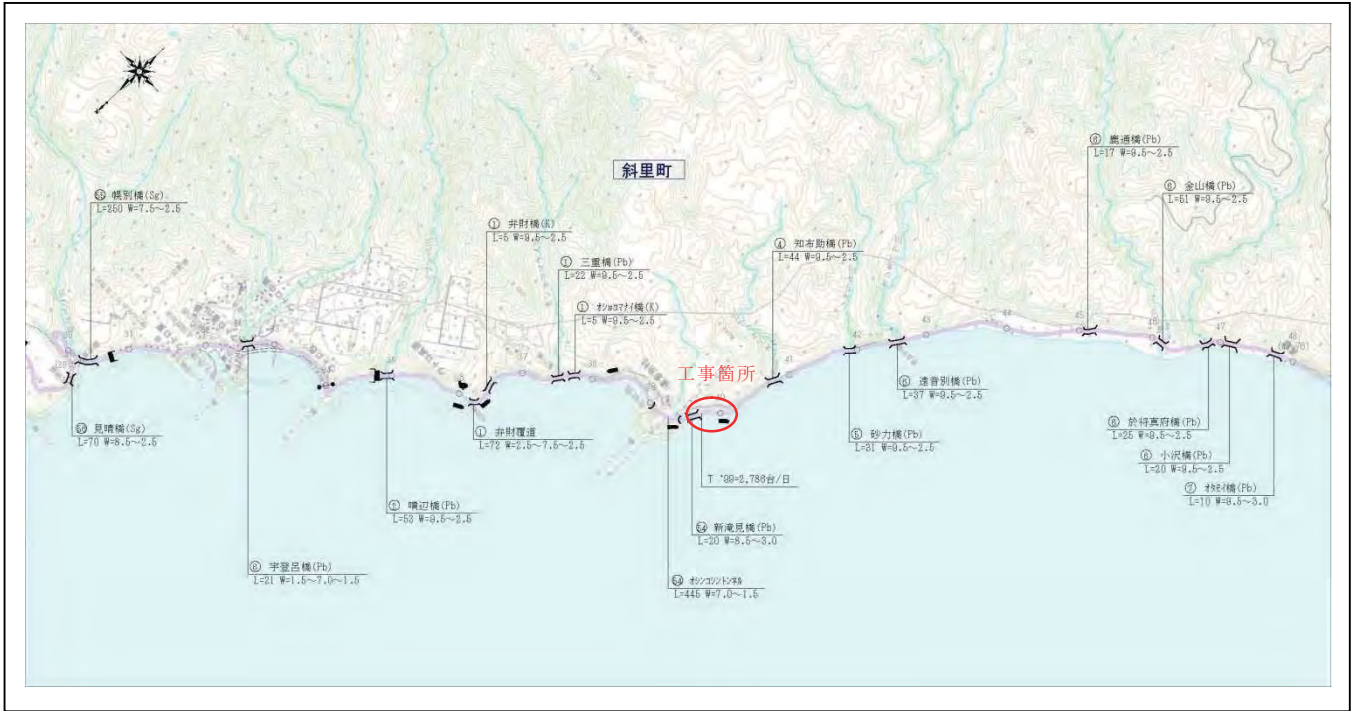
- ・地形改変を極力少なくするように配慮した。

着工前

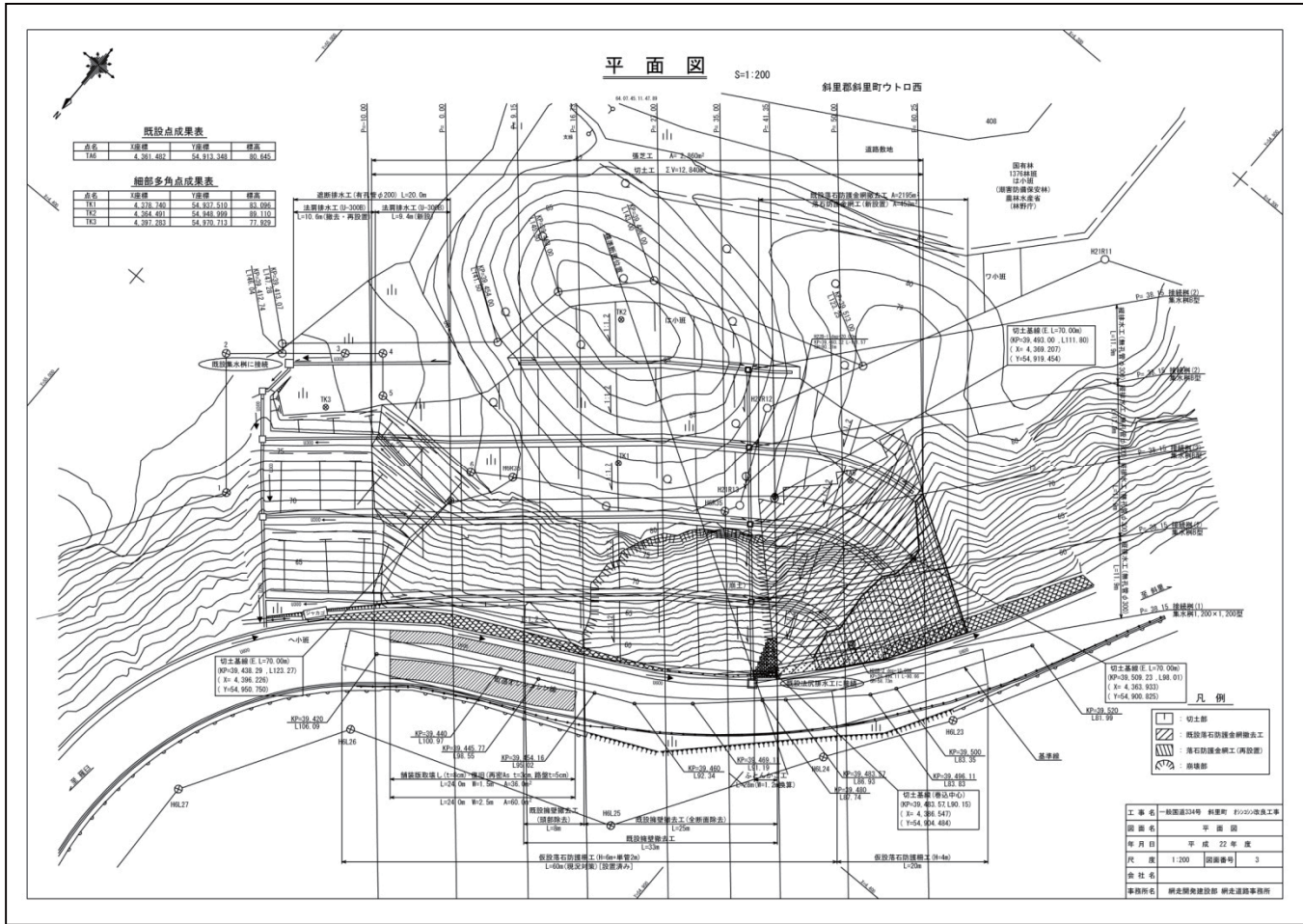


着工後





位置図



平面図

(9) 一般国道334号斜里町オシャマップ改良工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。

本事業は、海岸浸食による道路法面の浸食を防ぎ、道路交通の安全性を向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町字真鯉
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模（事業費 213 百万円）

- ・工事延長 L=900m
- ・道路土工 V=1,300 m³
- ・擁壁工 L=270m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

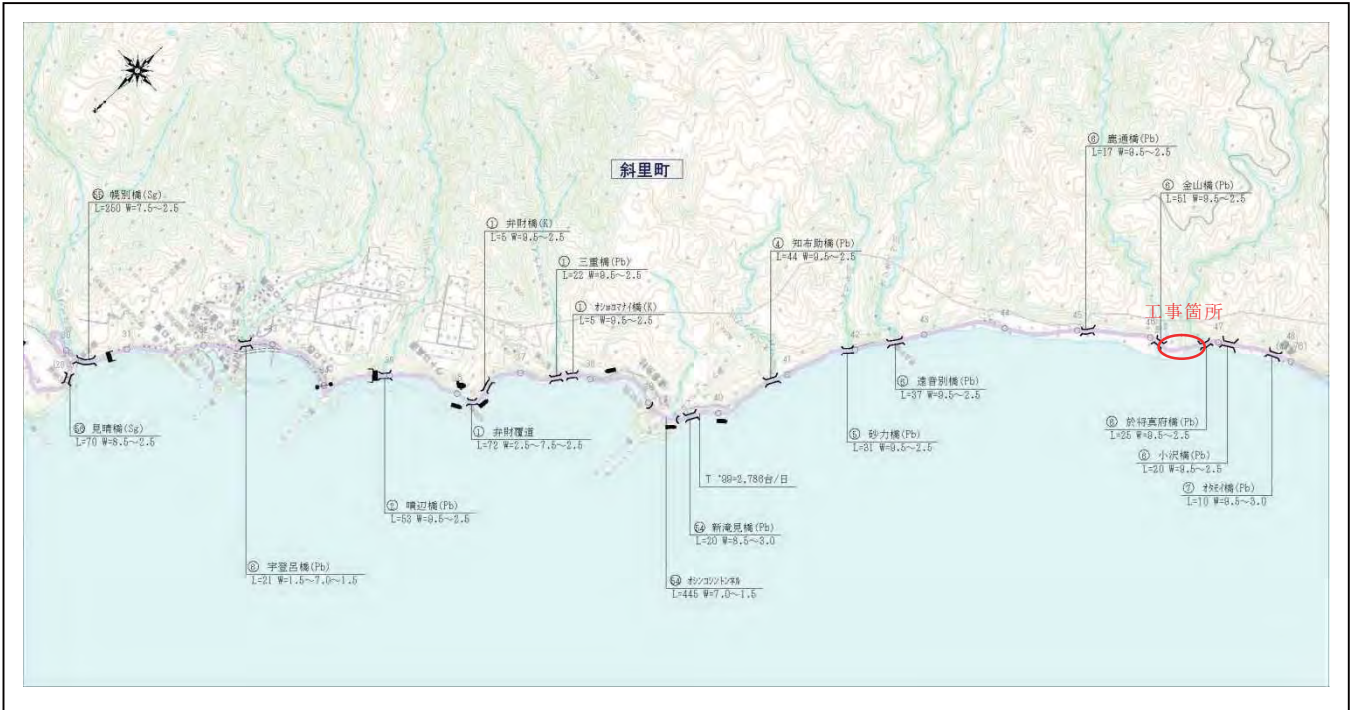
- ・海岸線での施工となるため、汚水の流出に留意し施工を行った。

着工前

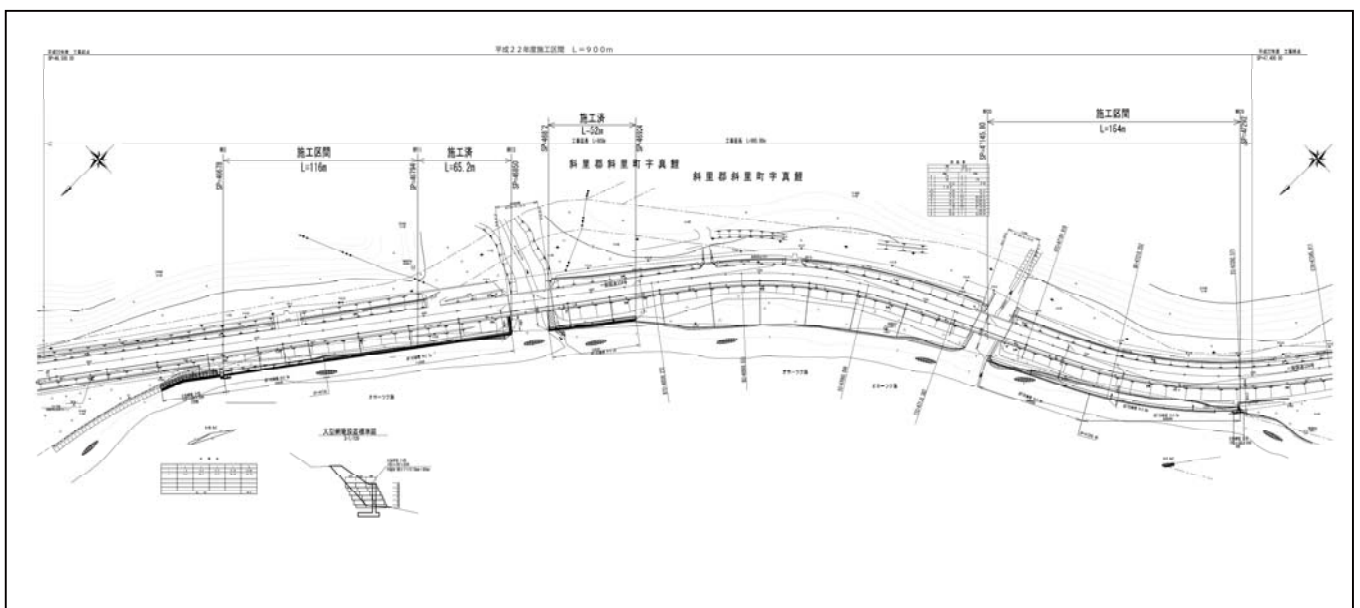


着工後





位置図



平面図

(10) 一般国道334号斜里町オチ力改良工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。

本事業は、土砂崩落を要因とする通行規制区間において対策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町字真鯉
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模（事業費 227 百万円）

- ・切土工 V=1,200m³
- ・排水工 N=1 式
- ・落石防護柵工 L=20m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

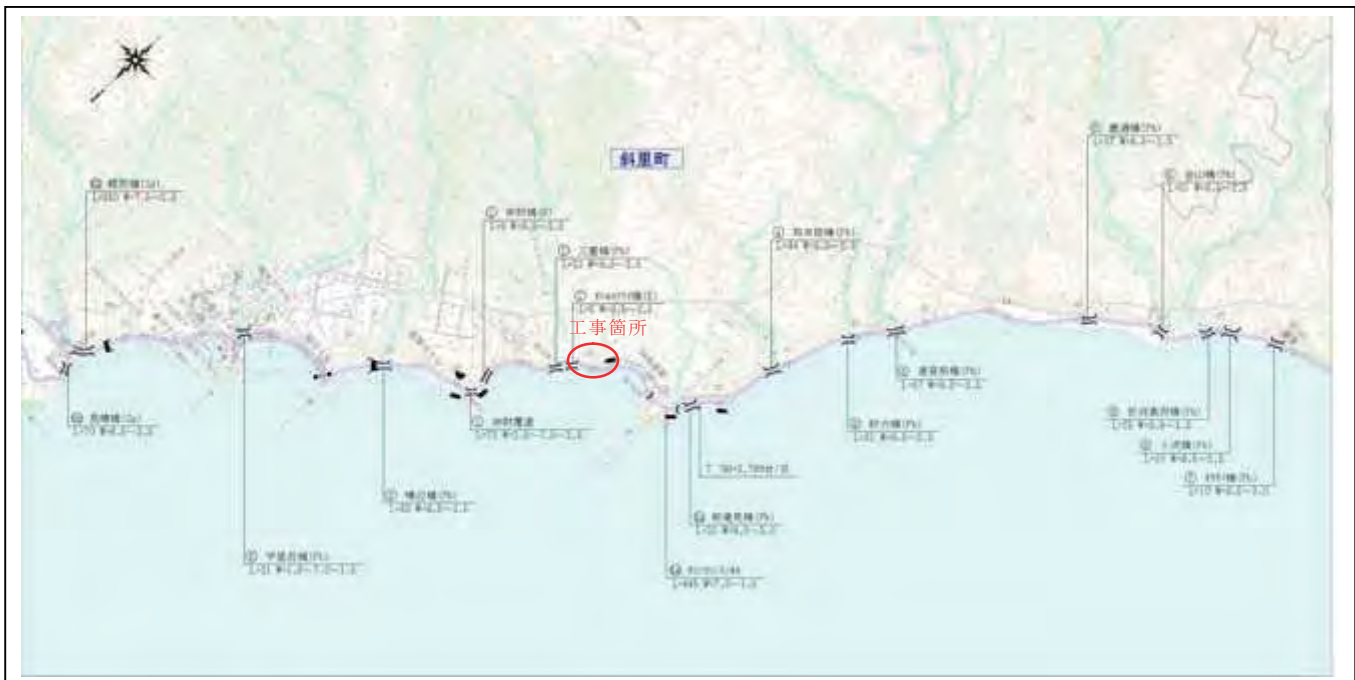
- ・地形改変を極力少なくなるように配慮した。

着工前

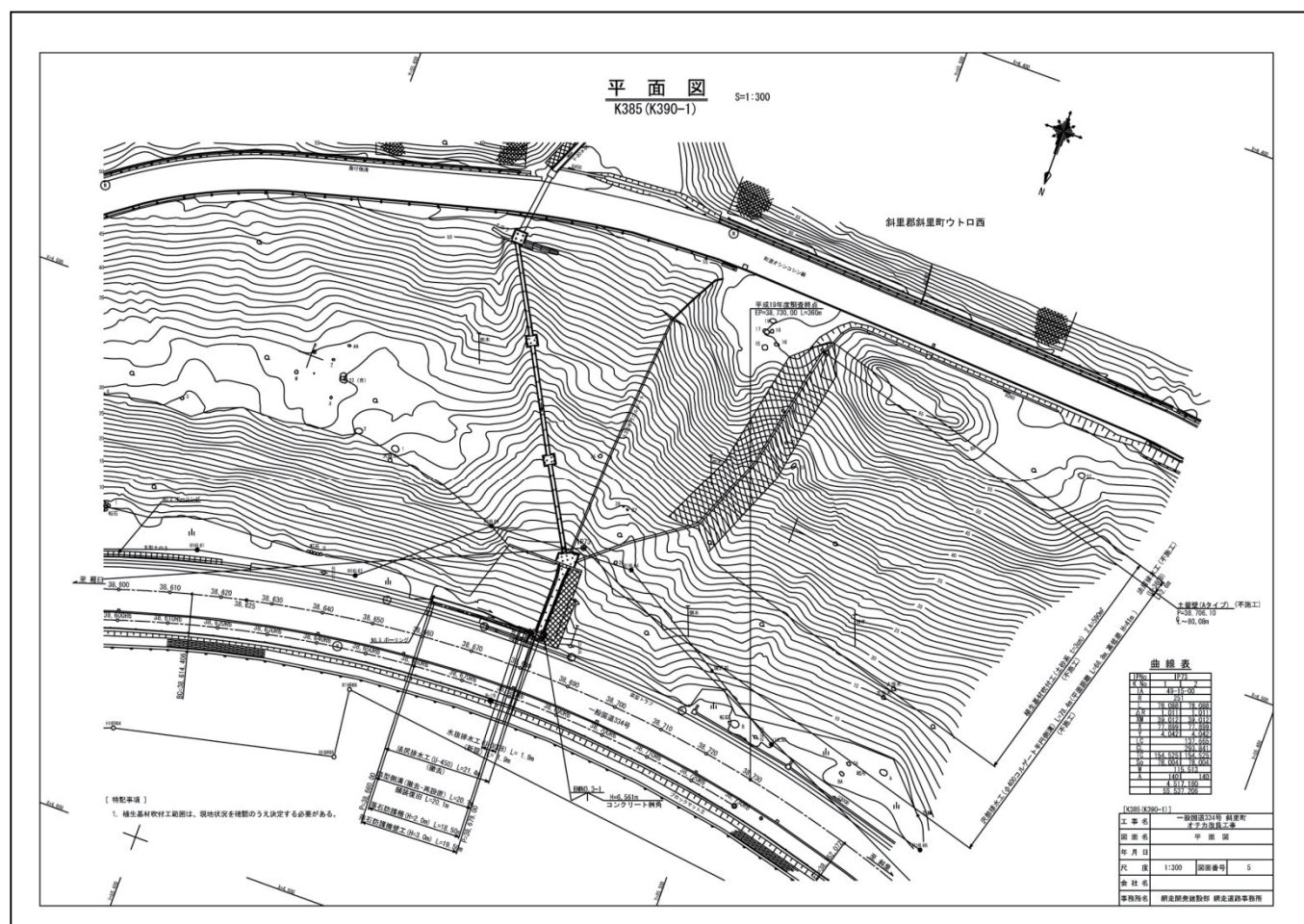


着工後





位置図



平面図

(11) イワウベツ川治山ダム改修工事（北海道森林管理局）

○事業の背景・目的

河川工作物 WG から改良が適当との助言を受けたことから、防災面の維持に加え自然環境との調和と魚類の生態系の回復を目的として施工を行った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町岩尾別（イワウベツ川支流赤井川）
- ・遺産地域の区分 世界自然遺産地域 B 地区
- ・法的規制 保健保安林、国立公園第 3 種特別地域、国指定鳥獣保護区（普通地域）。
- ・

○事業の概要及び規模（事業費 6 2 百万円）

- ・鋼製えん提にスリット設置及び護岸工事等
- ・工事実施期間は、9 月～11 月

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

着工前

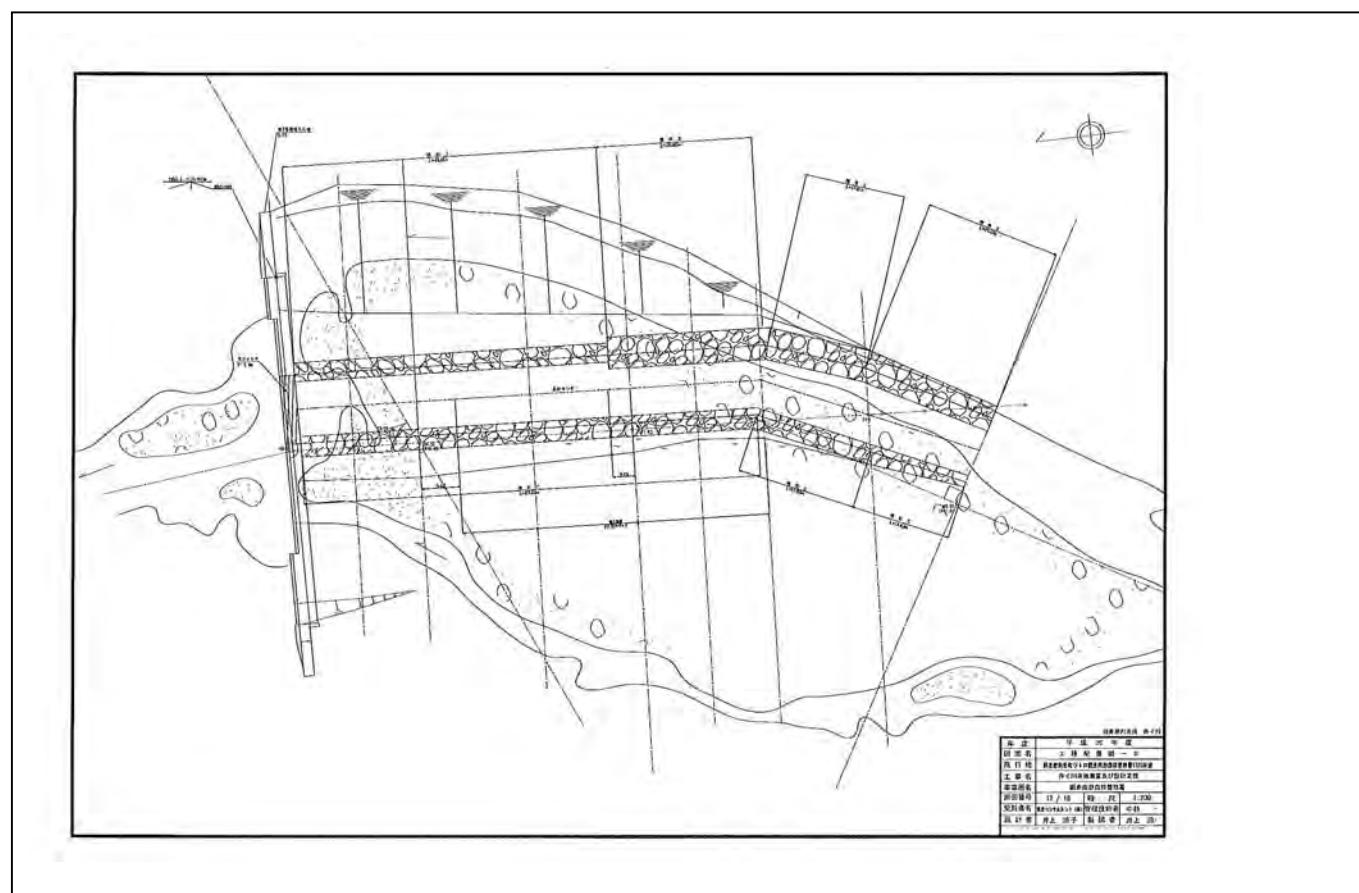


着工後





位置図



平面图

（１２）岩尾別カシワ林防鹿柵設置（北海道森林管理局網走南部森林管理署）

○事業の背景・目的

知床１００平方メートル運動地の隣接地であり、カシワ林をエゾシカの食害から守るために防鹿柵を設置。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町岩尾別
- ・遺産地域の区分 世界自然遺産地域 A 地区
- ・法的規制 潮害防備保安林、国立公園第 1 種特別地域、国指定鳥獣保護区（普通地域）
- ・

○事業の概要及び規模（事業費 4 百万円）

- ・平成 20 年度から防鹿柵を設置してきた。同地区に群落として残るカシワ林を守るため新たに防鹿柵を設置した(1.65ha)
- ・工事実施期間は、11 月～12 月

着工前



着工後



（１３）直轄特定漁港漁場整備事業（羅臼地区）（北海道開発局）

○事業の背景・目的

羅臼漁港は、サケ定置網漁業を中心とした地域水産業の拠点として、また根室海峡周辺漁場で操業している漁船の避難港として重要な役割を担っています。現在、慢性的な係留施設等の不足解消とともに、近年の食の安全に対する消費者ニーズの高まりを踏まえ、衛生管理の高度化に対応した屋根付岸壁等の施設整備を行い、安全・安心な水産物の安定供給を確保するための漁港づくりなど漁業情勢等に応じた整備を行っています。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 羅臼町羅臼漁港

○事業の概要及び規模（事業費 474 百万円）

- ・-3.5m 岸壁 1 式（低温清浄海水導入施設の送水管敷設）
- ・-4.0m 岸壁（改良） 155m（本体工他） ・-4.0m 岸壁（補修） 67.2m（本体工他）
- ・道路（補修） 35m（舗装工）

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- 【H21 実施】
- ・-3.5m 岸壁 1 式（低温清浄海水導入施設の送水管敷設）
 - ・-4.0m 岸壁（改良） 1 式（本体部築造）
 - ・-4.0m 岸壁（補修） 1 式（エプロン舗装）
 - ・道路 1 式（照明灯設置） ・用地 1 式（防塵処理）

- 【H23 継続】
- ・-3.5m 岸壁 1 式（低温清浄海水導入施設の送水管敷設）
 - ・-4.0m 岸壁（改良） 1 式（屋根部材製作工他）
 - ・-4.0m 岸壁（補修） 32.2m（本体工他）
 - ・道路（補修） 127m（舗装工）

着工前

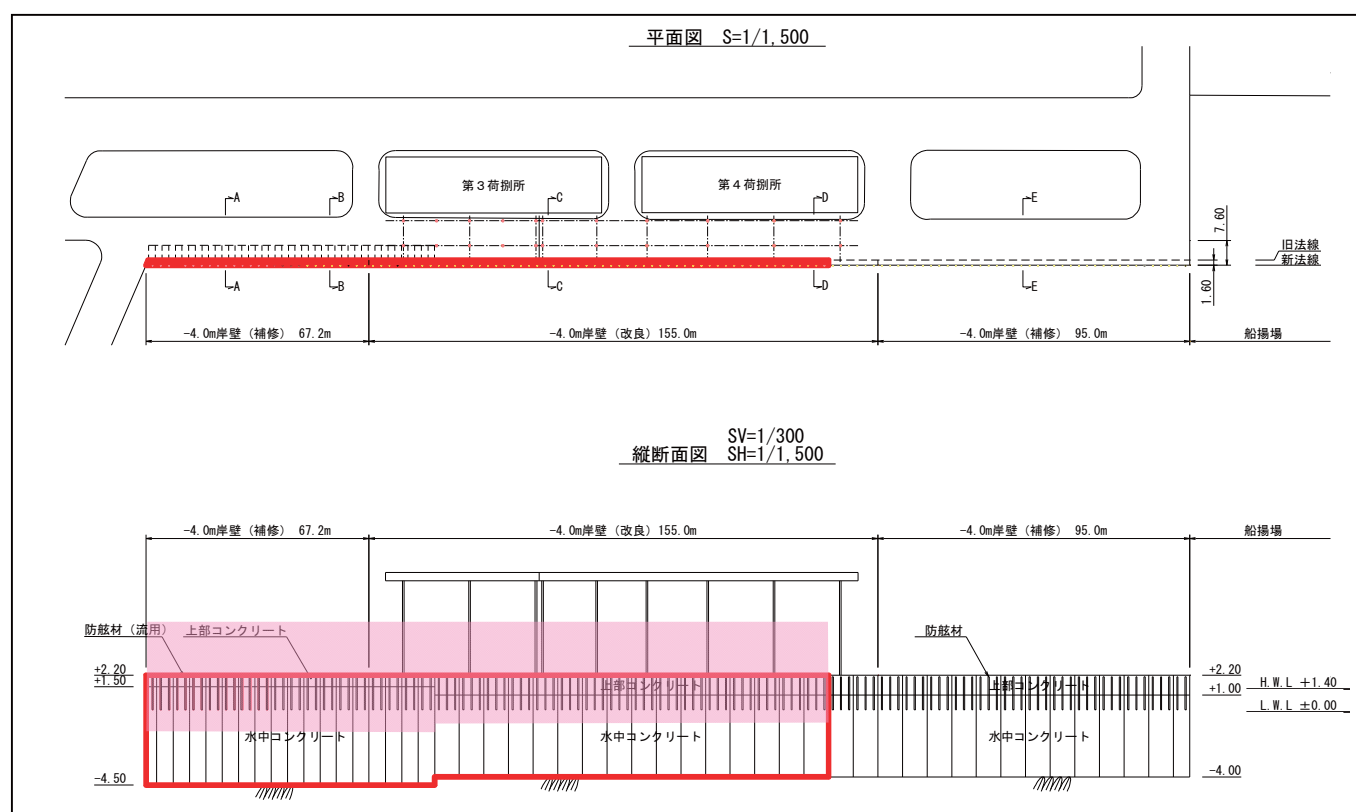


着工後





位置図



平面図

(14) 直轄特定漁港漁場整備事業（ウトロ地区）（北海道開発局）

○事業の背景・目的

ウトロ漁港は我が国有数のサケ・マス生産流通拠点であるとともに、知床観光の拠点となっています。現在、知床観光船・観光客と漁業活動の輻輳や背後用地の不足、水産物の衛生管理対策が不十分な状況であることから、漁業活動の効率化、衛生管理の高度化、観光拠点機能も有した漁港施設の整備を行っています。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町ウトロ漁港

○事業の概要及び規模（事業費 2,107 百万円）

- ・島防波堤 1 式（上部工他）
- ・-3.5m 岸壁 1 式（取水施設基礎工）
- ・用地（人工地盤） 1 式（P C 工他）

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

【H21 実施】

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ウトロ地区・島防波堤 1 式（上部工他） | ・道路 1 式（人工地盤スロープ上部他） |
| ・用地（人工地盤） 1 式（基礎工他） | ・中護岸 1 式（舗装工） |
| 知床岬地区・船揚場（改良） 1 式（付属工） | |

【H23 継続】

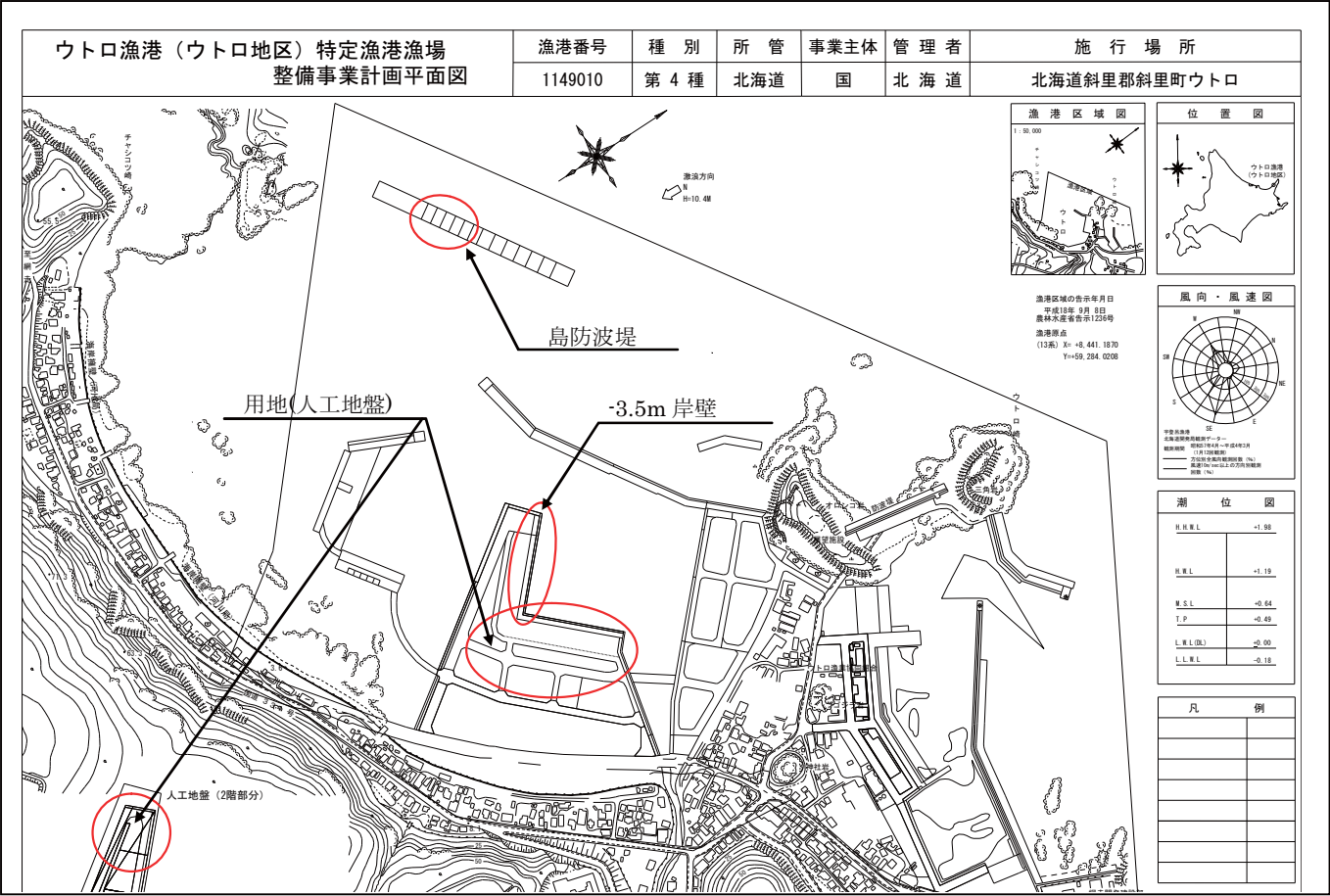
- | | |
|------------------------|---------------------|
| ・-3.5m 岸壁 1 式（取水施設基礎工） | ・-5.0m 岸壁 1 式（舗装工他） |
| ・用地 1 式（基礎工他） | |

着工前

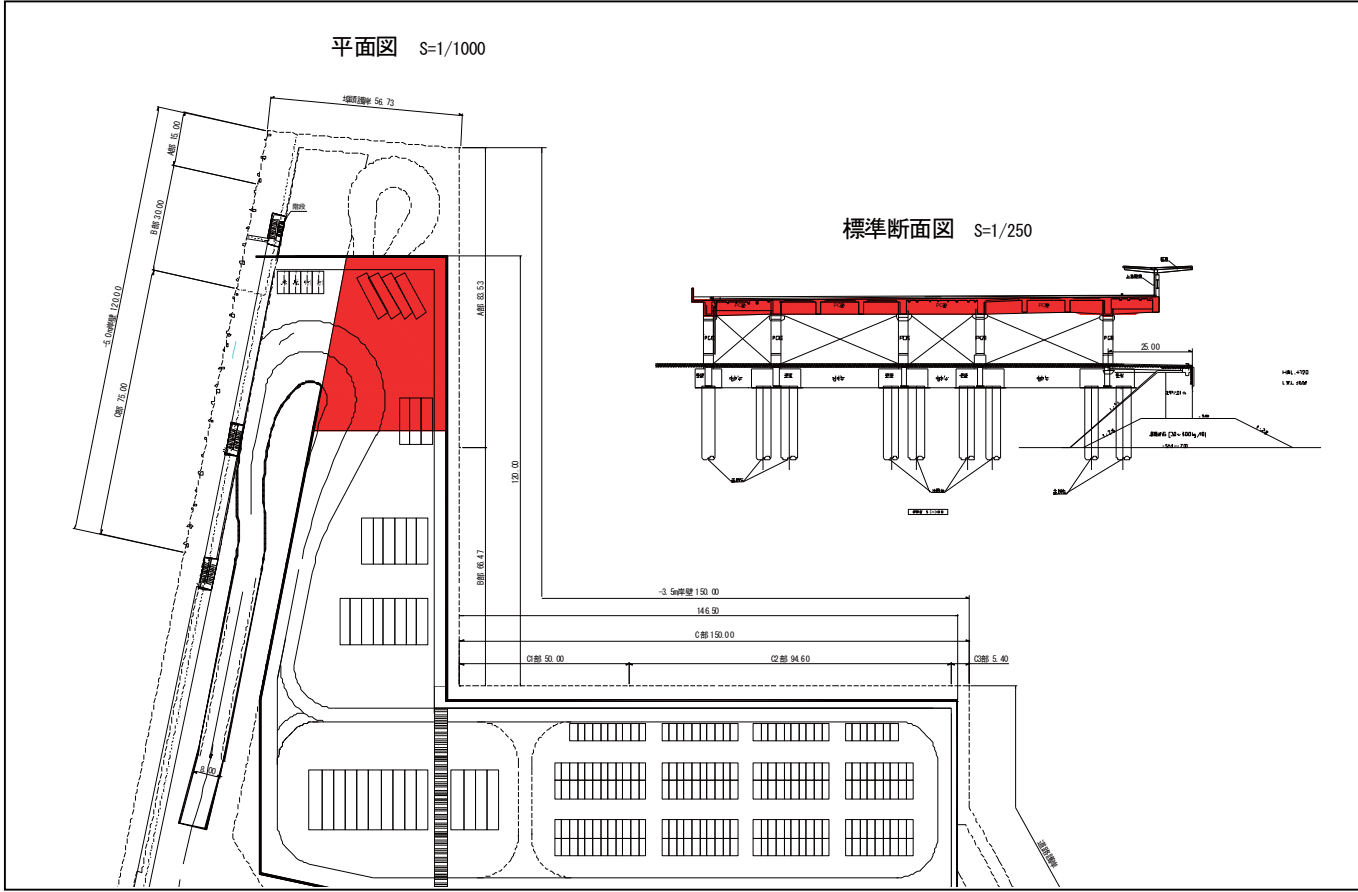


着工後



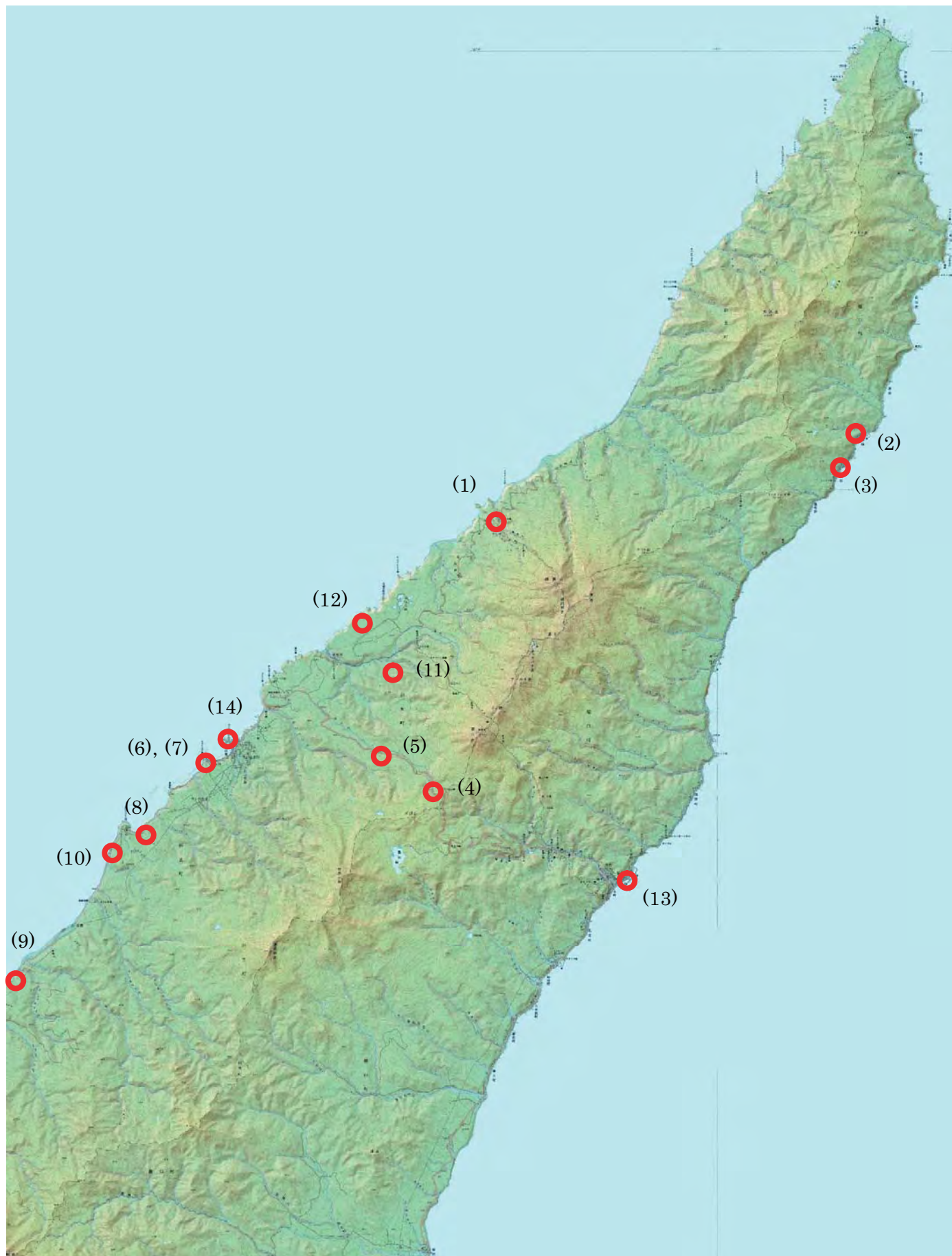


位置図



平面図

位置図



2. 知床地域の保全管理（ソフト事業）の状況

（1）長期モニタリング

No.	調査名	H22 年度	ページ
1	衛星リモートセンシングによる水温・流水分布・クロロフィル a の観測		
2	海洋観測ブイによる水温の定点観測	1)	58
3	アザラシの生息状況の調査	2)	60
4	海域の生物相、及び、生息状況（浅海域定期調査）		
5	浅海域における貝類定量調査		
6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査		
7	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査（林野庁1ha 囲い区）		
8	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査（環境省知床岬囲い区）	3)	61
9	エゾシカの採食圧の把握に関する広域植生調査	4) 5)	63 65
10	シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査		
11	エゾシカ越冬群の広域航空カウント	6)	68
12	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況(外来種侵入状況調査含む)	7)	70
13	陸生鳥類生息状況調査	8)	72
14	中小大型哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)		
15	広域植生図の作成		
16	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング	9)	73
17	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシロココマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)		
18	利用実態調査		
19	ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査	10)	75
20	気象観測		
21	海ワシ類の越冬個体数の調査		
22	シマフクロウの生息数、繁殖の成否、繁殖率と巣立ち幼鳥数、餌資源などに関する調査。標識や発信機装着による移動分散調査。死亡・傷病個体調査と原因調査		

①	航空機による海水分布状況調査	11)	76
②	アイヌアザラシの生物学的調査		
③	「北海道水産現勢」からの漁獲量の変動の把握	12)	77
④	スケトウダラの資源状態の把握と評価	13)	78
⑤	スケトウダラ産卵量調査		
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	14)	79
⑦	トドの被害実態調査	15)	81
⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング		
⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査		
⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	16)	82
⑪	エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査(哺乳類の生息状況調査を含む)	17) 18)	83 84
⑫	エゾシカの間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査	19)	86

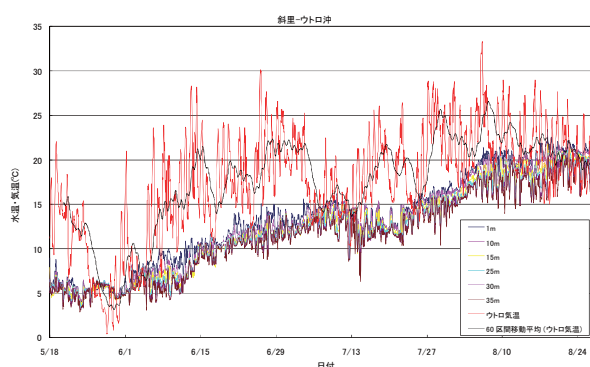
1) 海洋観測ブイによる水温の定点観測

資料名	平成 22 年度 知床半島沿岸域における海洋観測ブイを用いた海洋観測等に係る業務報告書
調査主体・事業費	環境省
評価項目	1. 特異な生態系の生産性が維持されていること 4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること 8. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること
管理目標	知床半島周辺海域の温暖化等を含む海洋環境の変化とその特徴をより詳細に把握
評価指標	水温
評価基準	長期的に見たときの変動幅を逸脱しているかどうか （基礎データとして他のモニタリング結果の評価にも活用）

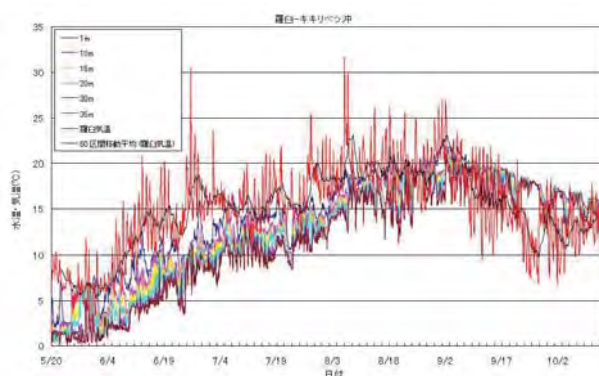
＜平成 22 年度の具体的調査手法＞

海洋観測ブイを斜里町ウトロ沖に 1 基、羅臼町キキリベツ沖に 1 基設置し、水温を観測した。水温観測した水深はいずれも 1、10、15、25、30、35m。

＜平成 22 年度の具体的調査データ＞



ウトロ観測水温及び気温の経時変化



羅臼観測水温及び気温の経時変化

＜コメント＞

○ウトロ

- ・水温は表面から海底近くまで 5～10℃程度の差異がある。
- ・水温は春期から夏期への移行と共に概ね上昇している。
- ・水温の鉛直分布としては、表面の水温が高く、水深が深いほど水温が下がる
- ・水温と気温は概ね連動しており、水温の支配要因は気温と考えられる。

○羅臼

- ・水温は表面から海底近くまで 5～8℃程度の差異がある。
- ・水温は春期から夏期への移行と共に概ね上昇し、夏期から秋期への以降と共に概ね低下している。
- ・水温の鉛直分布としては、表面の水温が高く、水深が深いほど水温が下がるが、9 月中旬以降は表面と大水深で近い水温を示す。
- ・水温と気温は概ね連動しており、水温の支配要因は気温と考えられる。

<評価>

- ・水温の変化は概ね気温と同期する。
- ・高気温時は躍層が発達するが、高波浪や高風速等気象擾乱により鉛直混合が促進され水温鉛直分布は均一になる。
- ・躍層発達と鉛直混合が繰り返されることで表層から底層までの全体の水温が気温に同期して変化する。

2) アザラシの生息状況の調査

資料名	海棲ほ乳類生息状況調査業務報告書(平成22年度)
調査主体・事業費	北海道・2,090千円
評価項目	1. 特異な生態系の生産性が維持されていること 3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること 8. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること
管理目標	
評価指標	来遊頭数
評価基準	アザラシの保護管理に重大な支障を生じさせないこと(絶滅のおそれを生じさせない)

<平成22年度の具体的調査手法[隔年度実施]>

海上(船によるライントランセクト)及び上空(ヘリセンサス)から目視による確認調査

<平成22年度の具体的調査データ>

(上空からのセンサス結果)

調査日	発見アザラシ類	個体数	備考
3/12	なし		
3/13	ゴマフアザラシ	2	全て網走湖結氷上

(海上からのセンサス結果)

調査日	アザラシ類			備考
	上陸	遊泳	合計	
3/21	2	3	3	上陸2頭は羅臼港内 ツチクジラ 10頭
3/26	14 (1)	6 (1)	20 (2)	上陸はゴマフ7頭(うち親子1組) クラカケアザラシ6頭 遊泳はゴマフ3頭 クラカケアザラシ2頭

<コメント>

- ・ヘリセンサスは流氷の状況に依存し、今回の調査では流氷が少なかったこと、および流氷に海水面がないのっぺりした(密接度が高い)状況であったため、アザラシが発見されなかったと考えられた。
- ・知床半島の羅臼側では流氷上でゴマフアザラシとクラカケアザラシが確認された。
- ・3/26にその日生まれのゴマフアザラシの親子を発見した。同個体を同じ夕方にも発見したが、流氷の位置は3,000mほどずれていた。また、観察していたところ、P u pは海水に入るのを嫌がり、また海水に入っても潜りはせず、頭を海上に上げて泳いでいるのみであった。また、夕方には、親子と雄の3個体が一緒にいるのが見られた。
- ・成獣雌のクラカケアザラシが、3/26にお腹がパンパンであったため、数日後には出産するものと考えられた。
- ・流氷上のゴマフアザラシとクラカケアザラシは、流氷上の分布がわかれていた。比較的ゴマフアザラシの方が流氷の密接度が低いところでの発見が多かった。

3) エゾシカの影響からの植生の回復状況調査

資料名	平成 22 年度 知床生態系維持回復事業 エゾシカの植生への影響調査業務報告書
調査主体・事業費	環境省
評価項目	3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	
評価指標	在来種の種数と種組成、採食圧への反応が早い植物群落（ササ群落 etc.）の属性（高さ・被度など）
評価基準	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと ササ群落 etc. の属性：1980 年代の状態へ近づくこと

<平成 22 年度の具体的調査手法>

○ガンコウラン群落防鹿柵（15m×15m 2003 年設置）

柵内外において、それぞれ 3ヶ所の固定方形区（1m×1m）及びランダムに 4ヶ所選定した補足方形区（1m×1m）において、出現種の優占度、草本層の植被率、生育段階（栄養状態、開花状態など）ならびに群落高を記録した。さらに、柵内と、柵外として柵に隣接する 15m×15m の範囲で出現する全植物種を記録した。ガンコウランについては、同範囲内で発見された全個体(株)の大きさ(長径×短径)を測定した。また、シャジクソウ、シコタンヨモギ、チシマセンブリの 3 種については開花、未開花に区分した個体数を、ヒメエゾネギについては花茎数を柵内外の調査区を 2.5m×15m の帯状に各 6 区画に区切り、その内の各 3 区画で記録を行った。

○山地高茎草本群落防鹿柵（エオルシの基部を遮断する形で 2003 年設置）

10ヶ所の固定方形区（1m×1m）について、出現種の優占度、草本層の植被率、生育段階ならびに群落高を記録した。

○亜高山高茎草本群落（シレトコトリカブト）防鹿柵（20m×20m 2004 年設置）

柵内の無処理区 3ヶ所、柵内の処理区（2004 年に優占するトウゲブキの地上部刈り取り）3ヶ所、柵外の 3ヶ所に設置された固定方形区において、出現種の優占度、草本層の植被率、生育段階ならびに群落高を記録した。また、柵内外各 20m×20m における全出現植物の種もあわせて記録した。

<平成 22 年度の具体的調査データ>

○ガンコウラン群落防鹿柵

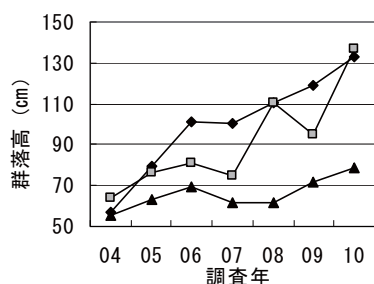
ガンコウラン群落（付表 1 の A）の柵内外の方形区を比較すると、植被率はそれぞれ 70～100%、60～80%と柵内が大きかった。出現種では、柵内外で共通してウシノケグサが優占していた。チシマセンブリは柵内のみで確認されており優占度が大きい方形区もみられ、さらに柵内全ての方形区で開花が確認された。ガンコウランの平均株面積は、2010 年は 759.3cm²と前年より大きく増加し、採食害からの回復が確認された。柵外では、増減を繰り返しながらも増加傾向が確認され、2007 年以降ではそれ以前より株面積が増大し 2010 年に 77.7 cm²と最大になった。

○山地高茎草本群落防鹿柵

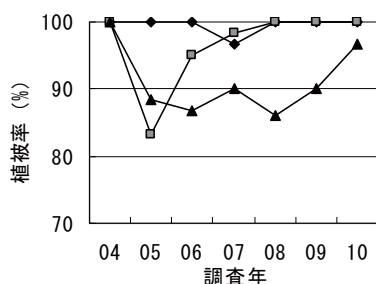
各固定方形区の植被率の平均値は、2009年に固定方形区8でヒグマの石の掘り返しにより80%を示したが、2010年には全固定方形区で100%を示した。群落高は、2002年から2007年にかけて増加傾向がみられたが、2008年以降は、明確な増減の傾向が見られていない。一方、平均出現種数は、2007年に最大となったが、その後は増減を繰り返している。

○亜高山高茎草本群落

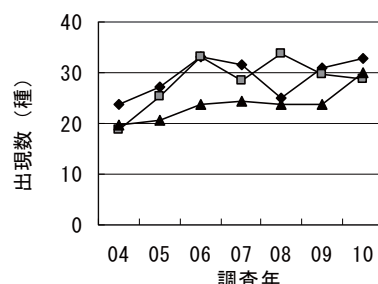
種ごとの優占度では、柵外の対照区の第一草本層で依然としてトウゲブキが優占した。柵内の無処理区のトウゲブキは、第一草本層、草丈の低い第二草本層共に減少傾向にあり、オオヨモギとアキタブキも優占度が上昇した。柵内の処理区では、第一草本層のトウゲブキは固定方形区4では減少、固定方形区5、6では見られなくなっており、第二草本層のみ確認した。柵外内（20m×20m）における出現種については、柵内では64種が、柵外では43種が確認され、2009年より柵内で1種、柵外で8種減少した。柵内外で新たに確認された種は、柵外で確認したチャシバスゲ1種のみであった。



平均群落高の変化



平均植被率の変化



平均出現種数の変化

<コメント・評価>

ガンコウラン群落と山地高茎草本群落では、柵の設置後8年間が経過し、亜高山高茎草本群落では実質的には6年が経過した段階にある。柵内の在来種の回復は緩やかに進行しており、柵外においても、ガンコウラン群落ではガンコウランに回復の兆しが認められた。2007年冬からエゾシカの密度調整が実施され、さらに2011年には知床岬地区を横断する大規模柵の設置が予定されていることから、今後の採食圧軽減とこれに伴うさらなる植生回復が期待される。したがって、エゾシカ密度調整の効果を評価する上でも、今後も確実に柵内外での植生の変化をモニタリングを継続することが重要と言える。

4) エゾシカの採食圧調査

資料名	平成 22 年度 知床生態系維持回復事業 エゾシカの植生への影響調査業務報告書
調査主体・事業費	環境省
評価項目	3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと 7. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること 8. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること
管理目標	
評価指標	在来種の種数と種組成、採食圧への反応が早い植物群落（ササ群落 etc.）の属性（高さ・被度など）、外来種の分布及び個体数、登山道沿いの踏圧状況
評価基準	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと ササ群落 etc. の属性：1980 年代の状態へ近づくこと 外来種：根絶、登録時より縮小 登山道沿いの踏圧状況：踏圧が拡大していないこと

<平成 22 年度の具体的調査手法・調査データ>

	調査項目		内 容
1	植生保護柵内外の 植生回復状況調査	調査方法	アブラコ湾・エオルシ・羅臼側台地に設置された防鹿柵内外において植生調査をおこなった。
		結 果	柵内では、いずれも回復傾向が示された。また、柵外について、一部の種、方形区では回復傾向が見られた。
2	草原における エゾシカ採食量調査	調査方法	知床岬草原台地に設置された金属柵内外における植生の変化、固定調査測線上のイネ科草本の現存量・ササ群落の変化・森林部葉量の垂直分布について調査した。
		結 果	イネ科草本の現存量・森林部の葉量は増加傾向がみられた。アメリカオニアザミは他の植生の繁茂によって、減少傾向が見られた。ササ群落は明確な増加傾向は見られなかった。
3	土壌浸食状況調査	調査方法	知床岬の固定定点および固定定点間における土壌浸食状況の変化を調査した。
		結 果	固定定点・固定定点間に侵食状況の拡大はみられなかった。
4	羅臼湖における 植生・エゾシカ採食圧調 査	調査方法	羅臼湖および周辺湿原において、5 つの固定帯状区を設置し、植生調査を実施した。また、植物相調査を実施した。
		結 果	5 つの固定帯状区では多様な植生交代を含むように設置した。各固定帯状区における今後のモニタリング視点を整理した。
5	ルサ相泊地区における 植生・エゾシカ採食圧調 査	調査方法	エゾシカが越冬する標高 300m 未満の木本群落・草本群落において植生調査を実施し、今後のモニタリングについて提案した。
		結 果	木本群落・海岸草本植生・外来草本吹付等でモニタリングを実施することが重要である。
6	硫黄山における	調査方法	東岳付近のシレトコスミレ群生地センサーカメラを設置した。ま

	シレットコスミレ調査		た、同群生地でフィールドサイン調査を実施した。
		結 果	センサーカメラでは、エゾユキウサギ・ヤチネズミ属 1 種を確認した。フィールドサインの食害では、明確にエゾシカと言える食痕はほとんど確認できなかった。

<コメント>

エゾシカの採食圧に対する植生の反応は、これまで主にイネ科やササ類を主な指標種としてきた。しかし、草原におけるエゾシカ採食量調査「森林部における葉量調査」から、高さ 2.5 m 未満層の木本葉量も指標となりうることが示唆されている。したがって、植生保護柵、あるいは仕切り柵によって、エゾシカの食害が確認されている木本群落を囲い込むことによって、採食圧の変化をより明確に把握できる可能性があると考ええる。木本植生の葉量は、その高さによって、回復期間が異なる可能性も示唆されているため、短期～中期の指標の開発としても植生保護柵の設置の重要性は高いと考える。

<評価>

知床岬では、植生保護柵の設置によって、柵内の植生は順調な回復が見られており、柵の設置は植生の保護に一定の効果が見られている。今回の植生調査から、一の沼南西部のケルミ・シュレンケ複合体は羅臼湖およびその周辺の湿原植生でも特徴的であること、同様の植生が知床沼ではエゾシカの踏みつけ攪乱によるケルミの崩壊のため、泥炭泥化し喪失していることから、可能であれば、同植生を保護する柵の設置が望ましいと考える。

5) エゾシカ広域採食圧調査

資料名	知床における森林生態系保全・再生対策事業（広域調査）報告書
調査主体・事業費	林野庁北海道森林管理局（約 150 万円）
評価項目	3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと 7. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること 8. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること
管理目標	
評価指標	在来種の種数と種組成、採食圧への反応が早い植物群落（ササ群落 etc.）の属性（高さ・被度など）、外来種の分布及び個体数、登山道沿いの踏圧状況
評価基準	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと ササ群落 etc. の属性：1980 年代の状態へ近づくこと 外来種：根絶、登録時より縮小 登山道沿いの踏圧状況：踏圧が拡大していないこと

＜平成 22 年度の具体的調査手法＞

平成 21 年度のエゾシカ WG の経緯を踏まえ、平成 22 年度のエゾシカ広域採食圧調査については、林野庁及び環境省が実施した調査仕様の異なる 69 箇所の調査区データの統合・再分析、半島全域における調査区配置の再検討及び統一フォーマットの作成を実施。

＜平成 22 年度の具体的調査データ＞

○調査区データの統合

過去の報告書よりデータを収集し、広域採食圧調査地 69 箇所のデータを項目ごとに整理しデータを統合。

○統合データを用いた再分析

分析に当たっては、エゾシカの利用可能資源可能量として、立木現存量、樹皮面積、下枝密度、稚樹密度、ササ現存量及び林床植生量を集計し、実際のシカの利用状況として、樹皮、下枝、稚樹の被食率を算出の上、傾向を分析。

○効率的な影響把握のためのモニタリング箇所の再選定と再配置

選定に当たっては、エリア配分、存続させる調査区及び新規に設定する調査区を考察し、既存調査区のうち 32 区、新設 32 区の合わせて 64 区を候補とした（表 1）。

○今後使用する統一フォーマットの作成

エゾシカ採食圧調査成果の汎用性を確保するため、調査仕様、時期、個別の箇所における留意事項等を含めた統一フォーマットを作成。

＜コメント＞

平成 23 年度の広域採食圧調査については、本事業の成果を踏まえ、新規に設定する 32 箇所の固定調査区の設定及び調査を実施。また、調査手法についても、統一フォーマットにより実施。

<評価>

平成２３年度から統一フォーマットに基づいた調査を実施することから、今後は汎用性に富んだエゾシカ採食圧の影響の評価を得ることが期待される。

The map displays the following locations and associated numerical data:

- 知床岬 (Shirakami Peninsula):** 2 ⇒ 2 + 4 (top right), 3 ⇒ 2 (top left), 9 ⇒ 2 (top right), 岬西側 (left), 岬東側 (right), 知床岳 (Shirakami Dake), 1 ⇒ 1 (right), 相泊 (Aihaku), 2 ⇒ 0 + 2 (right), ルサ (Rusa), 8 ⇒ 2 + 2 (right), サシルイ (Sashirui), +4 (right), 4 ⇒ 3 (right), +2 (right), 3 ⇒ 2 (right), 4 ⇒ 2 + 2 (bottom right).
- 五湖 (Goko):** 4 ⇒ 4 + 2 (top left), +2 (top left), 5 ⇒ 0 + 4 (top left), 8 ⇒ 4 (center), 知床五湖 (Shirakami Goko), 宇登呂 (Udenryo), 1 ⇒ 1 + 2 (center), 羅臼岳 (Rausu Dake), 1 ⇒ 1 (center), 羅臼 (Rausu), 知西別 (Chisai Betsu), 春刈古丹 (Harigiri Kodan), 陸志別 (Rikushibetsu), 峯浜 (Minami).
- 幌別岩尾別 (Horo Betsu Iwabe Betsu):** +2 (left), オシンコシン (Oshinkoshin), 遠音別 (Toon Betsu), 真鯉 (Matsukari), 11 ⇒ 4 (left), 3 ⇒ 2 + 2 (left), 別岳 (Betsu Dake), 1 ⇒ 1 (center), 知床五湖 (Shirakami Goko), 宇登呂 (Udenryo), 1 ⇒ 1 + 2 (center), 羅臼岳 (Rausu Dake), 1 ⇒ 1 (center), 羅臼 (Rausu), 知西別 (Chisai Betsu), 春刈古丹 (Harigiri Kodan), 陸志別 (Rikushibetsu), 峯浜 (Minami).
- Other locations:** ルシャ (Rusha), 知床岳 (Shirakami Dake), 相泊 (Aihaku), ルサ (Rusa), サシルイ (Sashirui), 羅臼 (Rausu), 知西別 (Chisai Betsu), 春刈古丹 (Harigiri Kodan), 陸志別 (Rikushibetsu), 峯浜 (Minami), 海別岳 (Uminakabe Dake).

図1 エリアごとの調査区の配分（水色は300m以上の区域、+nは新規に追加する調査区数）

6) エゾシカ越冬群の広域航空カウント

資料名	①平成 22 年度知床生態系維持回復事業 エゾシカ捕獲手法調査業務報告書 ②平成 22 年度知床生態系維持回復事業 エゾシカ航空カウント・季節移動調査業務報告書
調査主体・事業費	環境省
評価項目	5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	
評価指標	越冬群の個体数
評価基準	主要越冬地の密度を 1980 年代初頭並みにすること

<平成 22 年度の具体的調査手法>

- ① ヘリコプターで低空を飛行し、目視によりエゾシカ個体数と群れの位置を記録し、越冬個体の分布特性や生息数の動向を「平成 14 年度知床国立公園生態系保全管理等の充実に向けた基盤整備事業」で得られた結果と比較し、その変化を把握した。
- ② 知床岬上空を低空・低速で飛行中の軽飛行機から写真撮影と目視観察を行い、知床岬台地上及び森林内のエゾシカ頭数と分布状況を調査した。また、メス成獣 22 頭の季節移動状況について追跡調査を実施した。

<平成 22 年度の具体的調査データ>

- ① エゾシカ総発見数は、3,930 頭であり、77%が半島西側（斜里町側）で確認され、東側（羅臼町標津町側）に比べ西側に多い傾向があった。
- ② 2011 年 1 月 12 日に知床岬先端部において確認したエゾシカの頭数は 246 頭であった。エゾシカの分布は海食台地草原上に集中していた。また、追跡可能であった 17 頭のうち季節移動パターンを示したのは 2 頭のみで、残り 15 頭は通年同地区にとどまり続けた。

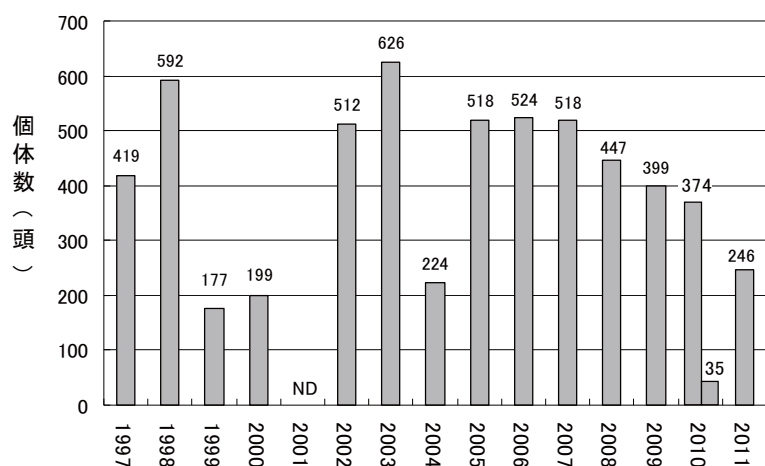


図. 航空カウント調査による知床岬台地上のシカ確認数の推移 ※ND は調査なし

<コメント>

- ① エゾシカ総発見数の 77%が半島西側（斜里町側）であったという、東側（羅臼町標津町側）よりも西側で発見割合が高いという傾向は、前回 2003 年の調査時より顕著となった。地区別には、知床岬

と斜里町基部で 2003 年よりも減少傾向が認められたほか、斜里町幌別岩尾別を中心とした地域で増加傾向にあった。一方、羅臼町側におけるエゾシカ発見数は、どの地区においても 2003 年から大きな変化は認められなかった。

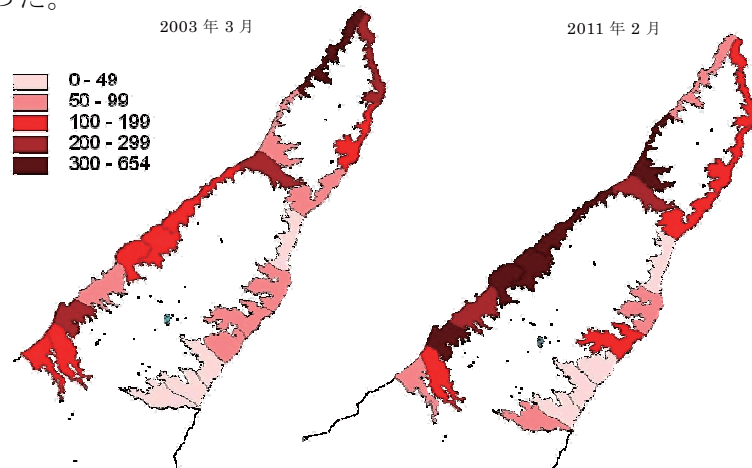


図 知床半島エゾシカヘリカウント調査の経年比較。2003 年 3 月（左）、2011 年 2 月（右）

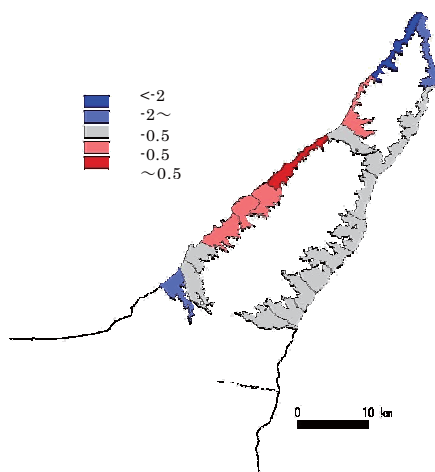


図 知床半島エゾシカヘリカウント調査の経年比較。

$$\frac{((2011 \text{ 年値}) - (2003 \text{ 年値}))}{(t \text{ 検定標準偏差})}$$
で表し、青が減少傾向、赤が増加傾向、灰色はほぼ変化なし。

- ② 知床岬地区では今後、シカ確認数の減少に伴い、捕獲効率が低下すると考えられる。捕獲効率の低下に対応するため、仕切り柵などの対策が必要になる。来年度、知床岬地区では仕切り柵の設置が予定されており、捕獲効率の向上と捕獲コストの低下が見込まれる。また、仕切り柵の設置と柵内での捕獲作業によって、シカの忌避学習効果があった場合には、柵内に侵入するシカは減少し、柵による物理的なアクセス抑制と相まって、先端部の植生回復が早まることも期待できる。

7) 陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況

資料名	平成 22 年度 知床半島における昆虫類モニタリング業務報告書
調査主体・事業費	環境省
評価項目	3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	
評価指標	動物相、生息密度、分布
評価基準	登録時の生息状況・多様性を下回らぬこと 外来種は、根絶、生息情報の最少化

＜平成 22 年度の具体的調査手法＞

○エゾシカ個体数の増加による昆虫類の変化の把握(昆虫類モニタリング調査)

7～9月にわたり、知床岬地区の山地高茎草本群落、ガンコウラン群落、亜高山高茎草本群落の草原植生保護区及び森林調査区、幌別地区の森林調査区の保護柵内外、羅臼地区の植生モニタリングサイトを調査地として、ピットフォールトラップ、ボックスライトトラップ、スウィーピング法による現地調査を実施した。

○不足知見の把握のための昆虫類調査の実施(昆虫類生息状況調査)

①エゾシカ生息の影響を強く受けている ②影響後の回復過程にある ③影響をほとんど受けていない環境を選定して、ピットフォールトラップ、ボックスライトトラップ、スウィーピング法による採集及び目撃法による記録を行った。

＜平成 22 年度の具体的調査データ＞

○エゾシカ個体数の増加による昆虫類の変化の把握(昆虫類モニタリング調査)

ピットフォールトラップ：クラスター分析及び除歪対応分析の結果、①ガンコウラン群落、②亜高山高茎草本群落、③森林調査区及び羅臼の樹林地に区分され、また、亜高山高茎草本群落は、ガンコウラン群落よりも樹林環境に類似していることが示された。

柵内外におけるオサムシ科甲虫の群集構造の比較によって、柵内外でヒメクロオサムシやツンベルグナガゴミムシ等の特定の種の出現頻度に差が認められた。樹林環境では、ヒメクロオサムシ等の大型オサムシ類の個体数が、柵内で多い傾向が認められた。

ボックスライトトラップ：蛾類を対象として、食性区分毎の各種の出現状況について柵内外での比較を行い、柵内で各食性区分ともに個体数が多い傾向が認められた。

スウィーピング法：各目の主要な科について個体数を計数し、柵内外で採集された分類群並びに個体数の比較を行い、草地環境ではカメムシ目やハエ目、ハナバチ類の出現状況、樹林環境ではハエ目やハチ目の出現状況に違いが認められた。

○不足知見の把握のための昆虫類調査の実施(昆虫類生息状況調査)

全体で 11 目 150 科 743 種の昆虫類が確認された。

表. 目別確認種数一覧(現地調査)

目名	全体		種数				
			草地環境		樹林環境		
	科数	種数	①	②	①	②	③
トンボ	4	8	5	1	1	1	4
バッタ	5	12	5	9	3	4	2
ハサミムシ	1	2	1	1	2	2	2
チャタテムシ	3	5	1	0	4	5	2
カメムシ	21	66	17	22	25	27	19
アミメカゲロウ	3	8	1	1	2	3	5
コウチュウ	42	214	37	53	93	106	72
ハチ	10	41	10	17	17	21	7
ハエ	23	80	24	33	31	34	20
トビケラ	10	12	0	0	0	1	12
チョウ	28	295	13	10	190	178	93
11	150	743	115	147	368	382	238

※ ① 影響を強く受けている、② 影響後の回復過程にある、③ 影響をほとんど受けていない環境
 草地 ①：山地高茎草本群落柵外、ガンコウラン群落柵外、亜高山高茎草本群落柵外
 草地 ②：山地高茎草本群落柵内、ガンコウラン群落柵内、亜高山高茎草本群落柵内
 樹林 ①：幌別森林調査区柵外、知床岬森林調査区柵外
 樹林 ②：幌別森林調査区柵内、知床岬森林調査区柵内
 樹林 ③：羅臼地区

<コメント>

保護柵内外における昆虫類の群集構造の違いは、保護柵内では植生が回復傾向にあり、柵外と比較し、多様な植物が生育しつつあること等を示していると考えられる。

何れの地点においても、エゾシカ生息の影響を強く受けている植生保護区や森林調査区の柵外と比べ、影響後の回復過程にある柵内で多くの種が確認された。影響をほとんど受けていない環境として設定した羅臼地区では、エゾシカの影響が少なく、ササ類が多く生育している環境を反映し、他の樹林環境と比較して確認科種数はやや少なくなっていた。

8) 陸生鳥類生息状況調査

資料名	平成 22 年度 知床岬における鳥類相モニタリング業務報告書
調査主体・事業費	知床財団
評価項目	3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	
評価指標	鳥類相、生息密度、分布
評価基準	登録時の生息状況・多様性を下回らぬこと

<平成 22 年度の具体的調査手法>

○ラインセンサス

草原コース及び森林コースの 2 つの調査コース上を時速 1.5～2km で歩きながら、コースの左右 25m（計 50m）幅のエリア内に出現した鳥類及び鳴き声を確認した種を同定して発見時刻、種名、個体数及び発見位置を記録した。

○スポットセンサス

草原コース及び森林コース上にそれぞれ 5 ヶ所ずつ設定したスポットにおいて、10 分間調査を行い、種名、確認方法（目視、さえずり、地鳴き、飛翔）及び個体数を記録した。

<平成 22 年度の具体的調査データ>

○ラインセンサス

草原コース：6/12 の 1 回目に 24 種、6/13 の 2 回目に 13 種、同日の 3 回目に 16 種が確認された。
森林コース：6/12 に 23 種が確認された。

○スポットセンサス

草原コース：6/12 の 1 回目に 25 種、6/13 の 2 回目に 21 種の合計 28 種が確認された。
森林コース：6/12 の 1 回目に 16 種、6/13 の 2 回目に 15 種の合計 21 種が確認された。

<コメント>

今後のエゾシカ捕獲の影響で植生が回復方向へ変化していった場合、鳥類相も高茎草本群落や林床のヤブを好む種が増加する方向に変化していくと予想される。

9) 河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング

資料名	平成 22 年度しれとこ 100 平方メートル運動地森林再生推進業務報告書 平成 22 年度しれとこ 100 平方メートル運動地森林再生専門委員会議会議案
調査主体・事業費	斜里町
評価項目	2. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること 4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること 6. 河川工作物による影響が軽減されるなど、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持されていること
管理目標	
評価指標	遡上数、産卵床数、河川工作物の遡上及び産卵への影響
評価基準	各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること 河川工作物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていること

＜平成 22 年度の具体的調査手法＞

降海型サクラマス（親魚）の遡上個体と産卵床の確認及び幼魚や河川残留型雄の生息状況の把握を目的とし、産卵期である 8 月末～9 月上旬に幌別川・岩尾別川で各 1 回潜水調査を実施した。

平成 21 年度に北見管内さけ・ます増殖事業協会によって放流された発眼卵（20 万粒）の生息状況調査を 5～6 月、岩尾別川および支流の白イ川においてサクラマスの生息状況調査（潜水、タモ網）を実施した。

＜平成 22 年度の具体的調査データ＞

幌別川および岩尾別川では、1999～2001 年の 3 年間に計 15 万粒のサクラマス発眼卵と 5 万尾の稚魚が放流されており、2008 年度より、岩尾別川支流白イ川でのサクラマス発眼卵の放流を再開している。

8～9 月の潜水調査では、幌別川にて親魚 1 尾（♂）、岩尾別川にて親魚 1 尾（♀）を確認。産卵床は、両河川において確認することができなかった。

【サクラマス稚魚及び発眼卵放流】

放流実施年	幌別川		岩尾別川		備考
	稚魚	発眼卵	稚魚	発眼卵	
1999 年（H11）	5 万	3 万	5 万	3 万	稚魚は春に、発眼卵は秋に放流を行った
2000 年（H12）	—	10 万	—	7 万	
2001 年（H13）	—	5 万	—	5 万	
2008 年（H20）	—	—	—	15 万	
2009 年（H21）	—	—	—	20 万	
2010 年（H22）	—	—	—	10 万	

【サクラマス親魚及び産卵床確認数】

調査実施年	幌別川		岩尾別川		備考
	親魚	産卵床	親魚	産卵床	
2001 年（H13）	1	0	5	2	1999 年春に放流した個体（稚魚）の回帰遡上年

2002 年 (H14)	5	4	0	0	1999 年秋に放流した個体（発眼卵）の回帰遡上年
2003 年 (H15)	8	7	7	9	2000 年秋に放流した個体の回帰遡上年
2004 年 (H16)	9	24	6	17	2001 年秋に放流した個体・自然産卵で生まれた個体の回帰遡上年
2005 年 (H17)	2	3	1	0	2002 年に自然産卵で生まれた個体の回帰遡上年
2006 年 (H18)	2	1	2	0	2003 年に自然産卵で生まれた個体の回帰遡上年
2007 年 (H19)	1	0	2	1	2004 年に自然産卵で生まれた個体の回帰遡上年
2008 年 (H20)	2	1	0	0	2005 年に自然産卵で生まれた個体の回帰遡上年
2009 年 (H21)	0	0	0	0	2006 年に自然産卵で生まれた個体の回帰遡上年
2010 年 (H22)	1	0	1	0	2007 年に自然産卵で生まれた個体の回帰遡上年

5～6 月のサクラマス生息状況調査では、平成 21 年度放流した発眼卵がふ化して稚魚が生息していることを確認。ただし、サクラマス遡上個体は確認できず。降海前のスモルト個体は河口付近で 16 個体確認。

<コメント>

岩尾別川における堰堤等の改良により、サクラマスの生息・産卵可能範囲が広がってきており、生息環境は好転していると考えられるが、近年の新魚の確認は低位横ばい状態が続いている。

10) ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査

資料名	平成 22 年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業 「知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進業務」報告書、 斜里町ヒグマ管理対策事業業務報告書、羅臼町ヒグマ管理対策業務報告書
調査主体・事業費	環境省、斜里町、羅臼町
評価項目	7. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること
管理目標	
評価指標	出没及び被害発生状況
評価基準	出没状況：現状を上回らないこと 被害：人身被害が発生しないこと、その他の被害は現状以下に

＜平成 22 年度の具体的調査手法＞

ヒグマの出没状況は、地元住民や観光客などからの聞き取りによりアンケート形式で情報を収集した。アンケート用紙はヒグマを目撃した場所、日時、状況、個体の特徴等を記入するもので、知床国立公園内にある主要な施設（知床自然センター、知床世界遺産センター、知床五湖レストハウス、木下小屋、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス）に配置した。なお、斜里側のヒグマ観察を目的とした観光船による洋上からの目撃や、少数の漁業番屋しか存在しない斜里町側の知床大橋から知床岬までの間で記録された人間との軋轢を伴わない目撃については対象としていない。2010 年のヒグマ目撃は 3 月から始まったため、集計を 2010 年 3 月から 2011 年 2 月末の期間で行った。

＜平成 22 年度の具体的調査データ＞

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内におけるヒグマ目撃件数は 649 件（斜里側 509 件、羅臼側 140 件）、ヒグマ対策活動の実施件数は 379 件（斜里側 311 件、羅臼側 68 件）であった。

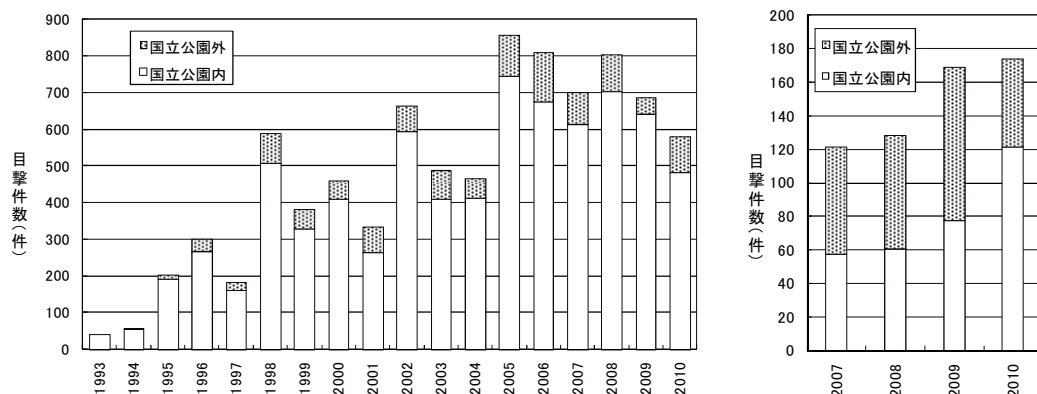


図. 斜里町（左）、及び羅臼町（右）における国立公園内外のヒグマ目撃件数.

＜コメント＞

斜里町では 2005 年より 700 件から 800 件の高い水準で推移していたものの、2008 年より 2 年連続で 100 件超の減少が続いている。今後、この減少傾向が継続するのかを注視していく必要がある。一方、羅臼町においては 2007 年に 121 件だったものが 2010 年には 174 件に達しており増加傾向にある。

利用者の安全確保とヒグマの保全を両立させるためには、従来のヒグマ対策活動の継続に加え、利用者の行動や利用をコントロールできる仕組みやルール作りといった知床国立公園の利用適正化を積極的に推進していくことが必要である。また、知床半島に生息するヒグマ個体群を維持していく為、知床半島全体を対象とした管理が必要である。

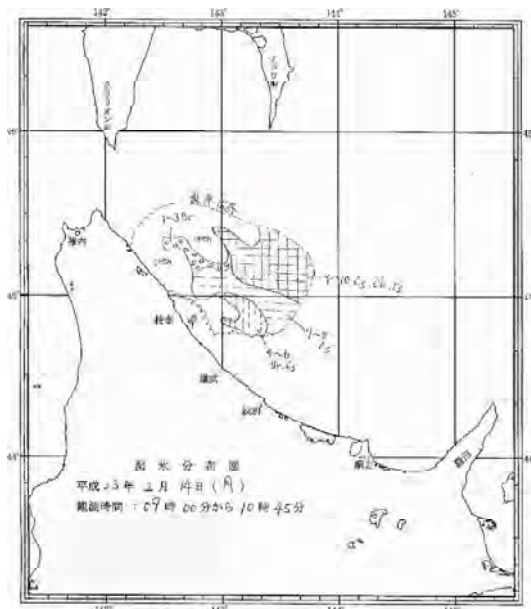
11) 航空機による海水分布状況観測

資料名	平成22年度オホーツク海南西海域海水観測報告書
調査主体・事業費	第一管区海上保安部
評価項目	1. 特異な生態系の生産性が維持されていること 4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること 8. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること
管理目標	
評価指標	海水の分布状況
評価基準	※基礎的な統計資料であることから、具体的数値目標を設定することは困難

<平成22年度の具体的調査手法>

航空機による目視観測

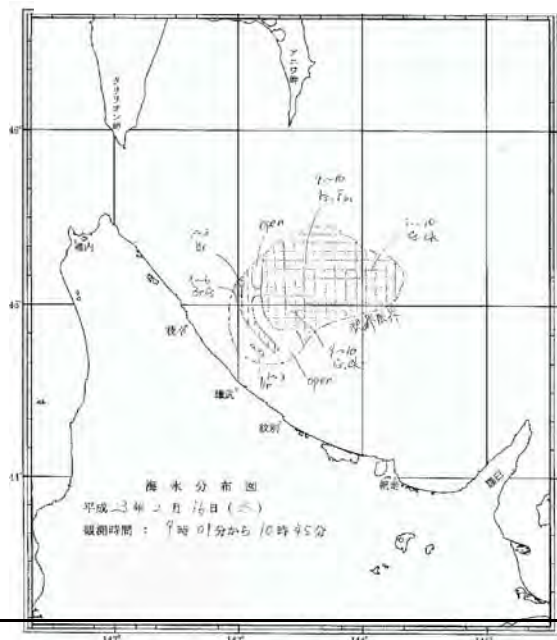
<平成22年度の具体的調査データ>



↑ 平成23年2月14日



↑ 平成23年2月15日



← 平成23年2月16日

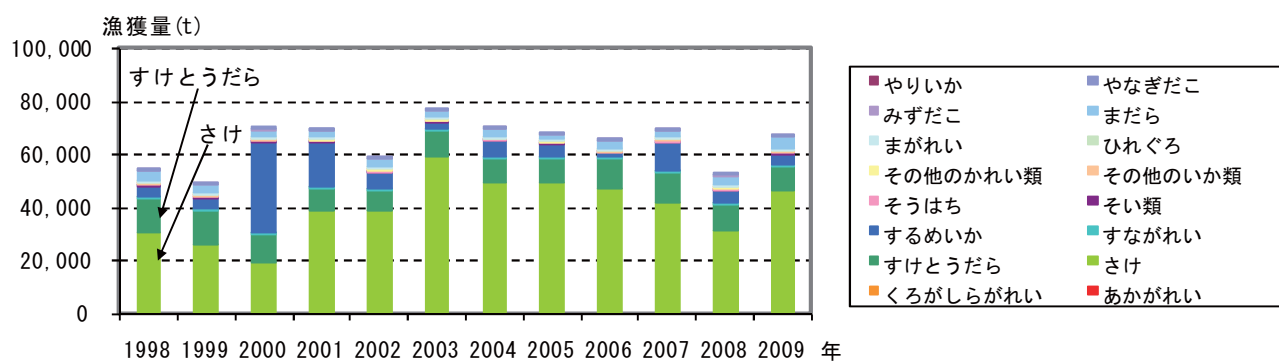
12) 「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握

資料名	平成21年北海道水産現勢
調査主体・事業費	北海道
評価項目	1. 特異な生態系の生産性が維持されていること 3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること
管理目標	
評価指標	漁獲量を調査
評価基準	※基礎的な統計資料であることから、具体的数値目標を設定することは困難

<平成22年度の具体的調査手法>

各漁協から魚種ごとの漁獲量等を調査

<平成22年度までの具体的調査データ>



遺産地域内海域に生息する主要な魚介類の年度別漁獲量

○年度別漁獲量（単位：トン）

サケ		
	斜里町	羅臼町
1998年	19,614	10,880
1999年	15,071	10,881
2000年	10,672	8,755
2001年	20,152	18,844
2002年	19,085	19,756
2003年	31,872	27,581
2004年	27,304	22,163
2005年	29,990	19,578
2006年	29,999	17,566
2007年	25,352	16,605
2008年	20,078	11,192
2009年	32,261	14,026

スケトウダラ		
	斜里町	羅臼町
1998年	42	13,910
1999年	17	13,939
2000年	24	10,869
2001年	18	8,637
2002年	20	8,138
2003年	76	10,077
2004年	53	9,951
2005年	32	9,637
2006年	19	11,319
2007年	37	11,849
2008年	48	10,234
2009年	113	9,738

13) スケトウダラの資源状態の把握と調査

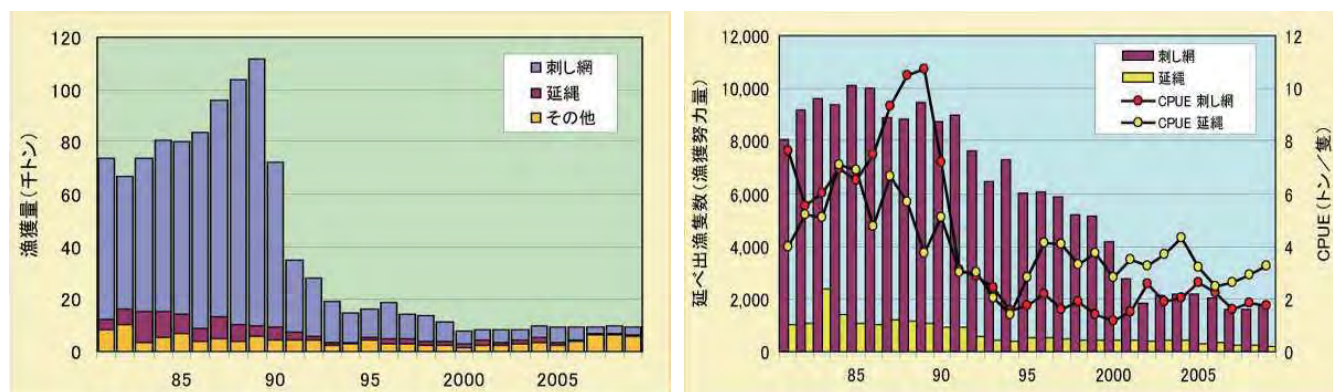
資料名	我が国周辺水域の漁業資源調査(平成22年度)
調査主体・事業費	水産庁
評価項目	1. 特異な生態系の生産性が維持されていること 4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること
管理目標	
評価指標	資源水準・動向
評価基準	スケトウダラを持続的に有効利用できる資源水準・動向であること

<平成22年度の具体的調査手法>

日本漁船による漁獲量や単位当たり漁獲努力量(CPU E)、漁獲物の年齢組成を基に、これまでに得られているロシア側の情報を考慮して資源状態を推定

<平成22年度までの具体的調査データ>

根室海峡における2009年度の漁獲量は、9.5千トンとほぼ前年並みであった(2008年度は9.9千トン)



* 図出典：水産庁「平成22年度 我が国周辺水域の漁業資源評価 ダイジェスト版」

<コメント>

資源の水準は低位、動向は横ばいと判断

14) トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性

資料名	平成21年度トド資源調査(年度は「トド年度」…平成21年10月～平成22年6月)
調査主体・事業費	全国漁業協同組合連合会・
評価項目	1. 特異な生態系の生産性が維持されていること 3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること 8. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること
管理目標	
評価指標	来遊頭数
評価基準	最小資源豊度推定値

<平成22年度までの具体的調査手法>

航空機からの目視調査

<平成22年度の具体的調査データ>

平成21年度調査結果概要

(1)来遊状況

航空機からの目視調査

- ・平成22年4月15～25日
- ・全域で計81群101頭を確認

航空機目視調査に基づく来遊数推定

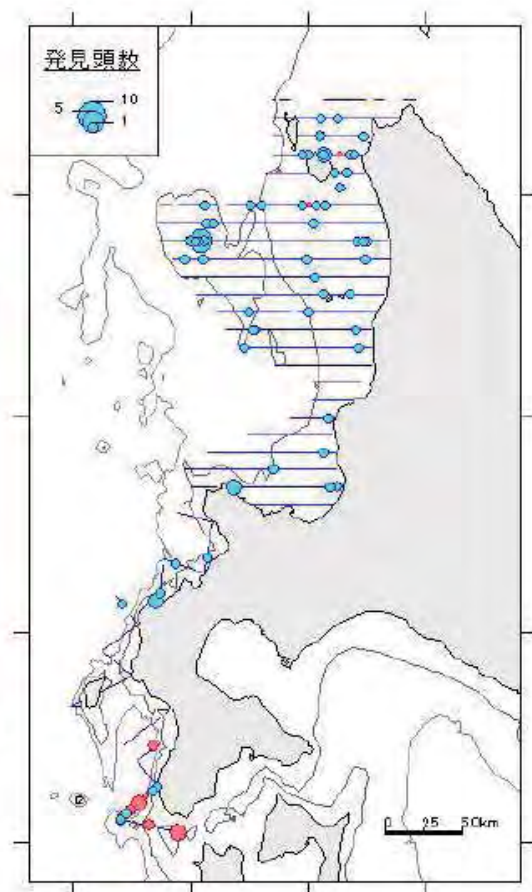
過去5年間の結果をもとに、北海道に冬期来遊するトドの個体数を以下のように推定した

- ・日本海 5,800頭(4,377～7,686頭、95%信頼区間)
- ・根室海峡 平均92.6頭(53～123頭)

*ただし、採捕枠管理のための人為的死亡許容頭数の推定には60%信頼区間の下限値である5,157頭(日本海・根室海峡計)を用いる

調査測線とトド発見位置 ▶

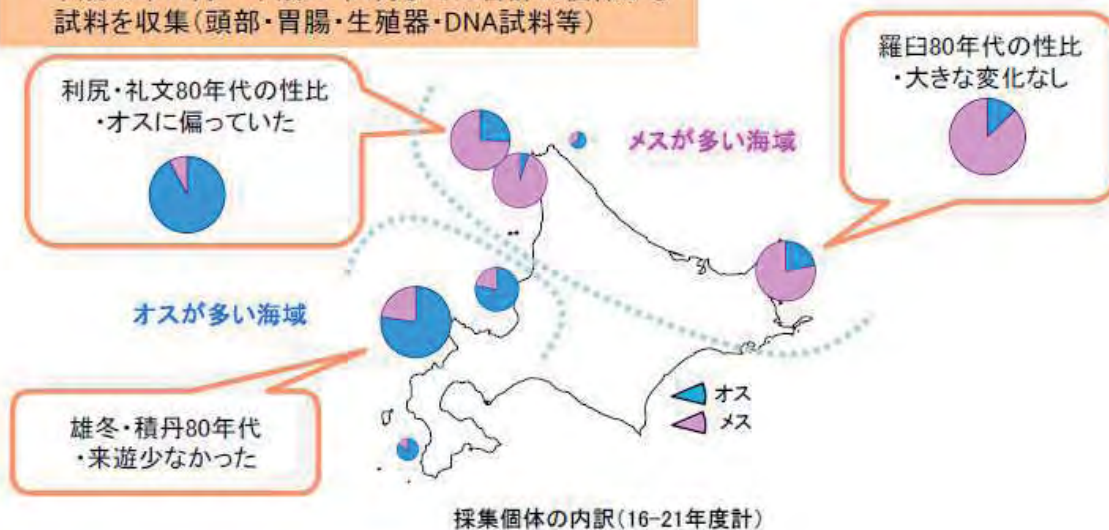
- トド発見位置
- イルカ・不明種発見位置
- 探索経路



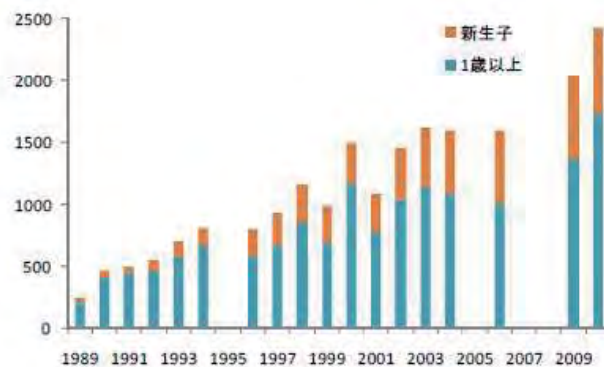
(2) 来遊個体の特性

採捕・漂着・混獲個体からの試料採集

- ・平成20年11月～平成21年4月までに合計29個体から試料を収集(頭部・胃腸・生殖器・DNA試料等)



- ・トドはオスの方がメスより長距離を移動すると思われる
- ・1980年代後半から始まったサハリン島東岸のチュレニー島の個体数増加や、近年のサハリン島周辺の上陸場形成が、日本海側のトド分布拡大や性比に影響したのでは？



チュレニー島の個体数変化
(2009-10年は本調査、それ以前はBurkanov and Loughlin 2005より)

15) トドの被害実態調査

資料名	平成21年度トド資源調査(年度は「トド年度」…平成21年10月～平成22年6月)
調査主体・事業費	全国漁業協同組合連合会
評価項目	4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること
管理目標	
評価指標	被害実態
評価基準	※基礎的な統計資料であることから、具体的数値目標を設定することは困難

<平成22年度までの具体的調査手法>

地方公共団体が漁協より聴取して集計した資料の解析

<平成22年度までの具体的調査データ>

(4) 漁業への影響評価

被害統計のまとめ

- ・北海道庁が集計する被害統計資料を解析
- ・トドによる被害額は全道で13億円を超える
→H21年度はやや減少
- ・刺網の被害が大きい



16) 海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析

資料名	海洋汚染調査報告 第 37 号
調査主体・事業費	海上保安庁海洋情報部
評価項目	4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること
管理目標	
評価指標	表面海水及び海底堆積部の石油、PCB、重金属等の汚染物質濃度
評価基準	基準値以下の濃度であること

<平成 21 年度の具体的調査手法>

オホーツク海の調査で採取した海水及び海底堆積物の石油、P C B、重金属等を分析

<平成 21 年度の具体的調査データ>

オホーツク海域の海水調査結果

(単位 : $\mu\text{g/L}$)

	平成 21 年 (2009)			過去の平均、最小及び最大値 (平成 11~20 年)			基準値
	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	
石油	0.09	0.08	0.10	0.08	<0.05	0.30	—
カドミウム	0.018	0.011	0.031	0.030	0.004	0.065	10.00
水銀	<0.0005	<0.0005	0.0007	0.0009	<0.0005	0.0045	0.5

オホーツク海域の海底堆積物調査結果

(単位 : $\mu\text{g/g-dry}$)

	平成 21 年 (2009)		過去の最小及び最大値 (平成 11~20 年)		基準値
	最小値	最大値	最小値	最大値	
石油	0.4	7.5	<0.1	8.3	なし
PCB	0.0009	0.0098	0.0003	0.0078	
カドミウム	0.011	0.085	0.004	0.10	
水銀	0.038	0.076	0.030	0.072	
銅	20	33	17	38	
亜鉛	55	93	43	98	
クロム	130	210	68	236	
鉛	11	21	10	22	

<コメント>

表面海水は、すべての項目とも、過去 10 年と比較しほぼ同じ濃度レベルで推移している。
海底堆積物は、すべての項目とも、過去 10 年と比較しほぼ同じ濃度レベルで推移している。

17) エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査(哺乳類の生息状況調査を含む)

資料名	平成22年度エゾシカライトセンサス調査業務
調査主体・事業費	北海道・5,980千円
評価項目	3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	
評価指標	単位距離あたりの発見頭数または指標
評価基準	1980年代初頭のレベルかどうか

<平成22年度の具体的調査手法>

※調査はシカ年度(6月から翌年5月まで)単位で実施

越冬地	調査手法	調査距離	調査時期	調査実施主体
羅臼峯浜	ライトセンサス	約27 km	10月中旬	北海道

<平成22年度(H22シカ年度)の具体的調査データ>

○峯浜地区

平成22年10月に2コースで実施した。牧草地コース4.3頭/km、森林コース1.2頭/km。

18) エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査

資料名	平成 23 年度第 1 回エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ会議資料 斜里町自然環境保護管理対策業務報告書
調査主体・事業費	環境省、斜里町、羅臼町
評価項目	3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	
評価指標	単位距離あたりの発見頭数または指標
評価基準	1980 年代初頭のレベルかどうか

<平成 22 年度の具体的調査手法>

表. 斜里、及び羅臼町において実施されているエゾシカカウント調査の概要

越冬地	調査手法	調査距離	調査時期	調査実施主体
幌別・岩尾別	ライトセンサス	9.5km	春、秋	斜里町
ルサ・相泊	ライトセンサス	10.4km	春、秋	羅臼町・知床財団
	日中センサス	10.4km	12~4 月	羅臼町・知床財団
真鯉	日中センサス	約 10km	12~5 月	知床財団
羅臼峯浜	ライトセンサス	約 10km	10 月末	北海道

※調査はシカ年度（6 月から翌年 5 月まで）単位で実施

<平成 22 年度の具体的調査データ>

○幌別・岩尾別地区（図参照）

平成 23 年の春は幌別、岩尾別がそれぞれ 12.9 頭/km、10.6 頭/km であった。前年の同時期の調査結果は 15.8 頭/km と 8.0 頭/km であった。

○ルサ・相泊地区

ライトセンサスでは、平成 22 年秋と平成 23 年春にそれぞれ 5 回実施し、12.1 頭/km、及び 19.4 頭/km であった。平成 21 年春の 24.6 頭/km と比較し、わずかに少なかった。

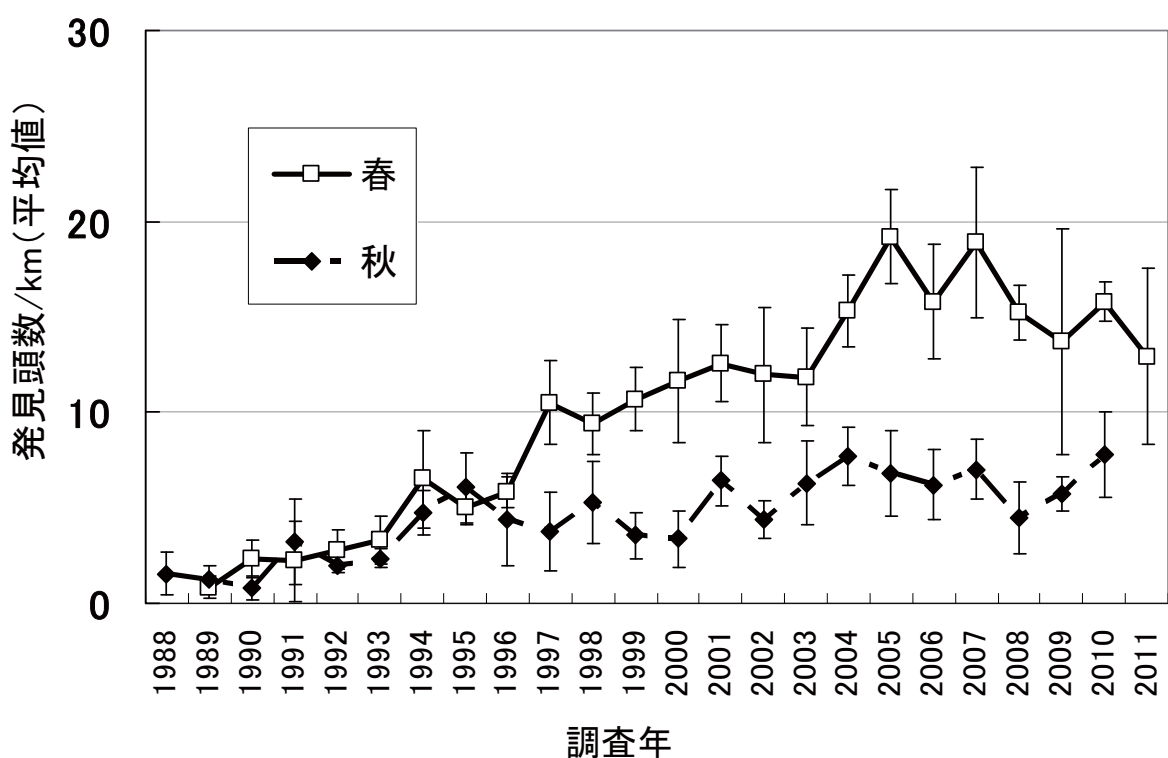
日中センサスは平成 23 年 3 月に 2 回実施し、27.7 頭/km が最大であり、前年同期の最大確認頭数であった 45.0 頭/km よりも著しく少なかったが、前々年の 28.9 頭/km とほぼ同じ水準であった。

○真鯉地区

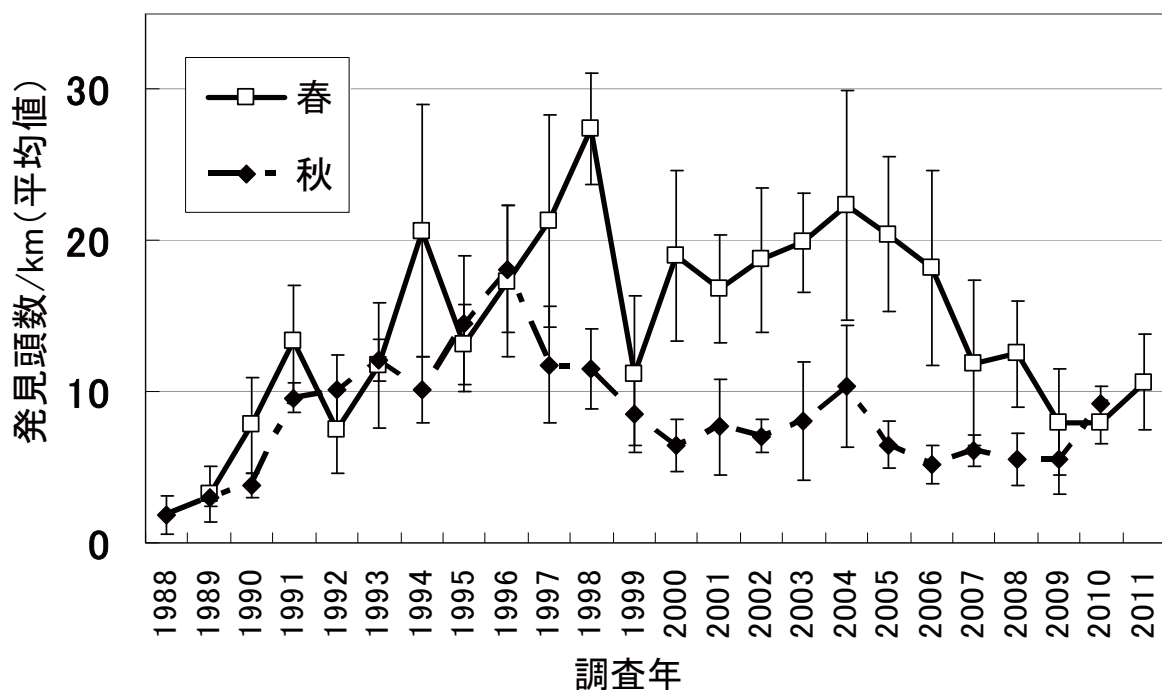
平成 23 年 2 月上旬から増加し始め、3 月上旬に 505 頭（42.1 頭/km）と最も多くなった。前年の最大確認頭数である 664 頭よりも 159 頭少なかった。

○峯浜地区

平成 22 年 10 月に実施し、牧草地コース 4.3 頭/km、森林コース 1.2 頭/km であった。前年同期には、牧草地コース 3.3 頭/km、森林コース 0.8 頭/km であり、両コースともに平成 22 年の方がやや多かった。



図．幌別地区におけるライトセンサスによるシカ発見頭数（斜里町資料）。



図．岩尾別地区におけるライトセンサスによるシカ発見頭数（斜里町資料）。

<コメント>

1980年における知床半島の平均密度は $0.93 \sim 0.97$ 頭/k m^2 （知床半島自然生態系総合調査報告書（動物編）．1981）であり、80年代と比較して高い水準にあると考えられる。

19) エゾシカの個体群の質の把握に関する調査

資料名	平成 23 年度第 1 回エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ会議資料 斜里町自然環境保護管理対策業務報告書
調査主体・事業費	知床財団、斜里町、羅臼町
評価項目	5. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	
評価指標	間引き個体、自然死個体などの生物学的特性
評価基準	

＜平成 22 年度の具体的調査手法＞

自然死亡数の把握

越冬地	調査実施主体	調査時期
知床岬	知床財団	春期
ルサー相泊	知床財団、羅臼町	冬期～春期
幌別ー岩尾別	知床財団、斜里町	冬期～春期
ウトロ～真鯉	知床財団、斜里町	冬期～春期

※調査はシカ年度単位で実施

＜平成 22 年度の具体的調査データ＞

平成 23 年春知床岬では 0 体（ただし、実施時期が例年より遅かった）、ルサー相泊 2 体、幌別ー岩尾別 13 体、ウトロ～真鯉 1 体であった。斜里側では他にクマ捕殺による死亡が 1 体、死因不明 6 体あった。

＜コメント＞

平成 22 年春の自然死亡個体の確認数は、知床岬 1 体、ルサー相泊 6 体、幌別ー岩尾別 4 体、ウトロ～真鯉 1 体であった。知床岬地区においてエゾシカ自然死亡確認数が最大であった 2005 年は約 150 体であったことを考慮すると平成 22 年春、及び平成 23 年春の自然死亡数は極めて少ないと言える。しかし、知床岬密度操作実験によって捕獲したシカの死体のほとんどがヒグマの被食を受けている状況から、シカの自然死体発見の少ない理由が、ヒグマの被食にある可能性がある。

(2) ソフト事業の実施状況

No.	主体・事業費	名称	概要
1	環境省 (約 780 万円)	知床世界自然遺産地域科学委員会運営	遺産地域の順応的管理の推進のため、専門家からなる科学委員会を設置し、助言を得た。
2	環境省 (約 460 万円)	知床半島沿岸域における海洋観測ブイを用いた海洋観測等に係る業務	詳細は p.58 参照。
3	環境省 (約 770 万円)	知床国立公園適正利用等検討調査	遺産地域において、関係者の合意形成を図りつつ、利用適正化のためのルール作成及び周知、利用実態・利用影響のモニタリング等を行った。
4	環境省 (約 640 万円)	知床国立公園知床五湖利用適正化検討調査	知床五湖における利用調整地区制度の導入に向けて、利用適正化のためのルール作成及び周知、利用実態・利用影響のモニタリング等を行った。
5	環境省 (約 100 万円)	知床地区における今後のあり方検討	知床の利用及びエコツーリズムの考え方について地域の多様な意見を踏まえ、今後のあり方を検討した。
6	環境省 (約 440 万円)	知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント・季節移動調査	詳細は付録 p.68 参照。
7	環境省 (約 540 万円)	知床生態系維持回復事業エゾシカの植生への影響調査	詳細は付録 p.63 参照。
8	環境省 (約 2870 万円)	知床生態系維持回復事業エゾシカ捕獲手法調査	知床岬地区において銃器、ルサ相泊地区において囲いわなによるエゾシカの捕獲を試行した。また、エゾシカ個体群や希少猛禽類に係る調査を実施した。
9	環境省 (約 800 万円)	エゾシカ保護管理計画実行計画策定	エゾシカ WG の運営を通じて、エゾシカ保護管理計画実行計画案を策定した。
10	環境省 (約 90 万円)	知床半島における効果的なエゾシカ捕獲のための研修	海外におけるシカ管理の専門家によるセミナーを開催し助言をいただくとともに、行政機関や猟友会への啓発を行った。
11	環境省 (約 600 万円)	(冬期) ルサ相泊地区エゾシカ捕獲手法検討調査	ルサ相泊地区におけるシャープシューティング的なエゾシカ捕獲手法を試行した。
12	環境省 (約 60 万円)	ルサ相泊地区エゾシカ捕獲手法検討調査	ルサ相泊地区において、爆音器等を活用した効率的な捕獲手法を検討調査した。
13	環境省 (約 600 万円)	知床岬エゾシカ密度操作実験	知床岬において巻狩り等の手法によりエゾシカの捕獲を行うとともに、希少猛禽類の生息状況と夏期のエゾシカの知床岬の利用状況のモニタリングを実施した。
14	環境省	シマフクロウ保護増	シマフクロウの生息状況調査、標識調査、繁殖地域の監視、

	(約 1200 万円)	殖事業	給餌、巣箱設置及び講演会・分科会の開催を実施した。
15	環境省 (約 300 万円)	シマフクロウに脅威となるアライグマの侵入状況調査	斜里町及び羅臼町において、カメラトラップングや足跡確認によりアライグマの侵入状況を調査した。
16	環境省 (約 330 万円)	シマフクロウに脅威となるアライグマの捕獲調査	斜里町及び羅臼町においてアライグマを捕獲し、生体等に関する必要なデータの収集及び分析を行った。
17	環境省 (約 380 万円)	シマフクロウ放鳥適地の選択及び放鳥に向けた整備計画策定	シマフクロウの生息する環境に関連する資料の整備、解析及び環境評価を行い、生息適地になりうる箇所の抽出を行った。
18	環境省 (約 100 万円)	ウトロ海域におけるケイマフリデコイ制作	斜里町側のケイマフリの営巣適地にケイマフリを集めるため、デコイを制作した。
19	環境省 (約 100 万円)	ルサ相泊地区における希少猛禽類モニタリング	エゾシカの捕獲による希少猛禽類の生息への影響を把握するため、捕獲を実施している時期及び実施していない時期にモニタリングを目視により実施した。
20	環境省 (約 300 万円)	オジロワシ・オオワシ保護増殖事業	オジロワシやオオワシに対する漁業廃棄物の影響について実態を把握し人為的餌資源全体の評価を行い、また保全事例を収集した。
21	環境省 (約 190 万円)	オジロワシ保護増殖事業	オジロワシの局所集団間の遺伝構成の変異の調査及び営巣繁殖状況の調査を行った。
22	環境省 (約 370 万円)	知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討調査	ケイマフリ等海鳥の保護と持続可能な海域利用の両立を図るため、検討会を開催した。
23	環境省 (約 420 万円)	知床国立公園ウトロ海域における海鳥調査	ケイマフリの分布や繁殖状況及び食性について基礎調査を行うとともに、ケイマフリ等海鳥の生息状況の現状を把握した。
24	環境省 (約 240 万円)	知床国立公園及びその周辺部セイヨウオオマルハナバチ生息状況監視・防除体制構築	知床岬地区においてセイヨウオオマルハナバチの防除を行い、知床国立公園及びその周辺部において生息状況を調査した。また講演会を開き、今後の対策の方策を検討した。
25	環境省 (約 270 万円)	知床岬における外来種（アメリカオニアザミ）対策	知床岬及び周辺地区でアメリカオニアザミの駆除作業を行うとともに、作業効果の検証や手法の検討を行った。
26	環境省 (約 490 万円)	知床半島における昆虫類モニタリング	詳細は付録 p.70 参照。
27	環境省 (約 350 万円)	野生動植物資源管理・利用ネットワーク事業（道東地域保	シマフクロウやオジロワシ等について、持続的に遺伝子情報のさまざまな利用が確保されるよう標本情報を整理し、データベースを構築した。

		存資料情報整備業務)	
28	環境省 (約 100 万円)	知床国立公園ウトロ地区における登山道等保全管理	羅臼岳登山道(ウトロ地区)について補修整備を行い、硫黄山登山道や知床連山縦走路について登山道の状況確認等を実施した。
29	環境省 (約 750 万円)	知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進	ヒグマに関する安全対策を検討するとともに、自然保護上重要な地域の立入状況調査を行った。
30	環境省 (約 70 万円)	知床海岸ゴミ堆積状況等調査	知床国立公園内の海岸線において、場所による漂流漂着ゴミの再漂着の違いを把握するとともに、植生回復状況を調査した。
31	環境省 (約 100 万円)	知床国立公園における環境教育	地域住民等への普及啓発を目的として、自然講座を羅臼町で4回、ウトロで1回の合計5回開催した。
32	環境省 (約 880 万円)	知床エコツーリズム総合推進	知床五湖の地上歩道引率者の育成及びヒグマの対応方針を検討した。
33	環境省 (約 100 万円)	羅臼岳登山道携帯トイレ用ブース導入検討調査	岩尾別登山口から羅臼岳の区間において仮設携帯トイレブースを設置し、利用者の動向調査を行った。
34	環境省 (約 160 万円)	知床世界自然遺産地域海域資源情報基盤整備	知床世界遺産周辺海域における、主に野生動物等を対象とした観光利用についての情報を、収集、整理、分析した。
35	環境省 (約 100 万円)	知床国立公園ウトロ海域における利用動向調査等内容検討	ウトロ海域で利用動向調査や簡易な自然環境状況調査を実施するための調査票を作成した。
36	環境省 (約 100 万円)	知床世界自然遺産地域における保全・共生推進のための資料収集及び情報提供	遺産地域の保全管理に係る情報を広く共有するため、知床データセンターの運営を実施、また科学委員会のメーリングリストの運営を実施した。
37	環境省 (約 90 万円)	知床国立公園における指定植物見直しに関する聞き取り調査	知床国立公園の指定植物は指定後見直しがされていないため、有識者から情報収集を行いリストの整理及び現地調査計画を作成した。
38	環境省 (約 150 万円)	知床世界自然遺産登録5周年シンポジウム in 横浜	ユネスコの世界自然遺産登録からの5年間の取組みについて振り返り議論を行うため、記念シンポジウムを開催した。
39	環境省 (約 100 万円)	知床世界遺産地域における地理情報整理	遺産地域の現状等について、GIS等を活用して地理的に整理した。
40	環境省 (約 80 万円)	「知床半島先端部地区利用の心得」ウェブサイト構築	「知床半島先端部地区利用の心得」の効率的で効果的な普及を目的とし、ウェブサイトを作成した。
41	環境省	知床世界自然遺産パ	知床世界自然遺産における保全管理の取り組みを日本語・

	(約 53 万円)	ンフレット作成	英語併記で紹介するパンフレットを作成した。
42	環境省 (約 100 万円)	特定外来生物防除推進 DVD 作成	斜里町や羅臼町等の道東地域で NPO 等が取り組む特定外来生物の防除等を紹介し、市民の参画を促進するための DVD を作成した。
43	林野庁	知床半島緑の回廊における猛禽類調査	クマタカ等の生息エリアの特定と営巣状況に関するデータの把握を行った。 3 科 9 種の猛禽類が確認され、採餌環境及びオジロワシ、クマタカの繁殖利用域が推定された。
44	林野庁 (約 460 万円)	知床岬先端部の詳細な植生図 (1/5000) の作成	硫黄山以南より遠音別岳に至る森林及び草地の植生図を作成した。
45	林野庁 (約 360 万円) 北海道	河川工作物改良によるサケ科魚類遡上効果確認調査	改良工事を実施したイワウベツ川 (支流赤イ川で H18・1 基及び H22・1 基、支流ピリカベツ川で H19・2 基)、ルシヤ川 (H18・2 基)、サシルイ川 (H19・2 基) チエンベツ川 (H20・1 基) について、サケ科魚類の遡上効果を確認するためのモニタリング調査を実施した。 赤イ川、ルシヤ川、サシルイ川及びチエンベツ川では、改良により遡上が容易になっている状況が確認された。
46	北海道	隣接地区 (真鯉地区含む) における狩猟による捕獲	連続して捕獲圧をかけ続けることによる捕獲効率の低下を防止する方策の試行、および継続的な人の立ち入りによる希少猛禽類への影響緩和を目的として、一部の区域において可猟期間に中断期間を設定して実施
47	羅臼町	知床岬クリーンボランティア	羅臼町と町内の NPO 法人との共催により、知床岬での海岸清掃を 3 回実施。61 名の参加で 523kg を回収。
48	知床財団	ニジマスやブラウントラウトなどの外来種の侵入状況を把握する調査	遺産地域内の河川において、潜水目視観察において、外来魚の有無を調査した。

(3) 巡視等の実施状況

区分	環境省	林野庁	北海道
巡視区域	知床世界遺産地域	知床世界遺産地域及び隣接地域	知床世界遺産地域及び隣接地域（斜里・羅臼町内）
巡視体制	環境省職員 4 人 アクティブレンジャー 4 人 サブレンジャー 8 人 自然公園指導員 人 国指定鳥獣保護区管理員 2 人	林野庁職員 14 人 グリーンサポートスタッフ 7 人	自然保護監視員 4 人 鳥獣保護員 2 人
巡視実績	環境省職員 延べ 74 人日 アクティブレンジャー 延べ 491 人日 サブレンジャー 延べ 70 人日 自然公園指導員 人日 国指定鳥獣保護区管理員 延べ 95 人日	林野庁職員 延べ 256 人日 グリーンサポートスタッフ 延べ 747 人日	自然保護監視員 延べ 91 人日 鳥獣保護員 延べ 67 人日
巡視内容	適正な利用や管理についての指導や施設の点検、清掃等	森林現況の把握、標識等の点検・修理、美化啓発、山火事予防啓発、危険木の処理等の国有林の管理及び入林者の指導	適正な利用や管理についての指導

(4) 普及啓発

①イベント

番号	主体	名称
1	環境省・林野庁・北海道・実行委員会・NHK(2日目のみ)	知床世界自然遺産登録5周年記念シンポジウム
開催日		平成22年6月12～13日
参加人数		1日目:147名、2日目:120名
内容		1日目テーマ:「知床世界自然遺産 登録から5年間の歩みと未来」 2日目テーマ:「知床から小笠原へ 世界自然遺産地域の順応的な保全管理」 知床世界自然遺産地域が、現場で抱える課題と、世界遺産委員会やIUCN等の指摘に対して、どのような対応を行い高い評価を得るにいたったのかについて、世界自然遺産登録からの5年間を振り返り、また、5年後の姿を考えるため、知床世界自然遺産地域科学委員会(各ワーキンググループの座長)等によるシンポジウムを開催した。
その他		

番号	主体	名称
2	環境省	知床国立公園における環境教育
開催日	平成 22 年 5 月～平成 23 年 3 月（この期間内に 5 回）	
参加人数	167 名（5 回開催の合計）	
内容	第 1 回：森づくりの現場から（知床財団 松林良太）羅臼高等学校 第 2 回：根室海峡のクジラ・イルカ（知床クジラの会 佐藤晴子）羅臼 VC 第 3 回：北方四島と知床（北の海の動物センター理事 本間浩昭）羅臼 VC 第 4 回：使って守る地域資源戦略のための専門家（北海道大学 敷田麻美）世界遺産センター 第 5 回：持続的な漁業は知床、そして地球を守る（道総研栽培水試 鳥澤雅）羅臼 VC	
その他		

番号	主体	名称
3	環境省・知床財団	公開セミナー「知床のシカはコントロールできるのか？」
開催日	平成 22 年 7 月 21 日	
参加人数	61 名	
内容	野生生物の狩猟管理に関して実績のある米国とドイツのシカ管理の専門家によるセミナーを開催し、知床半島で行われているエゾシカ捕獲手法に対する助言をいただくとともに、エゾシカ保護管理に携わる行政機関や猟友会への啓発を目的として開催した。	
その他		

番号	主体	名称
4	環境省	知床世界自然遺産生態系調査報告会
開催日	平成 23 年 2 月 23 日	
参加人数	約 80 名	
内容	口頭 17 題、及びポスター 5 題の計 22 題の発表がなされた。口頭ではエゾシカ、植生、及び希少鳥類を含む陸上生態系に係わる発表が 9 題、海生哺乳類や海鳥類を含む海洋生態系に係わる発表が 5 題、国立公園の適正利用に係わる発表が 3 題であった。ポスターでは、羅臼岳の生物相、エゾシカの遺伝子分析、鯨類の分布、及びサケ科魚類の移動生態に係わる調査結果について発表された。	
その他		

番号	主体	名称
5	林野庁（知床森林センター）	地域住民を対象とした森林体験教室等の開催
開催日	平成 22 年 6 月 12 日～平成 23 年 3 月 5 日	
参加人数	204 名	
内容	自然観察や木工などの様々な森林とのふれあいから、森林生態系や森林保護、森林を利用する意義などを理解してもらうために開催。 6 月 12 日（土）幻の沼「ポンコロ沼」周辺の森林散策とシイタケほだ木作り 7 月 14 日（水）羅臼湖三の沼森林散策とデジカメ撮影 8 月 4 日（水）夏休み企画「森の恵みとふれあう木工作教室」 9 月 4 日（土）樹木匠と歩くオシンコシンの森林散策 10 月 3 日（日）知床で森づくり・森林散策と植樹活動	

	10月16日(土)知床の森の恵みでジャム作り&ツリーイング体験 12月4日(土)森の恵みでクリスマスリースを作ろう 2月9日(水)冬ならではの!!静寂の森を歩くスキーで散策しよう 3月5日(土)森林散策をしながら知床を撮ろう～フレペの滝周辺～
その他	来年度も継続予定。

番号	主体	名称
6	林野庁	羅臼湖ツアー
開催日	平成22年7月9日	
参加人数	29名	
内容	地域住民を対象に、世界自然遺産地域となった羅臼湖周辺の貴重な森林生態系の保全等について高山帯の森林や植物の観察から学び、自然環境の保全に対する意識の醸成を図ることを目的に開催。	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
7	林野庁(知床森林センター)	世界自然遺産登録5周年記念リレーセミナー
開催日	平成22年7月17日	
参加人数	32名	
内容	世界自然遺産登録5周年記念事業の一環として、昼の部を担当する北海道と連携して夜の部を担当しセミナーを開催した。 知床の森林や動物の写真展示や知床に棲む動物の絵本の読み語り、そして外部講師による知床の森林に棲む動物についての講演を行った。	
その他		

番号	主体	名称
8	北海道新聞社 北海道	知床世界自然遺産登録5周年記念フォーラムの開催
開催日	平成22年7月14日	
参加人数	関係者、地域住民ほか400名	
内容	「知床の明日を考える」をテーマに、旭山動物園前園長 小菅正夫氏による基調講演およびパネル討論を実施した。	
その他		

番号	主体	名称
9	北海道	知床教室の開催
開催日	平成23年1月27日	
参加人数	1クラス35名	
内容	札幌市内の小学校1校で、知床の素晴らしさや保全の大切さを伝える出前授業を実施した。	
その他	来年度も要望があれば対応する。	

番号	主体	名称
10	斜里町	しれとこの森交流事業
開催日	平成22年7月30日～平成22年11月4日	

参加人数	176 名
内容	第 31 回知床自然教室（7 月 30 日～8 月 5 日） 運動参加者と町内小中高校生を対象にした野外体験事業。 第 14 回しれとこ森の集い（10 月 17 日） 運動参加者と町民を対象に、森づくりの現場見学と記念植樹を実施。 第 14 回森づくりワークキャンプ（10 月 30 日～11 月 4 日） 運動地における森林再生作業をスタッフとともに実施。
その他	来年度も継続予定。

番号	主体	名称
11	斜里町教育委員会	斜里町内の学生を対象としたイベント
開催日	平成 22 年 5 月 20 日～平成 22 年 7 月 20 日	
参加人数	121 名	
内容	世界遺産知床体験学習事業（5/20, 24, 6/30, 7/20） 斜里の中学校 1 年生を対象に、知床半島斜里側で船による自然観察会および事前学習を実施。121 名参加。	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
12	羅臼町	羅臼町内の学生を対象としたイベント
開催日		
参加人数		
内容	第 28 回ふるさと少年探検隊（7 月 29 日～8 月 3 日） 町内小学生から中学生を対象に相泊から海岸線を踏破する野外体験事業を羅臼町教育委員会と子ども会育成協議会の共催で実施し、24 名が参加。 ふるさと体験教室 地元の自然を楽しみながら学ぶことを目的に羅臼町教育委員会が主催。10 回実施し、延べ 195 人の地元小学生が参加。 オジロ・オオワシ観察会 羅臼町教育委員会主催事業。海上よりオジロワシ、オオワシ、アザラシ等を観察。天然記念物や生態系に対する理解を深める。	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
13	羅臼町	羅臼地区中高一貫教育
開催日		
参加人数		
内容	中学から高校の 6 年間を連携してきめ細かな授業を目指す。 カリキュラムの中には、知床の自然環境や水産業、観光などを通じた人間との関わりについての課程を設け、世界遺産登録地域に住む住民としての誇りをもてる人材の育成を図る。	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
----	----	----

14	実行委員会	知床雪壁ウォーク 知床紅葉ウォーク
開催日	平成 22 年 4 月 18 日、10 月 2 日	
参加人数	1,043 名	
内容	知床雪壁ウォーク 知床横断道路では春が近づくとゴールデンウィーク前の開通をめざし、北海道開発局による除雪作業が始まる。この一部を前年同様に開放し、雪に覆われた羅臼岳を望みながらウォーキングを楽しむとともに除雪作業を見学。自然保護と道路維持の大切さを知ることがを目的に実施。 4/18 に開催し、753 名が参加した。 知床紅葉ウォーク 知床横断道路を歩きながら、大自然が織り成す紅葉の素晴らしさを味わうとともに、貴重な自然の保全意識の高揚を図ることを目的に実施。 10/2 に開催し、290 名が参加した。	
その他	来年度も継続予定。 実行委員会（斜里町、羅臼町、知床斜里町観光協会、知床羅臼町観光協会、読売新聞北海道支社）	

②普及啓発資料

番号	主体	名称	概要	備考
1	環境省	「知床半島先端部地区利用の心得」ウェブサイト	「知床半島先端部地区利用の心得」の効率的で効果的な普及を目的とする、ウェブサイト	http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/
2	環境省	知床五湖ウェブサイト	知床五湖の利用調整地区システムを広報するウェブサイト	http://www.goko.go.jp/
3	環境省	知床世界自然遺産パンフレット	知床世界自然遺産における保全管理の取り組みを日本語・英語併記で紹介するパンフレット	
4	環境省	特定外来生物防除推進 DVD	NPO 等が取組む特定外来生物の防除等を紹介する DVD	
5	北海道	山岳トイレ問題に関する普及啓発資材作成・配布	携帯トイレの普及啓発のため、リーフレットを作成した。	継続
6	北海道開発局	知床横断道路「今日の知床峠」、「通行規制情報」のHP掲載	釧路、網走開発建設部HPにおいて知床横断道路の通行規制情報を掲載している。	継続

3. 各種会議等の開催状況

(1) 知床世界自然遺産地域連絡会議

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 7 月 28 日 (水) 13:00~16:00	羅臼町公民館	・ 地域連絡会議の会長等の選出について ・ 適正利用・エコツーリズム検討会議の新設について ・ 科学委員会の経過等について ・ 知床世界自然遺産地域 年次報告書について ・ 知床における主要協議会等の連携の強化について ・ シンボルマークの使用について ・ 地域連絡会議等の日程と主要議題案について ・ 世界自然遺産登録 5 周年記念イベントについて ・ その他
平成 22 年度 第 2 回	平成 23 年 3 月 18 日 (金) 13:00~16:00	斜里町産業会館 2 階大ホール	・ 平成 23 年度地域連絡会議の役員の選出等について ・ 科学委員会の経過等について ・ 第 36 回世界自然遺産委員会に向けた対応について ・ 地元との連携・協働、科学的知見の地域への還元について ・ シンボルマークの利用状況等について ・ その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>地域連絡会議

(2) 知床世界自然遺産地域科学委員会

①科学委員会

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 7 月 24 日 (土) 15:00~18:30	羅臼町公民館	・ 科学委員会等の検討体制について ・ 各ワーキンググループ等の検討状況について ・ 平成 21 年度知床世界自然遺産地域年次報告書について ・ モニタリング計画の策定について ・ 世界遺産委員会等からの勧告への対応と定期報告について ・ 科学委員会等の今後の予定について ・ その他
平成 22 年度 第 2 回	平成 23 年 2 月 24 日 (木) 13:00~17:00	札幌市教育文化会館 研修室 403	・ 各ワーキンググループ及びアドバイザー会議等の検討状況等について ・ 第 36 回 世界自然遺産委員会に向けた対応について ・ 気候変動への適応戦略の検討について ・ モニタリング計画の策定について ・ 日露隣接地域生態系保全協力プログラムについて ・ 科学委員会等の今後の予定について ・ その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>科学委員会+各 WG

②エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 5 月 29 日 (土) 15:00~19:00	羅臼町役場 第一会議室	・ H21 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画実施結果報告 ・ 知床岬におけるエゾシカ密度操作実験の評価と今後の進め方 ・ ルサ相泊地区における新たな捕獲手法の試行状況と今後の進め方 ・ H22 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画案 ・ 世界遺産委員会等からの勧告への対応について ・ その他
平成 22 年度 第 2 回	平成 22 年 10 月 21 日 (木) 13:30~17:00	釧路地方合同庁舎 5 階 第 1 会議室	・ 知床岬における今後の捕獲の進め方 ・ ルサ相泊地区における今後の捕獲の進め方 ・ 知床半島エゾシカ保護管理計画の見直しについて ・ その他

平成 22 年度 第 3 回	平成 23 年 3 月 15 日（火） 14：00～18：00	斜里町公民館ゆめホール知床会議室 1	・ 知床半島エゾシカ保護管理計画の見直しについて ・ ルサー相泊地区における捕獲結果の評価 ・ H22 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画の実施状況（速報） ・ 世界遺産委員会等からの勧告への対応について ・ その他
-------------------	------------------------------------	--------------------	---

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME＞会議資料＞科学委員会＋各 WG

③海域ワーキンググループ

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 23 年 2 月 22 日（火） 15:00～	かでの 2・7 8 階特別会議室	・ 多利用型統合的・海域管理計画の見直しについて ・ 適正利用・エコツーリズム検討会議からの報告 ・ 海洋生物多様性保全戦略について ・ 海域管理計画定期報告書について ・ その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME＞会議資料＞科学委員会＋各 WG

④河川工作物アドバイザー会議

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 23 年 1 月 25 日（火）	かでの 2・7	・ 平成 22 年度の河川工作物改良状況について ・ 平成 22 年度の遡上モニタリングの結果について

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME＞会議資料＞科学委員会＋各 WG

⑤ヒグマ保護管理方針検討会議

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 6 月 20 日（日） 9：00～12：30	羅臼町役場 町議室	・ 本検討会議の目的と検討スケジュール ・ 法律および既存計画におけるヒグマの位置付け ・ 知床半島におけるヒグマ保護管理の現状と課題 ・ 知床半島ヒグマ保護管理方針（素案）の作成について ・ 北海道内におけるヒグマ保護管理に係る検討状況 ・ その他
平成 22 年度 第 2 回	平成 22 年 11 月 9 日（火） 13：30～17：00	斜里町役場 2 階大会議室	・ ヒグマの管理体制のあり方と管理上の課題 ・ 知床半島ヒグマ保護管理方針（素案）の作成 ・ ヒグマ個体群モニタリング調査（案） ・ その他
平成 22 年度 第 3 回	平成 23 年 1 月 24 日（月） 13：30～17：00	釧路地方合同庁舎 第一会議室	・ 知床半島ヒグマ保護管理方針（案）の作成 ・ モニタリング調査について ・ 平成 23 年度以降の進め方について ・ その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME＞会議資料＞科学委員会＋各 WG

（３）適正利用・エコツーリズム検討会議

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 6 月 22 日（火）9：30～14：30	知床第一ホテル	・ 知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議の設置について ・ 知床半島における保護と利用に関する課題について ・ 既存協議会・検討会等における検討状況について ・ 適正利用・エコツーリズム検討会議の進め方について ・ その他

平成 22 年度 第 2 回	平成 22 年 11 月 8 日 (月) 14 : 00 ~ 17 : 00	斜里町産業会館 大ホール	・エコツーリズム戦略関係 ・個別会合における検討状況報告 ・意見交換 ・その他
平成 22 年度 第 3 回	平成 23 年 3 月 10 日 (木) 11 : 00 ~ 14 : 00	羅臼町公民館 大集会室	・エコツーリズム戦略について (1) エコツーリズム戦略の名称変更について (2) エコツーリズム戦略骨子 (案) について (3) 今後の予定について ・モニタリング調査について ・個別会合における検討状況報告 ・その他

※ 会議資料 (議事次第・配布資料・議事概要) は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> ホーム > 会議資料 > 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議

①知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 7 月 26 日 (月) 17 : 00 ~ 19 : 00	知床世界遺産セ ンター	・検討会の目的 ・背景 ・課題 ・解決のための提案 ・その他
平成 22 年度 第 2 回	平成 22 年 11 月 30 日 (火) 15 : 30 ~ 17 : 30	斜里町役場 2 階 会議場	・検討会の背景・経緯 (第 1 回検討会での議事内容確認) ・今期の調査実施報告 (1) 今年度実施の海鳥調査報告 (2) 関係者ヒアリング調査報告 (3) 利用者動向アンケート試験調査報告 (4) 「海鳥ガイドブック」製作について ・次年度計画について ・意見交換

②羅臼湖会議

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 11 月 17 日 (水) 16 : 00 ~ 19 : 00	羅臼ビジターセ ンター レクチャール ーム	・本会合の目的と議論の進め方 ・平成 22 年度羅臼湖関連事業について (中間報告) ・羅臼湖の利用のあり方について (1) 利用者層と整備水準 (2) アクセス方法 (3) 維持管理体制 ・歩道周辺の湿原等保全について ・その他
平成 22 年度 第 2 回	平成 23 年 3 月 1 日 (火) 13 : 30 ~ 16 : 30	羅臼町公民館	・羅臼湖歩道のあり方について ・今後の検討について - 植生保全のための歩道ルート付替の検討 - その他 - 来年度の維持管理について

※ 会議資料 (議事次第・配布資料・議事概要) は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > その他の検討会等

③カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 6 月 17 日 (木) 15 : 00 ~ 16 : 30	斜里町役場 2 階 大会議室	・シャトルバス利用状況について ・カムイワッカ湯の沢におけるヒグマの出没状況について ・平成 21 年度利用状況について ・調査結果等報告について ・平成 22 年度カムイワッカ湯の沢利用対策案について ・平成 23 年度以降の利用対策の検討について
平成 22 年度	平成 22 年 11 月 5 日 (金)	ゆめホール知床	・シャトルバス利用状況について

第 2 回	13:30~15:20	会議室 2	・カムイワッカ湯の沢におけるヒグマの出没状況について ・平成 22 年度利用状況について ・落石調査の中間報告について ・来年度以降のカムイワッカ湯の沢利用について
-------	-------------	-------	---

※ 会議及び会議記録は非公開である。会議に関する問い合わせは事務局（斜里町経済部商工観光課）まで。

(4) 知床^{とわ}永久^{もり}の森林づくり協議会

	開催日時	開催場所	議題
森林づくり活動推進のための団体設立準備会	平成 22 年 6 月 16 日 (水) 10:00~16:00	知床国有林内	・団体の活動内容等について ・活動候補地について ・その他
知床永久の森林づくり協議会（新団体）設立総会	平成 23 年 3 月 14 日 (月) 10:00~12:00	知床森林センター	・規約（案）について ・役員体制（案）について ・活動計画（案）について ・予算（案）について

(5) 知床五湖の利用のあり方協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 4 月 26 日 (月) 15:00~17:30	知床世界遺産センター	・立入認定手続きの流れについて ・知床五湖レクチャー施設整備（案）について ・知床五湖周辺の車両渋滞対策について（素案） ・キャッチフレーズについて ・利用適正化計画のパブリックコメント開始について ・その他
平成 22 年度 第 2 回	平成 22 年 6 月 8 日 (火) 17:30~20:00	知床世界遺産センター	・知床五湖利用調整地区利用適正化計画（案）のパブリックコメントの対応について ・キャッチフレーズについて ・知床五湖における施設整備について ・認定手数料の試算について ・知床五湖利用コントロール導入実験について ・その他
平成 22 年度 第 3 回	平成 22 年 7 月 9 日 (金) 17:30~20:00	知床世界遺産センター	・知床五湖における施設整備について ・立入認定手数料の試算について ・車両渋滞対策について ・知床五湖広報計画について ・今後の作業スケジュールについて ・知床五湖利用コントロール導入実験の中間報告について ・その他
平成 22 年度 第 4 回	平成 22 年 8 月 23 日 (月) 17:30~20:00	知床世界遺産センター	・立入認定手続きと手数料について ・知床五湖利用コントロール導入実験結果について ・引率者審査部会の設置について ・その他
平成 22 年度 第 5 回	平成 22 年 9 月 16 日 (木) 17:30~20:00	知床世界遺産センター	・立入認定手続きと手数料について ・協議会設置要領について ・引率者審査部会の設置について ・指定認定機関について ・知床五湖フィールドハウスの展示計画について ・その他
平成 22 年度 第 6 回	平成 22 年 9 月 28 日 (火) 17:30~20:00	知床世界遺産センター	・立入認定手続きと手数料について ・その他
平成 22 年度 第 7 回	平成 22 年 10 月 29 日 (金) 17:30~20:00	知床世界遺産センター	・利用調整地区の告示に伴う利用適正化計画の一部修正について ・知床五湖登録引率者審査部会の報告 ・指定認定機関の公募について ・JATA エコツアーリズムセミナーの報告 ・その他

平成 22 年度 第 8 回	平成 22 年 12 月 22 日（水） 14：00～17：00	知床世界遺産センター	・ 指定認定機関の選定結果について ・ 登録引率者試験結果報告について ・ 指定認定機関の公募について ・ ヒグマ活動期及び植生保護期の運用について ・ その他
平成 22 年度 第 9 回	平成 23 年 3 月 28 日（月） 17：30～20：00	知床世界遺産センター	・ 植生保護期の立入について（予約、認定手続き、広報部会の設置） ・ 今年度のモニタリング結果報告と来年度のモニタリング計画 ・ 施設整備状況と来年度の計画について ・ 来年度のスケジュールについて ・ その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME＞会議資料＞利知床五湖の利用のあり方協議会

（６）しれとこ 100 平方メートル運動地森林再生専門委員会

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度 第 1 回	平成 22 年 11 月 16 日（火） 9:30～16:00	斜里町役場 2 階 大会議室	・ 平成 22 年度作業実施結果について ・ 平成 22 年度作業実施計画案について ・ 運動地におけるエゾシカ個体数調整事業の取り扱い方針について ・ アカエゾマツ植林地の取り扱いについて ・ 運動推進のための取組みについて

※ 会議は公開で開催されている。会議に関する問い合わせは事務局（斜里町総務環境部環境保全課）まで。

（７）知床世界遺産施設等運営協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成 22 年度	平成 23 年 3 月 18 日（金） 10：30～12：00	斜里町産業会館	・ 平成 22 年度事業報告 ・ 平成 23 年度事業計画 ・ 規約の改正 ・ 役員改選

※ 会議に関する問い合わせは環境省釧路自然環境事務所まで。

<付録>

表 1 管理方針に基づく管理目標一覧

1. 陸上生態系及び自然景観の保全	
①野生生物の保護管理	
○植物	各種保護制度に基づく適正かつ効果的な管理。 調査研究・モニタリングを行い、その結果を基に人為的な影響の軽減、適切な保全対策の実施。（特に知床連山、知床沼周辺、知床岬等） シレットコスミレやチシマコハマギク等の希少種の盗掘防止のためのパトロール強化。 エゾシカの採食圧による自然植生への影響把握（特に越冬地周辺部、高山帯、海岸）と対策の検討。 知床岬地区のエゾシカ侵入防止柵等による地域固有の遺伝子資源の保存と植生の回復状況モニタリング、保護対策の検討。 外来植物（海岸を中心）の侵入・定着実態の把握と防除や普及啓発等の対策検討。 「しれとこ 100 平方メートル運動地」での森林の回復事業。
○動物	各種保護制度に基づく多種多様な野生動物の生息地の保全と野生動物の適正な管理。 著しく増加あるいは減少した野生動物について生息状況と変動の要因の把握及び必要な対策の検討。 調査研究の推進と、必要に応じて個別の野生動物毎の保護管理計画の検討。 人の利用の適正な誘導、餌やり等の防止、ゴミの持ち帰り等の指導、野生動物の生態等に関する普及啓発の推進。 ルシャ、テッパンベツ川流域での植物の採取・損傷、たき火、車馬の乗入れ、撮影その他、野生鳥獣の生息に影響を及ぼす行為の規制。 (a) エゾシカ 「知床半島エゾシカ保護管理計画」に基づく保護管理。 北海道全体のエゾシカの管理と緊密な連携の確保。

	(b) ヒグマ 行動調査や生息環境の利用状況調査等の結果を踏まえ個体群動態を把握し、適正な保護管理を実施。 誘引物の除去、追い払い等の対応、利用者の行動制限を含む利用システムの構築、適切な施設整備及び利用者等への普及啓発、情報提供の実施。 (c) シマフクロウ 保護増殖事業計画に基づいた保護増殖事業の実施。 つがいの生息が確認されている河川の周辺の自然環境を極力、現状のまま維持。また、必要に応じ生息環境の改善。 入り込み者への指導の実施。繁殖状況把握のためのモニタリング調査、巣立ちビナの移動分散・生存状況を把握するための標識調査等の実施。 (d) オオワシ・オジロワシ 海岸斜面の森林の保全。繁殖期における利用者への指導、普及啓発の実施。 北海道内でのエゾシカ猟における鉛弾の使用禁止の徹底。 保護増殖事業計画に基づく餌資源調査等の推進。また渡りルートの解明や行動生態の把握の実施。
	②自然景観の保全 保護地域制度に基づく、規制等の適正な運用。植生の保護・回復や生態系の管理に係る事業の実施等を通じた、遺産地域の優れた自然景観の保全。 海岸部に漂着したゴミ等の除去。
	③外来種への対応 定着実態の把握と有効な対策や普及啓発等の実施。 特定外来生物に係る行為規制の適切な運用と普及啓発の実施。 ブラウントラウト、カワマスなど5魚種の移植禁止に係る普及啓発の実施。
	2. 海域の保全
	「知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画」に基づく、管理の実施。
	3. 海域と陸域の相互関係の保全
	①河川環境の保全
	改良が適当と判断した河川工作物の改良の実施。改良後のモニタリング調査による状況把握

と改良効果の検証の実施。	
②サケ科魚類の利用と保全	
「知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画」に基づく持続的な利用と保全の推進。	
4. 自然の適正な利用	
①利用の適正化	
利用適正化基本計画に基づく適正な管理の推進。	
「利用の心得」の普及啓発の実施。	
必要に応じて利用調整地区の導入による利用者数、利用期間等の調整の検討。	
②エコツーリズムの推進	
「知床エコツーリズム推進計画」に基づく、人材の育成及び利用プログラムの構築と実践。	
「知床エコツーリズムガイドライン」の効果的な運用。	
③主要利用形態毎の対応方針	
○観光周遊	主要な利用拠点や展望地の適切な整備。 自動車利用の適正化と環境に配慮した交通システムの構築の推進。 シャトルバスの導入の可能性や効果の検討。 カムイワッカ地区の夏期の自動車利用適正化対策の効果の検証。対策の一層の充実と具体化。 知床五湖地区での効果的な利用の制限、誘導や普及啓発、施設整備のあり方、ヒグマの保護管理のあり方の検討と必要な対策の実施。 知床横断道路での駐車規制の実施と道路の適切な維持管理。羅臼湖の適正な利用のあり方の検討。 利用に伴う野生動物への悪影響を防ぐためのルールの普及啓発。

○登山・トレッキング	自然環境保全上の配慮事項等の指導・普及啓発の実施。必要に応じて、利用の制限等の適切な措置の実施。 歩道等の適切な整備と維持管理。 キャンプに係る利用者への指導の徹底。フードロッカー、フードコンテナ利用に関する指導、普及啓発の実施。し尿処理に関するルールやマナーの普及啓発。
○海域のレクリエーション利用	「知床岬地区の利用規制指導に関する申し合わせ」等による観光目的での上陸の抑制の徹底・強化。 海域のレクリエーション利用のルールづくりと普及啓発の実施。 「利用の心得」等に基づくシーカヤックでの利用の適正化。 釣りを目的とした上陸場所の特定、関係法令・規則の遵守、ゴミの持ち帰りや釣り上げた魚の適切な処置等に関する指導の強化。 ルールの遵守による漁業生産活動への支障の防止。
○その他の利用	利用者への指導や普及啓発活動による野生動物の写真撮影や観察の抑制。ルシャ・テッパンベツ川流域での適正な指導、管理。 冬期における雪上レクリエーション利用での事前指導や普及啓発の実施。雪崩等の危険区域の周知徹底。 スノーモービルの乗入れや航空機の着陸の規制に係る巡視・取締りの実施。必要に応じて航空機の低空飛行を行わないよう要請。 必要に応じ流氷上でのレクリエーション利用のルールづくりの実施。
5・気候変動の影響への対応	
モニタリングを実施するとともに、適応策を検討、実施する。	
6. 情報の共有と普及啓発	
地域住民、関係行政機関、関係団体、専門家等が自然のすばらしさ、保全・管理の状況、モニタリングのデータ等を共有する。 利用者に対し、野生動物への対処等のルール・マナーを周知する。	

国際機関や他の保護地域の関係者と管理体制等について情報を共有する。
①遺産地域の管理に係る関係行政機関及び地元自治体の体制
行政機関は、相互に必要な情報の共有を図り、緊密な連携の元に適切に管理を進める。
②保全・管理事業の実施
○関係機関等による巡視 巡視体制の一層の充実・効率化に努める。
○保全・管理事業の実施 立入防止、植生復元、外来種の除去等を目的とした標識や柵等の設置。 美化清掃活動や施設の維持管理、林野火災予防。
○知床世界遺産センターその他主要施設の運営方針 遺産地域の保全管理や適正な利用に係る施設において、情報の収集・蓄積やルール・マナーの啓発、調査研究の推進等を実施するとともに、施設間の連携を図り、情報の交換、共有化を促進する。
③調査研究・モニタリング
長期的なモニタリング及びその評価を実施する。特に気候変動に関するモニタリングを実施する。 調査研究（遺産地域の価値を裏付けるもの、特定の課題への対策を講じるためのもの、モニタリング手法の開発につながるもの等）を実施する。 知床データセンターによる情報の共有を図る。
④年次報告書の作成
年次報告書を取りまとめ、遺産地域の適切な管理に活かす。

表2 斜里町の観光客入込み数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	①日帰り利用者数（人）	4,206	79,149	51,953	12,924	37,080	71,552	132,369	223,980	174,704	167,221	8,311	14,889	978,338	
	②宿泊利用者数（人）	16,939	45,521	33,128	17,813	54,900	64,406	75,369	87,726	75,924	66,539	25,219	14,759	578,243	
	③入込み数合計（人）	21,145	124,670	85,081	30,737	91,980	135,958	207,738	311,706	250,628	233,760	33,530	29,648	1,556,581	
平成17年	①日帰り利用者数（人）	4,666	87,581	55,140	12,117	31,719	70,421	140,630	273,256	218,380	206,918	9,941	13,047	1,123,816	
	②宿泊利用者数（人）	18,793	50,371	35,160	16,701	46,963	63,388	80,073	93,819	85,084	74,762	30,166	12,933	608,213	
	③入込み数合計（人）	23,459	137,952	90,300	28,818	78,682	133,809	220,703	367,075	303,464	281,680	40,107	25,980	1,732,029	
平成18年	①日帰り利用者数（人）	4,222	71,258	48,562	12,542	36,627	77,741	139,982	245,930	202,246	194,627	8,495	13,100	1,055,332	
	②宿泊利用者数（人）	17,004	40,983	30,966	19,778	54,230	75,379	80,894	92,870	78,798	70,321	25,778	14,115	601,116	
	③入込み数合計（人）	21,226	112,241	79,528	32,320	90,857	153,120	220,876	338,800	281,044	264,948	34,273	27,215	1,656,448	
平成19年	①日帰り利用者数（人）	4,004	64,132	37,154	11,348	29,754	64,642	125,166	228,383	172,566	159,275	7,960	11,828	916,212	
	②宿泊利用者数（人）	16,126	35,274	23,692	17,896	44,054	62,678	72,332	86,244	67,234	57,548	24,156	12,745	519,979	
	③入込み数合計（人）	20,130	99,406	60,846	29,244	73,808	127,320	197,498	314,627	239,800	216,823	32,116	24,573	1,436,191	
平成20年	①日帰り利用者数（人）	4,117	64,533	37,276	9,519	28,654	57,896	105,576	199,531	162,979	147,650	8,599	11,061	837,391	
	②宿泊利用者数（人）	16,581	35,495	23,770	15,012	42,426	56,137	61,011	75,349	63,499	53,348	26,098	11,919	480,645	
	③入込み数合計（人）	20,698	100,028	61,046	24,531	71,080	114,033	166,587	274,880	226,478	200,998	34,697	22,980	1,318,036	
平成21年	①日帰り利用者数（人）	3,869	52,217	38,409	9,735	23,867	44,137	97,290	186,441	150,146	132,535	7,735	12,325	758,706	
	②宿泊利用者数（人）	15,583	28,721	24,493	15,354	35,338	42,796	56,223	70,406	58,499	47,887	23,476	16,104	434,880	
	③入込み数合計（人）	19,452	80,938	62,902	25,089	59,205	86,933	153,513	256,847	208,645	180,422	31,211	28,429	1,193,586	
平成22年	①日帰り利用者数（人）	4,025	57,871	37,675	9,769	22,241	44,695	100,591	195,918	153,795	131,489	7,231	9,494	774,794	
	②宿泊利用者数（人）	20,592	34,493	24,025	15,409	32,931	43,337	58,146	73,985	59,921	47,509	21,945	12,406	444,699	
	③入込み数合計（人）	24,617	92,364	61,700	25,178	55,172	88,032	158,737	269,903	213,716	178,998	29,176	21,900	1,219,493	
合計前年比		127%	114%	98%	100%	93%	101%	103%	105%	102%	99%	93%	77%	102%	
合計世界遺産登録前比		116%	74%	73%	82%	60%	65%	76%	87%	85%	77%	87%	74%	78%	平成16年比
合計ピーク年比		105%	67%	68%	87%	70%	66%	72%	74%	70%	64%	73%	84%	70%	平成17年比

表3 羅臼町の観光客入込み数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	①日帰り利用者数（人）	2,811	4,546	4,097	8,471	72,902	47,037	125,684	157,165	104,911	55,423	3,707	3,563	590,317	
	②宿泊利用者数（人）	797	2,324	1,862	1,711	2,735	6,500	25,878	43,269	27,109	7,761	2,225	1,855	124,026	
	③入込み数合計（人）	3,608	6,870	5,959	10,182	75,637	53,537	151,562	200,434	132,020	63,184	5,932	5,418	714,343	
平成17年	①日帰り利用者数（人）	2,244	3,842	4,963	9,891	55,893	60,498	146,037	152,247	111,079	57,000	4,510	4,195	612,399	
	②宿泊利用者数（人）	1,586	2,903	1,633	1,129	2,227	5,701	27,058	59,587	29,790	10,053	1,899	1,587	145,153	
	③入込み数合計（人）	3,830	6,745	6,596	11,020	58,120	66,199	173,095	211,834	140,869	67,053	6,409	5,782	757,552	
平成18年	①日帰り利用者数（人）	2,359	4,346	5,670	10,122	57,038	63,603	158,884	169,075	111,272	61,266	3,874	3,871	651,380	
	②宿泊利用者数（人）	1,544	2,478	1,324	952	2,278	4,194	23,005	44,978	15,986	6,416	2,555	1,987	107,697	
	③入込み数合計（人）	3,903	6,824	6,994	11,074	59,316	67,797	181,889	214,053	127,258	67,682	6,429	5,858	759,077	
平成19年	①日帰り利用者数（人）	2,428	3,809	5,237	9,388	54,787	63,479	114,072	143,533	111,572	63,175	4,990	4,289	580,759	
	②宿泊利用者数（人）	1,428	3,129	1,590	1,251	2,319	3,830	20,454	45,973	17,406	5,452	1,692	1,481	106,005	
	③入込み数合計（人）	3,856	6,938	6,827	10,639	57,106	67,309	134,526	189,506	128,978	68,627	6,682	5,770	686,764	
平成20年	①日帰り利用者数（人）	1,807	3,811	6,272	11,284	63,339	49,019	108,762	148,595	103,929	62,043	4,735	4,041	567,637	
	②宿泊利用者数（人）	2,031	2,876	2,174	1,107	1,743	3,517	6,184	25,290	12,201	3,588	1,807	1,610	64,128	
	③入込み数合計（人）	3,838	6,687	8,446	12,391	65,082	52,536	114,946	173,885	116,130	65,631	6,542	5,651	631,765	
平成21年	①日帰り利用者数（人）	1,924	3,421	6,327	9,928	62,940	47,783	108,315	133,944	108,228	57,569	4,846	3,690	548,915	
	②宿泊利用者数（人）	1,943	2,774	1,551	1,624	2,348	3,499	5,833	28,456	14,569	3,464	1,680	1,654	69,395	
	③入込み数合計（人）	3,867	6,195	7,878	11,552	65,288	51,282	114,148	162,400	122,797	61,033	6,526	5,344	618,310	
平成22年	①日帰り利用者数（人）	1,559	2,062	5,267	9,016	62,328	44,897	107,053	150,027	83,415	55,912	3,936	3,293	528,765	
	②宿泊利用者数（人）	2,069	3,735	2,544	2,056	2,395	4,453	5,859	27,863	12,393	3,154	2,331	2,023	70,875	
	③入込み数合計（人）	3,628	5,797	7,811	11,072	64,723	49,350	112,912	177,890	95,808	59,066	6,267	5,316	599,640	
合計前年比		94%	94%	99%	96%	99%	96%	99%	110%	78%	97%	96%	99%	97%	
合計世界遺産登録前比		101%	84%	131%	109%	86%	92%	74%	89%	73%	93%	106%	98%	84%	平成16年比
ピーク年比		93%	85%	112%	100%	109%	73%	62%	83%	75%	87%	97%	91%	79%	平成18年比

表4 五湖園地全体利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	①駐車場利用台数(台)	640	7,186	6,474	10,843	17,082	14,569	8,704	143	65,641	
	②駐車場利用(人)	4,285	70,361	60,777	69,454	98,500	97,692	70,688	1,288	473,045	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	-	17,226	-	-	-	17,226	運行: 8月1日～8月23日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	-	14,522	-	-	-	14,522	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	4,285	70,361	60,777	69,454	113,022	97,692	70,688	1,288	487,567	②+④
平成17年	①駐車場利用台数(台)	490	6,107	8,767	15,034	21,741	17,449	12,043	1,167	82,798	7月世界遺産登録
	②駐車場利用(人)	3,749	59,333	75,344	97,751	122,386	134,254	113,607	9,009	615,433	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	9,904	26,918	10,624	-	-	47,446	運行: 7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	8,349	22,692	8,956	-	-	39,997	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	3,749	59,333	75,344	106,100	145,078	143,210	113,607	9,009	655,430	②+④
平成18年	①駐車場利用台数(台)	627	8,401	10,675	16,259	20,867	16,454	10,234	1,036	84,553	
	②駐車場利用(人)	3,448	74,638	108,043	118,480	119,728	130,036	98,808	7,805	660,986	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	6,793	17,369	6,919	-	-	31,081	運行: 7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	5,726	14,642	5,833	-	-	26,201	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	3,448	74,638	108,043	124,206	134,370	135,869	98,808	7,805	687,187	②+④
平成19年	①駐車場利用台数(台)	1,185	7,096	8,612	12,794	20,304	14,975	9,297	534	74,797	
	②駐車場利用(人)	6,023	61,413	87,562	95,919	118,291	111,504	85,037	4,743	570,492	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	6,707	17,046	5,261	-	-	29,014	運行: 7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	5,654	14,370	4,435	-	-	24,459	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	6,023	61,413	87,562	101,573	132,661	115,939	85,037	4,743	594,951	②+④
平成20年	①駐車場利用台数(台)	1,099	6,563	7,916	10,956	16,541	13,759	8,018	683	65,535	
	②駐車場利用(人)	6,264	54,848	75,046	79,642	95,035	95,323	70,561	4,263	480,982	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	5,293	14,637	4,607	-	-	24,537	運行: 7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	4,462	12,339	3,884	-	-	20,685	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	6,264	54,848	75,046	84,104	107,374	99,207	70,561	4,263	501,667	②+④
平成21年	①駐車場利用台数(台)	559	6,919	7,981	10,898	16,045	13,519	6,349	455	62,725	
	②駐車場利用(人)	2,931	45,026	63,521	68,836	82,844	84,436	50,296	4,219	402,109	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	3,949	10,351	3,988	-	-	18,288	運行: 7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	3,329	8,726	3,362	-	-	15,417	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	2,931	45,026	63,521	72,165	91,570	87,798	50,296	4,219	417,526	
平成22年	①駐車場利用台数(台)	682	6,993	8,730	12,975	18,172	14,159	8,426	470	70,607	
	②駐車場利用(人)	3,430	42,711	62,869	73,914	86,666	84,141	55,448	3,994	413,173	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	4,000	9,773	3,619	-	-	17,392	運行: 7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	3,372	8,239	3,051	-	-	14,662	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	3,430	42,711	62,869	77,286	94,905	87,192	55,448	3,994	427,835	
合計前年比		117%	95%	99%	107%	104%	99%	110%	95%	102%	
合計世界遺産登録前比		80%	61%	103%	111%	84%	89%	78%	310%	88%	平成16年比
合計ピーク年比		99%	57%	58%	62%	71%	64%	56%	51%	62%	平成18年比

表5 高架木道・地上部歩道利用者数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	①高架木道利用者数（人）	-	-	-	-	-	-	-	-	供用前につき無し
	②地上部歩道利用者数（人）	33,866	14,663	32,374	88,512	75,038	54,914	5,318	304,685	退場数（全面閉鎖43日間）
平成17年	①高架木道利用者数（人）	-	-	-	-	-	-	-	-	供用前につき無し
	②地上部歩道利用者数（人）	29,305	42,380	62,263	103,930	107,405	84,341	14,311	443,935	退場数（全面閉鎖9日間）
平成18年	①高架木道利用者数（人）	31,340	38,352	42,897	44,680	47,949	37,540	7,313	250,071	退場数 新高架木道供用（現連山展望台まで）
	②地上部歩道利用者数（人）	46,668	74,653	87,508	106,308	101,894	73,314	10,159	500,504	退場数（全面閉鎖6日間）
平成19年	①高架木道利用者数（人）	24,263	52,858	59,283	40,980	37,651	31,005	5,443	251,483	退場数
	②地上部歩道利用者数（人）	42,048	33,566	37,040	94,758	82,791	60,907	5,828	356,938	退場数（全面閉鎖40日間）
平成20年	①高架木道利用者数（人）	17,919	24,601	33,078	40,303	35,351	31,457	5,342	188,051	退場数
	②地上部歩道利用者数（人）	35,454	48,532	55,795	81,277	74,165	45,988	6,728	347,938	退場数（全面閉鎖17日間）
平成21年	①高架木道利用者数（人）	20,755	25,013	32,870	37,006	34,442	20,868	5,092	176,046	2つのカウンターの入退数の平均 高架木道延長（オコツク展望台まで）
	②地上部歩道利用者数（人）	26,049	35,653	39,360	63,563	55,891	29,391	3,451	253,358	退場数（全面閉鎖12日間）
平成22年	①高架木道利用者数（人）	24,298	36,324	55,271	53,824	43,734	32,559	6,527	252,537	退場数 高架木道延長（湖畔展望台まで）
	②地上部歩道利用者数（人）	17,078	24,710	21,134	44,000	44,352	25,790	3,481	180,545	退場数（全面閉鎖30日間）
前年比 ①高架木道		117%	145%	168%	145%	127%	156%	128%	143%	
前年比 ②地上部歩道		66%	69%	54%	69%	79%	88%	101%	71%	
世界遺産登録前比 ②地上部歩道		50%	169%	65%	50%	59%	47%	65%	59%	平成16年比
ピーク年比 ①高架木道		100%	69%	93%	131%	116%	105%	120%	100%	平成19年比
ピーク年比 ②地上部歩道		37%	33%	24%	41%	44%	35%	34%	36%	平成18年比

表6 シャトルバス利用者数（カムイワッカ以外の利用を含む）

		7月	8月	9月	計	備考
平成17年	シャトルバス利用（人）	9,904	26,918	10,624	47,446	
平成18年	シャトルバス利用（人）	6,793	17,369	6,919	31,081	
平成19年	シャトルバス利用（人）	6,707	17,046	5,261	29,014	カムイワッカ監視員カウント数13,802人
平成20年	シャトルバス利用（人）	5,293	14,637	4,607	24,537	カムイワッカ監視員カウント数12,394人
平成21年	シャトルバス利用（人）	3,949	10,351	3,988	18,288	カムイワッカ監視員カウント数9,378人
平成22年	シャトルバス利用（人）	4,000	9,773	3,619	17,392	カムイワッカ監視員カウント数9,754人
前年比		101%	94%	91%	95%	
ピーク年比		40%	36%	34%	37%	平成17年比

表7 フレペの滝利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年	利用者数（人）	—	—	8,911	17,604	23,779	18,443	11,088	—	—	退場数 調査期間が短いため参考値
平成19年	利用者数（人）	1,365	5,327	11,066	17,757	21,719	14,390	9,275	2,639	83,538	退場数
平成20年	利用者数（人）	976	4,873	9,346	12,348	18,230	12,901	8,503	2,689	69,866	退場数
平成21年	利用者数（人）	1,545	5,292	6,644	11,031	14,677	12,515	5,124	1,560	58,388	入場数 入場者数の方が多いため
平成22年	利用者数（人）	883	3,584	5,083	9,433	13,093	11,789	5,487	1,538	50,889	退場数
前年比		57%	68%	77%	86%	89%	94%	107%	99%	87%	
ピーク年比		65%	67%	46%	53%	60%	82%	59%	58%	61%	平成19年比

表8 知床連山利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成16年	岩尾別（人）	668	3,628	2,490	1,199	270	8,255	下山数
	硫黄山（人）	136	667	354	355	127	1,639	
	湯ノ沢（人）	79	136	221	136	79	651	下山数
	合計（人）	883	4,431	3,065	1,690	476	10,545	
平成17年	岩尾別（人）	589	3,798	2,638	1,720	295	9,040	下山数
	硫黄山（人）		385	311	80		776	
	湯ノ沢（人）	105	111	163	125	52	556	下山数
	合計（人）	695	4,294	3,112	1,925	346	10,372	
平成18年	岩尾別（人）	414	4,386	2,248	1,466	259	8,773	下山数
	湯ノ沢（人）	55	127	172	129	60	543	下山数
	合計（人）	469	4,513	2,420	1,595	319	9,316	
平成19年	岩尾別（人）	417	3,461	2,214	1,130	252	7,474	下山数
	湯ノ沢（人）	89	132	227	129	57	634	下山数
	合計（人）	506	3,593	2,441	1,259	309	8,108	
平成20年	岩尾別（人）	697	3,301	1,873	1,176	309	7,355	下山数
	湯ノ沢（人）	72	131	149	173	60	585	下山数
	合計（人）	769	3,432	2,022	1,349	369	7,940	
平成21年	岩尾別（人）	563	2,635	1,899	1,148	145	6,390	下山数
	湯ノ沢（人）	54	168	199	189	27	637	下山数
	合計（人）	617	2,803	2,098	1,337	172	7,027	
平成22年	岩尾別（人）	481	2,442	1,937	910	271	6,041	下山数
	湯ノ沢（人）	68	101	197	88	33	487	下山数
	合計（人）	549	2,543	2,134	998	304	6,528	
合計前年比		89%	91%	102%	75%	177%	93%	
合計世界遺産登録前比		62%	57%	70%	59%	64%	62%	平成16年比
合計ピーク年比		62%	57%	70%	59%	64%	62%	平成16年比

表 9 羅臼湖登山道利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	利用者（人）	748	1,423	1,536	1,247	681	—	5,635	下山数 6月の設置が11日長い
平成17年	利用者（人）	598	1,321	2,302	1,672	1,394	66	7,353	下山数 6月の設置が11日長い
平成18年	利用者（人）	312	2,130	1,662	1,287	448	25	5,864	下山数
平成19年	利用者（人）	179	1,434	1,568	938	609	2	4,730	下山数
平成20年	利用者（人）	438	937	1,173	1,024	669	—	4,241	下山数
平成21年	利用者（人）	268	927	1,293	1,065	257	—	3,810	下山数（設置期間：6/18～10/19）
平成22年	利用者（人）	268	810	1,095	767	275	—	3,215	下山数（設置期間：6/18～10/19）
前年比		100%	87%	85%	72%	107%	—	84%	
世界遺産登録前比		36%	57%	71%	62%	40%	—	57%	平成16年比
ピーク年比		45%	61%	48%	46%	20%	—	44%	平成17年比

表 10 熊越えの滝歩道利用者数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年	利用者数（人）	—	153	324	393	229	176	12	1,287	下山数
平成19年	利用者数（人）	—	221	266	330	199	246	14	1,276	下山数
平成20年	利用者数（人）	41	203	304	274	267	290	—	1,379	下山数
平成21年	利用者数（人）	29	154	290	380	320	114	—	1,287	下山数（設置期間：5/19～10/19）
平成22年	利用者数（人）	27	251	240	414	232	103	—	1,267	下山数（設置期間：5/25～10/27）
前年比		93%	163%	83%	109%	73%	90%	—	98%	

表 11 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成16年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	30	151	110	56	15	362	観音岩カウンター
	知床沼方面入山者 (B)	12	94	50	21	12	189	ウナキベツカウンター
	知床岬方面 (A-B)	18	57	60	35	3	173	
平成17年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	34	134	144	45	0	357	世界遺産登録
	知床沼方面入山者 (B)	18	33	69	21	3	144	
	知床岬方面 (A-B)	16	101	75	24	0	213	
平成18年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	36	120	134	28	14	332	
	知床沼方面入山者 (B)	43	39	88	22	1	193	
	知床岬方面 (A-B)	0	81	46	6	13	139	
平成19年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	6	117	97	26	10	256	設置期間：5/31～11/26
	知床沼方面入山者 (B)	24	31	70	15	0	140	設置期間：5/31～11/11
	知床岬方面 (A-B)	0	86	27	11	10	116	
平成20年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	27	111	194	35	12	379	設置期間：5/13～11/27
	知床沼方面入山者 (B)	32	14	42	21	0	109	5月の利用者数： (A) 6名、(B) 11名
	知床岬方面 (A-B)	0	97	152	14	12	270	11月は利用者無し
平成21年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	25	96	103	45	6	275	設置期間：5/14～11/4
	知床沼方面入山者 (B)	42	9	39	29	0	119	5月の利用者数： (A) 25名、(B) 40名
	知床岬方面 (A-B)	0	87	64	16	6	156	11月は利用者無し
平成22年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	10	91	95	25	6	227	設置期間：5/10～11/5
	知床沼方面入山者 (B)	21	21	41	24	0	107	5月の利用者数： (A) 8名、(B) 22名
	知床岬方面 (A-B)	0	70	54	1	6	120	11月は利用者無し
前年比 知床沼方面B		50%	233%	105%	83%	100%	90%	
前年比 知床岬方面A-B		100%	80%	84%	6%	100%	77%	
世界遺産登録前比 知床沼方面B		0%	74%	108%	5%	50%	63%	平成16年比
世界遺産登録前比 知床岬方面A-B		0%	123%	90%	3%	200%	69%	平成16年比

※知床岬方面がマイナス値になる場合は0に置き換えている

表 12 ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数

	動力船			シーカヤック			徒歩			1日平均計	備考	
	グループ	人数	1日平均	グループ	人数	1日平均	グループ	人数	1日平均	人数	期間	日数
平成16年	14	69	6.3	5	28	2.5	9	23	2.1	10.9	8/6～16	11
平成17年	8	39	4.9	5	15	1.9	5	26	3.3	10.0	8/12～19	8
平成18年	10	40	5.7	4	34	4.9	5	15	2.1	12.7	8/11～17	7
平成19年	11	61	8.7	7	22	3.1	5	13	1.9	13.7	8/11～17	7
平成20年	6	17	3.4	2	15	3.0	2	17	3.4	9.8	8/14～18	5
平成21年	6	18	2.6	4	4	0.6	2	6	0.9	4.0	8/9～15	7
平成22年	6	27	3.4	3	9	1.1	5	21	2.6	7.1	8/7～14	8
前年比	100%	150%	131%	75%	225%	197%	250%	350%	306%	178%		
世界遺産登録前比	43%	39%	54%	60%	32%	44%	56%	91%	126%	65%	平成16年比	

表 13 ウトロ観光船利用者数（観光船業者 8 社中、3 社のデータ）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	ウトロ地区（人）	1,986	14,462	51,377	52,690	71,453	38,094	17,306	247,368	
	アンケート回収率勘案値（人）	2,309	16,816	59,741	61,267	83,085	44,295	20,123	287,637	乗船定員989名/1145名=0.86
平成20年	ウトロ地区（人）	2,028	22,269	42,049	47,962	50,278	39,989	23,359	227,934	
	アンケート回収率勘案値（人）	2,386	26,199	49,469	56,426	59,151	47,046	27,481	268,158	乗船定員946名/1114名=0.85
平成21年	ウトロ地区（人）	608	16,063	32,169	32,664	46,872	31,226	11,315	170,917	
	アンケート回収率勘案値（人）	741	19,589	39,230	39,834	57,161	38,080	13,799	208,435	乗船定員955名/1163名=0.82
平成22年	ウトロ地区（人）	1,037	13,858	27,236	33,906	50,748	26,477	17,195	170,457	
	アンケート回収率勘案値（人）	1,280	17,109	33,625	41,859	62,652	32,688	21,228	210,441	乗船定員943名/1163名=0.81
前年比		173%	87%	86%	105%	110%	86%	154%	101%	

※観光船事業者全船舶の合計定員と、回収できた事業者の船舶の合計定員から、回収率を算定

表 14 羅臼観光船利用者数（観光船業者 4 社中、4 社のデータ）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成19年	羅臼地区（人）	無	1,031	128	383	74	316	355	1,225	577	94	24	0	4,207	
	アンケート回収率勘案値（人）	無	1,031	128	11	74	316	355	1,225	577	94	24	0	3,835	乗船定員383名/383名=1.0
平成20年	羅臼地区（人）	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	未	未	8,555	
	アンケート回収率勘案値（人）	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	0	0	8,555	乗船定員357名/357名=1.0
平成21年	羅臼地区（人）	10	541	389	128	661	580	1,370	2,329	1,157	194	未	未	7,359	
	アンケート回収率勘案値（人）	10	541	389	128	661	580	1,370	2,329	1,157	194	未	未	7,359	乗船定員344名/344名=1.0
平成22年	羅臼地区（人）	25	1,793	486	64	599	807	1,618	3,829	1,437	472	未	未	11,130	
	アンケート回収率勘案値（人）	25	1,793	486	64	599	807	1,618	3,829	1,437	472	未	未	11,130	乗船定員344名/344名=1.0
前年比		250%	331%	125%	50%	91%	139%	118%	164%	124%	243%	—	—	151%	

※観光船事業者全船舶の合計定員と、回収できた事業者の船舶の合計定員から、回収率を算定

表 15 シーカヤック利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	シーカヤック利用（人）	15	21	39	162	324	108	2	671	
	アンケート回収率勘案値（人）	15	21	39	162	324	108	2	671	4社/4社=1.0
平成20年	シーカヤック利用（人）	15	25	23	227	448	246	40	1,024	
	アンケート回収率勘案値（人）	15	25	23	227	448	246	40	1,024	4社/4社=1.0
平成21年	シーカヤック利用（人）	3	79	86	207	481	227	9	1,092	
	アンケート回収率勘案値（人）	3	79	86	207	481	227	9	1,092	4社/4社=1.0
平成22年	シーカヤック利用（人）	0	71	81	225	527	167	13	1,084	
	アンケート回収率勘案値（人）	0	71	81	225	527	167	13	1,084	4社/4社=1.0
前年比		0%	90%	94%	109%	110%	74%	144%	99%	

表 16 知床自然センター駐車台数

		7月	8月	9月	計	備考
平成17年	駐車台数（台）	10,243	22,870	9,702	42,815	
平成18年	駐車台数（台）	7,633	18,516	8,047	34,196	
平成19年	駐車台数（台）	8,388	18,589	7,839	34,816	
平成20年	駐車台数（台）	7,014	16,071	7,122	30,207	
平成21年	駐車台数（台）	6,496	14,260	5,079	25,835	
平成22年	駐車台数（台）	5,699	14,007	6,291	25,997	
前年比		88%	98%	124%	101%	
ピーク年比		56%	61%	65%	61%	平成17年比

表 17 ダイナビジョン利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	個人利用者数（人）	141	675	714	668	2,129	2,254	4,190	4,412	2,592	1,665	1,413	206	21,059	
	団体利用者数（人）	231	1,445	586	1,214	3,178	4,545	5,974	2,678	2,912	2,682	1,373	327	27,145	
	利用者数合計（人）	372	2,120	1,300	1,882	5,307	6,799	10,164	7,090	5,504	4,347	2,786	533	48,204	
平成17年	個人利用者数（人）	204	699	608	573	1,732	2,302	3,908	6,191	4,857	4,127	1,650	588	27,439	
	団体利用者数（人）	222	912	426	454	1,910	3,779	3,309	2,408	8,432	12,051	5,187	3,674	42,764	
	利用者数合計（人）	426	1,611	1,034	1,027	3,642	6,081	7,217	8,599	13,289	16,178	6,837	4,262	70,203	
平成18年	個人利用者数（人）	893	1,295	1,324	983	2,953	3,593	3,744	5,941	4,203	3,837	1,289	830	30,885	
	団体利用者数（人）	1,741	2,195	3,593	3,536	5,599	8,039	3,612	2,948	9,089	10,945	3,774	877	55,948	
	利用者数合計（人）	2,634	3,490	4,917	4,519	8,552	11,632	7,356	8,889	13,292	14,782	5,063	1,707	86,833	
平成19年	個人利用者数（人）	357	713	712	990	2,395	2,493	3,395	3,667	2,810	2,601	513	714	21,360	
	団体利用者数（人）	746	1,177	1,018	1,510	5,403	5,532	6,211	1,565	8,209	7,131	2,857	147	41,506	
	利用者数合計（人）	1,103	1,890	1,730	2,500	7,798	8,025	9,606	5,232	11,019	9,732	3,370	861	62,866	
平成20年	個人利用者数（人）	148	465	541	541	1,646	2,274	3,103	3,899	2,581	2,003	736	425	18,362	
	団体利用者数（人）	436	973	981	891	3,640	4,320	2,753	2,040	3,696	5,323	2,174	1,073	28,300	
	利用者数合計（人）	584	1,438	1,522	1,432	5,286	6,594	5,856	5,939	6,277	7,326	2,910	1,498	46,662	
平成21年	個人利用者数（人）	215	338	563	353	1,003	1,107	2,722	2,117	1,964	1,408	489	305	12,584	
	団体利用者数（人）	214	561	1,643	2,272	1,552	2,034	2,409	684	2,569	3,611	1,423	515	19,487	
	利用者数合計（人）	429	899	2,206	2,625	2,555	3,141	5,131	2,801	4,533	5,019	1,912	820	32,071	
平成22年	個人利用者数（人）	273	284	515	328	767	1,061	1,830	1,963	1,842	928	650	192	10,633	
	団体利用者数（人）	161	518	687	535	1,131	1,388	2,735	813	3,427	2,294	433	176	14,298	
	利用者数合計（人）	434	802	1,202	863	1,898	2,449	4,565	2,776	5,269	3,222	1,083	368	24,931	
合計前年比		101%	89%	54%	33%	74%	78%	89%	99%	116%	64%	57%	45%	78%	
合計世界遺産登録前比		117%	38%	92%	46%	36%	36%	45%	39%	96%	74%	39%	69%	52%	平成16年比
合計ピーク年比		16%	23%	24%	19%	22%	21%	62%	31%	40%	22%	21%	22%	29%	平成18年比

表 18 羅臼ビジターセンター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	利用者数（人）	83	269	296	379	603	1,170	1,346	1,770	1,106	1,203	257	144	8,626	
平成19年	利用者数（人）	141	307	334	—	1,218	4,805	5,403	6,343	4,327	3,034	567	287	26,766	5月新築・開館
平成20年	利用者数（人）	227	548	572	724	2,205	2,797	5,431	9,579	5,028	3,690	357	275	31,433	
平成21年	利用者数（人）	173	744	1,000	836	4,256	3,735	5,983	8,405	6,451	2,544	514	183	34,824	
平成22年	利用者数（人）	170	565	140	679	3,076	2,897	5,841	8,747	5,103	2,297	415	250	30,180	
前年比		98%	76%	14%	81%	72%	78%	98%	104%	79%	90%	81%	137%	87%	
新築前比		205%	210%	47%	179%	510%	248%	434%	494%	461%	191%	161%	174%	350%	平成18年比

表 19 知床世界遺産センター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成21年	利用者数（人）	—	—	—	2,237	9,622	7,231	11,273	14,767	12,950	6,602	2,605	1,407	68,694	4/19オープン
平成22年	利用者数（人）	2,506	2,518	3,323	3,864	9,504	10,103	17,854	22,759	15,306	8,426	2,746	1,111	100,020	
前年比		—	—	—	173%	99%	140%	158%	154%	118%	128%	105%	79%		

表 20 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成21年	利用者数（人）	—	—	—	—	—	880	1,596	1,999	1,858	1,151	—	—	7,484	6月7日開館 11月～1月閉館
平成22年	利用者数（人）	—	146	52	154	889	894	1,194	2,017	1,324	900	—	—	7,570	11月～1月閉館
前年比		—	—	—	—	—	102%	75%	101%	71%	78%	—	—		

表 21 森林センター・ボランティア活動施設利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	森林センター（人）	23	0	19	0	0	23	42	18	20	17	24	10	196	
平成19年	森林センター（人）	12	20	18	0	0	23	50	27	16	23	35	0	224	
平成20年	森林センター（人）	25	0	17	0	0	23	19	0	0	19	18	18	139	
	ボランティア活動施設（人）					181	237	811	758	445	112	7	0	2,551	5月新築・開館
平成21年	ボランティア活動施設（人）	0	21	12	112	126	354	641	1,061	471	201	94	55	3,148	1-3月は工事のため イベント利用者のみの利用
平成22年	ボランティア活動施設（人）	96	71	79	101	541	626	1,086	2,243	723	626	469	538	7,199	
前年比		—	338%	658%	90%	429%	177%	169%	211%	154%	311%	499%	978%	229%	

表 22 知床博物館利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	知床博物館（人）	291	830	805	939	1,246	2,010	2,508	2,551	1,292	943	615	308	14,338	
平成19年	知床博物館（人）	355	565	678	1,166	943	1,017	2,129	1,940	1,128	1,110	898	387	12,316	
平成20年	知床博物館（人）	454	684	531	868	1,027	1,597	2,308	1,615	1,157	889	781	375	12,286	
平成21年	知床博物館（人）	323	707	537	889	770	1,097	2,315	1,241	1,356	947	619	298	11,099	
平成22年	知床博物館（人）	236	412	684	676	869	980	2,600	1,651	1,215	791	430	461	11,005	
前年比		73%	58%	127%	76%	113%	89%	112%	133%	90%	84%	69%	155%	99%	